

神戸大学大学院  
海事科学研究科

海洋安全システム系

**FACT BOOK**

**2016**

海洋安全システム系は、海事科学研究科の改組に伴い、2013年4月に設置された教員組織であって、海洋安全システム科学科の教育を主体的に担ってきた。2017年4月には海洋安全システム科学講座が開設され、同系はその役割を終える。また、2013年4月に入学した海洋安全システム科学科の1期生は、2017年3月に卒業し、同年4月からは海事科学研究科の海洋安全システム科学コースにその半数が進学する。

このような節目の時期を迎え、海洋安全システム系のこの4年間の活動をここにまとめることにした。次年度からは単年度ごとの活動の記録をまとめ、公表していくつもりである。

海洋安全システム系主任

2017.3.31.

## 0. 構成員一覧

1. 2016年度学部特別研究について（タイトルと指導教員）
2. 修士論文（2013年度から2016年度）
3. 博士論文（2013年度から2016年度）
4. 研究業績（2013年度から2016年度）
5. 研究発表（2013年度から2016年度）
6. 国際会議や研究集会の主催・共催
7. 外部資金獲得状況（代表者）（2013年度から2016年度）
8. 外部資金獲得状況（分担者）（2013年度から2016年度）
9. 招聘した外国人研究者（2013年度から2016年度）
10. 特記事項

## 0. 構成員一覧

この4年間の間に教授が3名退職した。准教授3名と講師1名、助教1名が新たに構成員となった。

### 教授

岡村 秀雄、 小田 啓二、 蔵岡 孝治、 香西 克俊、 佐藤 正昭、  
嶋田 博行、 古山 雄一、 三村 治夫、 山内 知也

### 准教授

上田 好寛、 大澤 輝夫、 ゴメス クリストファー (2017.2.1.着任)、  
笹 健児、 谷池 晃、 橋本 博公 (2014.4.1.着任)、 林 美鶴、  
堀田 弘樹 (2016.10.1.着任)、 山地 一代

### 講師

影山 康夫、 首藤 信通 (2014.2.1.着任)

### 助教

浅岡 聡、 金崎 真聡 (2015.7.1.着任)

### 退職者

小林 英一 (2016.3.31.)、 塩谷 茂明 (2016.3.31.)、  
福士 恵一 (2016.3.31.)

## 1. 2016年度学部特別研究について (タイトルと指導教員)

- ・原子力防災体制における船舶を利用した初動対応円滑化の提案 (小田)
- ・移流拡散モデルを用いた発災した原子力発電所周辺を航行する船舶乗組員への線量評価 (金崎)
- ・レーザー駆動陽子線加速用水素クラスターターゲットの光学顕微鏡によるサイズ計測 (金崎)
- ・ポリビニルアルコール中ヒドロキシル基の赤外分光法による定量分析 (山内)
- ・PADC検出器の放射線感受性領域に見られる段階的な損傷過程 (山内)
- ・実効電荷を考慮した局所線量分布の現代的更新とその検出閾値への活用 (山内)
- ・銅イオンビーム照射により微小領域に導電性を導入したPCの導電率測定とRBS分析 (谷池)
- ・重水素イオンで照射した重水素化ポリエチレン付きベリリウム試料から生じるガンマ線測定 (谷池)
- ・ $\text{Li}_2\text{TiO}_3$ の試料密度と曝露雰囲気による $\text{CO}_2$ 吸収への影響 (古山)
- ・様々な雰囲気下での長時間曝露による $\text{Li}_2\text{ZrO}_3$ の $\text{CO}_2$ 吸収特性 (古山)
- ・ディーゼル機関から排出されたPM中の非可溶成分のRBS分析 (古山)
- ・高透過性有機-無機ハイブリッド二酸化炭素分離膜の作製 (蔵岡)
- ・重合性ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製 (蔵岡)

- ・平行平板 (40 cm×40 cm) の間隙が3 cm以下になると向き合う各面の中心部に着生するキブリス幼生の個体数が減少する (三村)
- ・航行船と海岸線の距離を指標としたフジツボ幼生の種及び個体数の分布 (三村)
- ・フライアッシュを用いた人工石による硫化物イオンの吸着能評価 (浅岡・岡村)
- ・マニュアル反応ストロブ課題について (嶋田)
- ・数量化理論第II類によるテレビ番組の視聴者の分類 (首藤)
- ・日本沿岸域における 衛星及び現場極値風速の比較 (香西)
- ・現場観測データとメソ気象モデルWRFを用いたマイクロ波放射計AMSR2風速の精度検証 (香西)
- ・MAX-DOAS法と領域化学輸送モデルによる対流圏NO<sub>2</sub>鉛直構造の解析 (山地)
- ・関西都市域におけるPM<sub>2.5</sub>とその成分を対象とした大気質モデルの再現性評価 (山地)
- ・ポンド南側ドルフィンに新規設置したCTDの観測データ変動要因の解析 (林)
- ・深江丸で計測されているクロロフィルa濃度の補正式 (林)
- ・海中中の二酸化炭素濃度の推定法の検討~瀬戸内海・紀伊水道・豊後水道・四国南方海域~ (林)
- ・Comparison of objective analysis and sea surface temperature datasets used for WRF simulation (大澤)
- ・水平照射型ドップラーライダーの精度検証 (大澤)
- ・日本周辺海域における海面水温と風車ハブ高度風速の長期変動解析 (大澤)
- ・MCP法を用いた波崎における風速の長期変動解析 (大澤)
- ・ブイ観測-数値計算併用手法による岩手県洋野町沖の洋上風況調査とその精度検討 (大澤)
- ・CFDを用いた船舶の横揺れ減衰運動の推定 (橋本)
- ・粒子法と有限要素法を組み合わせた流体構造連成解析法の構築 (橋本)
- ・浅水槽での送風機利用に関する検討 (橋本)
- ・PTVデータからの圧力場推定に関する研究 (橋本)
- ・荒天航海時におけるばら積み貨物船の主機特性に関する基礎的研究 (笹)
- ・大型フェリーでの荒天航海時の船体運動による甲板加速度への影響に関する研究 (笹)
- ・係留限界から見た外洋性港湾における短距離フェリーの最適運航に関する基礎的研究 (笹)
- ・荒天航海時におけるばら積み貨物船の操舵状況に関する分析 (笹)
- ・ウェザールーティングの精度向上から見た荒天航海時の波浪シミュレーションについて (笹)
- ・西日本周辺海域における船上大気質観測と自船排ガス影響について (山地)
- ・深江丸船上観測による日本周辺太平洋沿岸海域における PM<sub>2.5</sub> 濃度変動解析 (山地)
- ・いわゆる「秘書問題」の一般化とその解法 (影山)
- ・カフェイン酸の酸化機構の解明 (堀田：奈良教育大学)
- ・ポリフェノールの光化学特性について (堀田：奈良教育大学)

## 2. 修士論文 (2013 年度から 2016 年度)

### 2016 年度 タイトル (指導教員)

- ・キャピラリーゾーン電気泳動法による塩中の主成分イオン定量法の開発 (岡村・浅岡)
- ・播磨灘における底泥間隙水中の硫化物イオン濃度分布 (浅岡・岡村)
- ・海上移動型放射線モニタリングシステムにおける船舶職員の放射線防護に関する研究 (小田)
- ・有機-無機ハイブリッド油水分離膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)

- ・ シリカ/セルロース有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ 有機-無機ハイブリッド二酸化炭素分離膜の作製と気体透過特性 (蔵岡)
- ・ 層状化合物を分散した有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその膜特性評価 (蔵岡)
- ・ ストループ課題におけるマニュアル反応の特異性 (嶋田)
- ・ 航行域で採取したフジツボキプリス幼生の分類と青色走光性を利用した着生阻止実験 (三村)
- ・ 重イオン弁別型飛跡検出器開発のための PET の特性評価 (山内)
- ・ 赤外顕微鏡を用いた高分子中イオントラックの分析 (山内)
- ・ PADC 検出器中に存在するヒドロキシル基の定量分析とその化学エッチング特性 (山内)
- ・ Development of a buoy-simulation hybrid method for offshore wind resource assessment (大澤)
- ・ 沿岸域海上風況実測データを用いた WRF 計算風速のバイアス特性の検討 (大澤)
- ・ 重イオンビームで照射したポリカーボネートの導電性に関する基礎研究 (谷池)
- ・ 核融合プラズマ診断のための損失アルファ粒子誘起ガンマ線計測技術開発 (谷池)
- ・ 静止海色衛星データを用いた大阪湾における赤潮動態及び気象海象要因の解析 (林)
- ・ 淀川下流で貝毒を引き起こす *Alexandrium tamarense* に関する環境場の解析 (林)
- ・ 水の電気分解を利用した小型脱塩セルによる脱塩の選択性について (堀田: 奈良教育大学)
- ・ Ballistic Impact Crater Modelling Using UAV and Structure from Motion Technology – Canterbury University (ゴメス&ケネディー)
- ・ The evolution and environmental history of Wainono lagoon, South Canterbury – Canterbury University (ハート&ゴメス)

## 2015 年度

- ・ 西日本沿岸海水中に残留する溶存態銅の挙動に関する研究 (岡村・浅岡)
- ・ 蛍光飛跡検出素子をベースとした個人中性子線量計用ラジエータの設計 (小田)
- ・ ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ ポリヒドロキシウレタンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ マニュアル反応時の逆ストロープ効果 (1): 知覚ベースと記憶ベース反応の違い (嶋田)
- ・ マニュアル反応時の逆ストロープ効果 (2): 潜在的、顕在的反応と課題切り替え (嶋田)
- ・ プライミング効果とストロープ効果: コンフリクト適応効果との関連性 (嶋田)
- ・ 粒子状物質中の非可溶成分に含まれる硫黄の分析 (古山)
- ・ 顕微赤外分光法によるポリイミド薄膜に対する重イオン応答特性 (山内)
- ・ ポリイミド系エッチング型飛跡検出器の重イオンに対する検出閾値 (山内)
- ・ Accuracy Comparison of offshore wind maps created by using WRF with different input datasets (大澤)
- ・ WRF による沿岸海上風シミュレーション時の四次元データ同化適用手法に関する検討 (大澤)
- ・ 機能性高分子作製のためのその場イオンビームグラフト重合法の基礎研究 (谷池)
- ・ 核融合プラズマ診断に用いるガンマ線カメラのためのコリメータ開発研究 (谷池)
- ・ 南海トラフ巨大地震津波発生により発生する底質の巻き上げとその輸送 (林)

## 2014 年度

- ・ Environmental fate of copper in the seawaters of Osaka Bay, Japan (岡村・浅岡)
- ・ クレイ/ポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) ナノコンポジット膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ 層状複水酸化物/ポリビニルアルコール有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその特性評価 (蔵岡)
- ・ 有機-無機ハイブリッドオレフィン分離膜の作製と気体透過特性 (蔵岡)
- ・ 架橋構造を導入したシリカ/キトサン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその特性評価 (蔵岡)
- ・ 潜在記憶と顕在記憶との関係 (嶋田)
- ・ 課題切り替えの検査法への応用 (嶋田)
- ・ 固体ブランケット候補材料  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  の  $\text{CO}_2$  吸収における雰囲気中水蒸気の影響 (古山)
- ・ 高分子系飛跡検出器中に形成されるプロトン及び重イオントラックの化学構造と応答特性 (山内)
- ・ ポリエチレンテレフタレートの重イオンに対する応答特性 (山内)
- ・ 衛星搭載散乱計と WRF による高度補正を組み合わせた風車ハブ高度風速推定手法の検証 (大澤)
- ・ メソ気象モデル WRF を用いた複数の海上風推定手法の比較検討 (大澤)
- ・ WRF 計算値を用いた沿岸海域における水平風速勾配に関する研究 (大澤)
- ・ マイクロイオンビームを用いた放射線グラフト重合法におけるグラフト鎖配置に関する研究 (谷池)
- ・ 高エネルギーガンマ線カメラ開発のための核反応生成ガンマ線計測技術に関する研究 (谷池)
- ・ 淀川感潮域における海水遡上に対する支配的な物理現象の寄与～数値シミュレーションによる解析～ (林)

## 2013 年度

- ・ 次世代船舶燃料由来排ガス微粒子に吸着する有害物質に関する研究 (岡村・浅岡)
- ・ 次世代船舶燃料由来排ガス微粒子の変異原性に関する研究 (岡村・浅岡)
- ・ ピリチオン防汚剤と銅イオンが塩水性甲殻類に及ぼす影響 (岡村・浅岡)
- ・ イメージングプレートを用いた Cs-137 と Sr-90(Y-90)の識別 (小田)
- ・ 架橋構造を導入したシリカ/デンプン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ 有機修飾層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価 (蔵岡)
- ・ シリカ/ポリカーボネートジオール有機-無機ハイブリッドハードコート of 作製と特性評価 (蔵岡)
- ・ バイオガス利用を目的とした有機-無機ハイブリッド気体分離膜の作製と気体透過特性 (蔵岡)
- ・ 日本語のタイピングスキル習得プロセス (嶋田)
- ・ 拡張クロスモーダルストループ課題 (嶋田)

- ・コンフリクト適応効果（嶋田）
- ・ストループ課題で見られるノイズ効果（嶋田）
- ・大気雰囲気下における固体ブランケット候補材料  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  の  $\text{CO}_2$  吸収特性（古山）
- ・耐塩性海洋微生物 *Bacillus* sp. TSK2 株の  $\text{Mg}^{2+}$  要求性と閉鎖性海域浄化システムへの利用（三村）
- ・PADC 検出器中イオントラック内に形成されるヒドロキシル基の役割（山内）
- ・高閾値飛跡検出器としてのエンジニアリングプラスチックの応用可能性（山内）
- ・タンデム加速器で生成された金イオンおよび中性粒子ビーム電流のガス厚依存性に関する研究（谷池）

### 3. 博士論文（2013 年度から 2016 年度）

#### 2016 年度

- ・Flood Modeling and Disaster Risk in the Cuvelai Basin, Namibia - Canterbury University（ゴメス）
- ・Tsunami Preparedness and Vulnerability in the Mentawai Islands, Indonesia - Canterbury University（ゴメス）
- ・教育メディアとしての 3 次元映像の特性（嶋田）

#### 2015 年度

#### 2014 年度

- ・日本語のタイピングスキルトレーニング 博士(学術)（嶋田）

#### 2013 年度

- ・ポリアリルジグリコールカーボネート検出器中に形成されるプロトン及び重イオントラックの構造（山内）
- ・A Study on Precise Measurements and On-Line Diagnosis for Laser-Accelerated Ion Beams（山内）
- ・Offshore wind resource assessment using synthetic aperture radar and meteorological mesoscale model（大澤）

### 4. 研究業績（2013 年度から 2016 年度）

#### 2016 年度

（岡村）

- ・Vladimir P. Beskoski, Katsuya Yamamoto, Atsushi Yamamoto, Hideo Okamura, Mitsuru Hayashi, Takeshi Nakano, Chisato Matsumura, Keiichi Fukushi, Shinpei Wada, Hideyuki Inui (2017) Distribution of perfluoroalkyl compounds in Osaka Bay and coastal waters of Western Japan. *Chemosphere* 170: 260-265.

（蔵岡）

- ・鶴見達明、蔵岡孝治、辻本智雄、福岡弘直：シリカ/ポリヒドロキシウレタン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその膜特性、日本包装学会誌 25 (3)、151-157 (2016).
- ・【総説】蔵岡孝治：環境に配慮した有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその特性、工業材料、64 (10)、48-52 (2016).

（香西）

- ・Sea surface wind speed observations with SENTINEL-1 in coastal waters, Yuko Takeyama, Teruo Ohsawa, Susumu Shimada, Katsutoshi Kozai, Tetsuya Kogaki, European Meteorological Society

Annual Meeting, EMS2016-545, 2016, Trieste, Italy

・人工衛星搭載マイクロ波散乱計を用いた風力エネルギー資源量推定における長期変動解析、竹山優子、大澤輝夫、香西克俊、嶋田進、小垣哲也、風力エネルギー学会誌、Vol.40, No.3, pp43-48.

・大澤輝夫、香西克俊、中村聡志、川口浩二、嶋田進、竹山優子、小垣哲也、2016 : NEDO 洋上風況マップにおける WRF 計算精度、第 38 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, pp.225-228.

・市川弘人、大澤輝夫、香西克俊、嶋田進、竹山優子、小垣哲也、中村聡志、川口浩二、2016 : 波崎海洋研究施設におけるブイ観測・数値シミュレーション併用型洋上風況調査手法の精度検証 (第 2 報)、第 38 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, pp. 467-470.

(嶋田)

・芦高 勇気, 嶋田博行, 箱田裕司 (2016). 「記憶表象に基づくキー押し反応マッピングの操作」 基礎心理学研究 34 巻 2 号 p.310

(古山)

・ Yuichi Furuyama, Ryoma Nakamori, Sho Nagai, Akira Taniike, Hiroaki Samata, Akira Kitamura “CO<sub>2</sub> absorption characteristics of a blanket candidate material Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> under exposure to different gas mixture” Nuclear Materials and Energy, Vol.9, pp.227-232 (2016).

・ Takuya Wada, Shota Konno, Satoshi Nakamoto, Hiromasa Takeno, Yuichi Furuyama, Akira Taniike “Variation in Emission and Energy Recovery Concerning Incident Angle in a Scheme Recovering High Energy Ions by Secondary Electrons” Plasma Fusion Res., Vol.11, No.2405029, pp. 1-4 (2016)

・ A. Kitamura, E. F. Marano, A. Takahashi, R. Seto, T. Yokose, A. Taniike, Y. Furuyama “Heat evolution from zirconia-supported Ni-based nano-composite samples under exposure to hydrogen isotope gas” Proc. JCF16 (2016) 1-16.

・ A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, A. Taniike, Y. Furuyama “Effect of Minority Atoms of Binary Ni-Based Nano-Composites on Anomalous Heat Evolution under Hydrogen Absorption” J. Condensed Matter Nucl. Sci. 19 (2016) 135-144.

・ A. Kitamura, E. F. Marano, A. Takahashi, R. Seto, T. Yokose, A. Taniike, Y. Furuyama “Heat evolution from zirconia-supported Ni-based nano-composite samples under exposure to hydrogen isotope gas” Proc. 16th Meeting of Japan CF Research Society, pp. 1-16 (2016).

(三村)

・ Haruo Mimura, Kazuya Kawai, Akiyoshi Nakajima, Kohei Hirono, Yoshiji Yano, Noriyuki Endo, Populations of barnacle larvae inhabiting around sailing routes in southwestern Japan and prevention experiment of settlement by LED blue light emission, The 15th Annual Conference & 4th President Meeting, Asia Maritime and Fisheries Universities Forum 2016. Pp. 63-66. October 13, 2016 - October 15, 2016 (National Taiwan Ocean University, No.2, Pei-ning Road, Keelung, Taiwan) (三村)

・ Haruo Mimura, Microbial Survivability in Encyclopedia of Estuaries, Encyclopedia of Earth Sciences Series (Editor: Michael J. Kennish, Department of Marine and Coastal Sciences at Rutgers University, New Jersey, USA). pp. 434-436 in 790 pages, Springer Netherlands (2016).

DOI: 10.1007/978-94-017-8801-4\_367, Print ISBN 978-94-017-8800-7, Online ISBN: 978-94-017-8801-4.

・ 三村治夫, 特集「バラスト水の処理技術の展開」, (解説)「バラスト水中の微生物」, 日本海水学会誌, 70 巻 1 号, pp. 10-15 (2016)



(山内)

- ・楠本多聞、寺下佳孝、森豊、金崎真聡、小田啓二、山内知也、小平聡、北村尚、菅田義英、藤乗幸子、ジアット EL バイタ、ニコラアーバ、クアンタンラフィ、レミバリオン、ジョンエマニュエルグロエ、ミッシェルフロム：高感度飛跡検出器 PADC 中に形成されるイオントラックの特徴、放射線 42, 3, 73-82 (2017)
- ・川嶋元、小平聡、井原大輔、安田仲宏、楠本多聞、森豊、山内知也、小林啓一、ベントンエリック：分子長の異なるモノマーから合成した固体飛跡検出器の開発と重粒子線による損傷解析、放射線 42, 3, 83-90 (2017)
- ・Tamon KUSUMOTO, Yutaka MORI, Masato KANASAKI, Keiji ODA, Satoshi KODAIRA, Yoshihide HONDA, Sachiko TOJO, Rémi BARILLON, Tomoya Yamauchi, Sudden increase of the radiation chemical yield for loss of carbonate ester in PADC detector where the track overlapping of 28 MeV electrons becomes significant, JPS Conference Proceedings, Proceedings of International Symposium on Radiation Detectors and Their Uses (ISR2016) 11, 010001, 1-6 (2016)
- ・Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Ryunosuke Ikenaga, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Rémi Barillon, Tomoya Yamauchi : Radiation chemical yields for the losses of typical functional groups in PADC films for high energy protons registered as unetchable tracks, Radiation Measurements 87, 35-42 (2016)

(上田)

- ・Y. Ueda, S. Kawashima; Stability of stationary solutions for the non-isentropic Euler-Maxwell system in the whole space. Bull. Braz. Math. Soc. (N.S.) 47 (2016), no. 2, 787–797.
- ・R. Racke, Y. Ueda; Dissipative structures for thermoelastic plate equations in  $\mathbb{R}^n$ . Adv. Differential Equations 21 (2016), no. 7-8, 601–630.
- ・S. Kawashima, Y. Ueda; Mathematical entropy and Euler-Cattaneo-Maxwell system. Anal. Appl. (Singap.) 14 (2016), no. 1, 101–143.

(大澤)

- ・竹山優子, 大澤輝夫, 香西克俊, 嶋田進, 小垣哲也, 2016 : 人工衛星搭載マイクロ波散乱計を用いた風力エネルギー資源量推定における長期変動解析, 風力エネルギー, Vol. 40, No. 3, pp. 43-48.
- ・Susumu Shimada, Yuko Takeyama, Tetsuya Kogaki, Teruo Ohsawa, Koji Kawaguchi, Satoshi Nakamura, 2016: Investigation of the fetch effect using onshore and offshore vertical LiDARs, Proc. of WindEurope Summit 2016, PO.230, 10p.
- ・Teruo Ohsawa, Mari Kato, Hirokazu Uede, Susumu Shimada, Yuko Takeyama, 2016: Investigation if WRF configuration for offshore wind resource maps in Japan, Proc. of WindEurope Summit 2016, PO.181, 6p.
- ・Hirotto Ichikawa, Teruo Ohsawa, Kengo Wakabayashi, Hiroshi Asou, Shintaro Hashimoto, Shigenori Komori, Satoshi Nakamura, 2016: Experimental study of effects of buoy motion on offshore wind speed measurement, Proc. of WindEurope Summit 2016, PO.182, 6p.
- ・Teruo Ohsawa, Fuko Okayama, Takeshi Misaki, Susumu Shimada, Koji Kawaguchi, Gerald Steinfeld, Michael Schmidt, Detlev Heinemann, Martin Doerenkaemper, 2016: Accuracy comparison of mesoscale model simulated offshore wind speeds between Japanese and German coastal waters, Proc. of WindEurope Summit 2016, PO.240, 6p.

・大澤輝夫, 香西克俊, 中村聡志, 川口浩二, 嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 2016 : NEDO 洋上風況マップにおける WRF 計算精度, 第 38 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, pp. 225-228.

・市川弘人, 大澤輝夫, 香西克俊, 嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 中村聡志, 川口浩二, 2016 : 波崎海洋研究施設におけるブイ観測・数値シミュレーション併用型洋上風況調査手法の精度検証 (第 2 報), 第 38 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, pp. 467-470.

・大澤輝夫, 嶋田進, 壺岐信二, 今村博, 2016: NEDO「洋上風況マップ」作成プロジェクトの紹介と公開コメント募集の事前告知, 風力エネルギー学会論文集, Vol. 39, No. 4, pp. 562-566.

#### (ゴメス)

・山下 あずさ, Gomez C., Dombrowski K. 2017. Segregation, exclusion and LGBT people in disaster impacted areas: experiences from the Highashinohon Daishinsai. *Gender Place and Culture* 24, 64-71.

・ Saputra, A., Raradianto, T., Revindo, M.D., Delikostidis, I., Hadmoko, D.S., Sartohadi, J., Gomez, C. 2017. Seismic vulnerability assessment of residential buildings using logistic regression and geographic information system (GIS) in Pleret Sub-district (Yogyakarta Indonesia). *Geoenvironmental Disasters* 4: 11. doi:10.1186/s40677-017-0075-z

・ Gomez, C. 2017. Ethics and Disaster Risk Reduction including Climate Change Adaptation, in Kelman and Gaillard (Eds) *The Routledge Handbook of Disaster Risk Reduction including Climate Change Adaptation*, Routledge (United Kingdom).

・ Gomez, C., Miller, J. 2017. Ground Penetrating Radar Analysis of Slope and Lake Sediments Interplay: A Survey of Lake Pearson – Research Report (Feb. 2017). Hal-01524351

・ Gomez, C. 2017. SfM-MVS Haar Wavelet Decomposition as a tool to examine mixed grain-size sedimentary outcrop (Feb. 2017). Hal-01524352

#### (笹)

・ Sasa, K., “Optimal Routing of Short-Distance Ferry from the Evaluation of Mooring Criteria”, *Proceedings of the 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017*, pp.1-8, 2017

・ Sasa, K., Lu, L. and Chen, C.: “A Basic Study on Ship Speed Loss from the Viewpoint of Geographic Conditions and Ship Performance”, *Proceedings of the 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2016*, pp.1-8, 2016

・ Shimizu, S., Fujii, M., Sumida, T., Sasa, K., Kimura, Y., Koga, E. and Motogi, H.: “Starting System for Darrieus Water Turbine of Tidal Stream Electricity Generation”, *Proceedings of the 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2016*, pp.1-6, 2016

#### (谷池)

・ Yuichi Furuyama, Ryoma Nakamori, Sho Nagai, Akira Taniike, Hiroaki Samata, Akira Kitamura, CO<sub>2</sub> absorption characteristics of a blanket candidate material Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> under exposure to different gas mixture, *Nucl. Materials and Energy*, 9, pp. 227-232 (2016)

#### (橋本)

・ Hashimoto, H., Hata, Y., Kawamura, K. : Estimation of oil overflow due to sloshing from oil storage tanks subjected to a possible Nankai Trough earthquake in Osaka bay area, *Journal of Loss Prevention in the Process Industries* (2017)

- ・ Hashimoto, H., Yoneda, S., Tahara, Y., Kobayashi, E. : CFD-based study on the prediction of wave-induced surge force, *Ocean Engineering*, 120, 389-397 (2016)
- ・ Kawamura, K., Hashimoto, H., Matsuda, A., Terada, D : SPH simulation of ship behaviour in severe water-shipping situations, *Ocean Engineering*, 120, 220-229 (2016)
- ・ Terada, D., Hashimoto, H., Matsuda, A : Estimation of parameters in the linear stochastic dynamical system driven by colored noise sequence, *Proceedings of the 47th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications* (2016)
- ・ Matsuda, A., Hashimoto, H., Kawamura, K., Terada, D. : An Experimental System for Measurement of Dynamics of Damaged, *Proceedings of the Techno-Ocean 2016* (2016)
- ・ Terada, D., Matsuda, A., Hashimoto, H. : Estimation of the Random Exciting Force Causing Parametric Roll Resonance Verification Based on Numerical Simulation, *Proceedings of the Techno-Ocean 2016* (2016)
- ・ 橋本博公, 松田秋彦, 河村昂軌, 寺田大介 : 大型クルーズ船の損傷浸水時の復原性に関する模型実験, *日本船舶海洋工学会講演会論文集*, 23, 473-477 (2016)
- ・ 橋本博公, 谷口裕樹, 藤井迪生 : 第二世代非損傷時復原性基準の運航制限に関する検討, *日本船舶海洋工学会講演会論文集*, 23, 467-472 (2016)
- ・ 橋本博公, 末吉誠, 河村昂軌, 宗末尚大 : 粒子法を用いた複雑形状に対する数値流体解析に関する研究, *日本船舶海洋工学会講演論文集*, 第 22 号, 231-234 (2016)
- ・ Andi Trimulyono, Hashimoto, H. : Validation of Water Waves Reproduced by Smoothed Particle Hydrodynamics, *Conference Proceedings of the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers*, 23, 231-235 (2016)
- ・ 寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : パラメトリック横揺れの時系列予測, *日本船舶海洋工学会論文集*, 23, 481-483 (2016)
- ・ 河村昂軌, 小野寺直幸, 橋本博公, 松田秋彦 : 並列 GPU を用いた MPS 法の海水打ち込みシミュレーションの開発, *日本船舶海洋工学会講演会論文集*, 23, 227-230 (2016)
- ・ 米田翔太, 橋本博公, 谷口裕樹, 小林英一 : 離岸時の岸壁影響に関する実験的研究, *日本船舶海洋工学会講演会論文集*, 23, 69-74 (2016)
- ・ 谷口裕樹, 松田秋彦, 世良亘, 寺田大介, 橋本博公 : 輻輳海域における船舶自動避航アルゴリズムの模型実験による検証, *日本船舶海洋工学会講演会論文集*, 23, 627-632 (2016)
- ・ 河村昂軌, 橋本博公, 小野寺直幸 : GPU を用いた MPS コードの強非線形自由表面流れへの適用, *日本船舶海洋工学会講演論文集*, 22, 225-230 (2016)
- ・ 寺田大介, 橋本博公, 松田 秋彦 : 不規則向い波中のパラメトリック横揺れの逐次データ同化, *日本船舶海洋工学会講演論文集*, 22, 193-195 (2016)

(林)

- ・ Vladimir P. Be skoski, Katsuya Yamamoto, Atsushi Yamamoto, Hideo Okamura, Mitsuru Hayashi, Takeshi Nakano, Chisato Matsumura, Keiichi Fukushi, Shinpei Wada, Hideyuki Inui: Distribution of perfluoroalkyl compounds in Osaka Bay and coastal waters of Western Japan, *Chemosphere*, 170, 260-265 (2017)
- ・ Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Yuki Taniguchi, Eiichi Kobayashi: Salinization by Tsunami in a semi-enclosed bay : Tsunami-Ocean 3D simulation based on the great earthquake scenario along the Nankai Trough, *Journal of Advanced Simulation Science Engineering*, 3, 2, 206-214 (2016)

・中田聡史、小林志保、石坂丞二、山本圭吾、中嶋昌紀、林美鶴：静止海色衛星を用いた大阪湾奥における赤潮動態の解明に向けて、瀬戸内海、72, 66-68 (2016)

・ Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Port Resolving, Tsunami and Tide Simulation to Find “Tsunami Vortexes” for Safe Vessel Evacuation, Proceedings of The 35th JSST(Japan Society for Simulation Technology) Annual Conference International Conference Simulation Technology, Downloaded PDF-File, (2016)

・ Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Shota Yoneda, Eiichi Kobayashi: Tsunami simulation generated by the greatest scenario earthquake along the Nankai Trough under consideration of tidal currents in a large bay, International Journal of Offshore and Polar Engineering, 26, 4, 392-400 (2016)

・ Mitsuru Hayashi, Tomomi Miyawaki, Ryutaro Koga: Analysis of Marine Phytoplankton in the Yodo River Estuary by the Numerical Ecosystem Model, Proceedings of EMECS (Environmental Management of Enclosed Coastal Seas) 11- Sea Coast XXVI Joint Conference, 1-10 (2016)

・ Mitsuru Hayashi, Satoshi Nakada, Taketo Abe, Eiichi Kobayashi: Influence of Eddies on Vessel Evacuation from Tsunami, Proceedings of the Twenty-sixth (2016) International Ocean and Polar Engineering Conference, (in CD) 801-806 (2016)

・ Satoshi Nakada, Soto Suzuki, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Simulation of Heavy Metal Transport Induced by a Giant Tsunami Based on Nankai-Trough Earthquake: Application to Osaka Bay, Proceedings of the Twenty-sixth(2016) International Ocean and Polar Engineering Conference, (in CD) 783-790 (2016)

(堀田)

・ H. Kojima, S. Kurihara, Y. Watanabe, K. Iwamaru, K. Sato, K. Tsunoda, H. Hotta, novel method for determination of inorganic oxyanions by electrospray ionization mass spectrometry using dehydration reactions, J Mass Spectrom. 51, 123-131 (2016).

(山地)

・ Hayashida, S., S. Kayaba, M. Deushi, K. Yamaji, A. Ono, M. Kajino, T.T. Sekiyama, T. Maki, X. Liu, Study on lower tropospheric ozone over central and eastern China: Comparison of satellite observation with model simulation, Springer book Land-Atmospheric Interactions in Asia, in press, 2016.

(首藤)

・ Satoko Shin, Nobumichi Shutoh, Miho Tonai, Naoko Ogata, The effect of capsaicin-containing food on the swallowing response, Dysphagia, 31(2), 146-153 (2016).

・ Masashi Hyodo, Nobumichi Shutoh, Takashi Seo, Tatjana Pavlenko, Estimation of the covariance matrix with two-step monotone missing data, Communications in Statistics – Theory and Methods, 45(7), 1910-1922 (2016).

・ Sho Takahashi, Nobumichi Shutoh, Tests for parallelism and flatness hypotheses of two mean vectors in high-dimensional settings, Journal of Statistical Computation and Simulation, 86(6), 1150-1165 (2016).

(浅岡)

・ Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Kyung Hoi Kim, Yuzuru Hatanaka, Kenji Nakamoto, Kazutoshi Hino, Takahito Oikawa, Shinjiro Hayakawa, Tetsuji Okuda : Optimum reaction ratio of coal fly ash to blast furnace cement for effective removal of hydrogen sulfide, Chemosphere 168, 384-389 (2017)

- ・浅岡 聡：石炭灰を用いた閉鎖性水域の環境の改善, 化学と教育 64, 30-33 (2016)
  - ・ Sung-Hoon Ryu, Shinya Nakashita, In-Cheol Lee, Dong-Sun Kim, Jong-Ryol Kim, Tadashi Hibino, Tamiji Yamamoto, Satoshi Asaoka, Kyunghoi Kim : A pilot study on remediation of muddy tidal flat using porous pile, Marine Pollution Bulletin 114, 837-842 (2017)
  - ・ Tamiji Yamamoto, Kyoko Oosawa, Satoshi Asaoka, Ione Madinabeitia, Lawrence M. Liao, Shizuko Hirata : Enhancement of marine phytoplankton growth by steel-making slag as a promising component for the development of algal biofuels, ISIJ international 56, 708-713 (2016)
  - ・ Hitomi Yano, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima, Terumi Tanimoto, Satoshi Asaoka, Shinjiro Hayakawa, Satoru Nakashima : Mechanisms of solidification and subsequent embrittlement of dephosphorization slag used in a subtidal zone as an alternative to sea sand and prevention of solidification by adding dredged soil, Clean Technologies and Environmental Policy 18, 1167-1176 (2016)
  - ・ Hironori Yamamoto, Tamiji Yamamoto, Yugo Mito, Satoshi Asaoka : Numerical evaluation of the use of granulated coal ash to reduce an oxygen-deficient water mass, Marine Pollution Bulletin 107, 188-205 (2016)
  - ・井上智子, 及川隆二, 中本健二, 樋野和俊, 浅岡 聡：水質改良材及びその製造方法並びに水質改良方法, 国際出願：PCT/JP2016/6895 (2016.6.27)
  - ・井上智子, 及川隆二, 中本健二, 渡邊 勝, 樋野和俊, 浅岡 聡: 水質改良材及びその製造方法並びに水質改良方法, 特許出願：特願 2016-126340, (2016.6.27)
- (金崎)
- ・ M. Kanasaki, S. Jinno, H. Sakaki, K. Kondo, K. Oda, T. Yamauchi, Y. Fukuda, The precise energy spectra measurement of laser-accelerated MeV/n-class high-Z ions and protons using CR-39 detectors, Plasma Physics and Controlled Fusion 58, 34013 (2016)
  - ・ M. Nishiuchi, H. Sakaki, T. Zh. Esirkepov, K. Nishio T. A. Pikuz, A. Ya. Faenov, I. Yu. Skobelev, R. Orlandi, A. S. Pirozhkov, A. Sagisaka, K. Ogura, M. Kanasaki, H. Kiriya, Y. Fukuda, H. Koura, M. Kando, T. Yamauchi, Y. Watanabe, S. V. Bulanov, K. Kondo, K. Imai, S. Nagamiya, Towards a novel laser-driven method of exotic nuclei extraction-acceleration for fundamental physics and technology, Plasma Physics Reports 42, 327-337 (2016)
  - ・ Tamon KUSUMOTO, Yutaka MORI, Masato KANASAKI, Keiji ODA, Satoshi KODAIRA, Yoshihide HONDA, Sachiko TOJO, Rémi BARILLON, Tomoya Yamauchi, Sudden increase of the radiation chemical yield for loss of carbonate ester in PADC detector where the track overlapping of 28 MeV electrons becomes significant, JPS Conference Proceedings, Proceedings of International Symposium on Radiation Detectors and Their Uses (ISR2016) 11, 010001, 1-6 (2016)
  - ・ Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Ryunosuke Ikenaga, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Rémi Barillon, Tomoya Yamauchi : Radiation chemical yields for the losses of typical functional groups in PADC films for high energy protons registered as unetchable tracks, Radiation Measurements 87, 35-42 (2016)

## 2015 年度

### (岡村)

- ・ Asaoka, S., Kiso, Y., Nagai, M., Okamura, H. (2015) A membrane extraction method for trace level phosphate analysis, *Anal. Methods* 7, 9268-9273.

・ Asaoka S., Yamamoto,T., Yamamoto,H., Okamura,H. , Hino,K., Nakamoto,K., Saito,T. (2015) Estimation of hydrogen sulfide removal efficiency with granulated coal ash applied to eutrophic marine sediment using a simplified simulation model, *Mar. Poll. Bull.* 94 (1-2), 55-61.

・ Inoue,S., Igarashi,Y., Yoneda,Y., Kawai,S., Okamura,H., Nishida,T. (2015) Elimination and detoxification of fungicide miconazole and antidepressant sertraline by manganese peroxidase-dependent lipid peroxidation system. *International Biodeterioration & Biodegradation* 100: 79-84.

(小田)

・ 小田啓二：船舶を活用した災害対応活動支援 ～海からのアプローチ～, *ESI-NEWS* 34 [1], 1-11 (2016)

・ K. Oda, T. Nakayama, K. Umetani, K. Kajihara, T. Yamauchi: Generalization of radiator design techniques for personal neutron doseimeter by unfolding method, *Radiation Protection Dosimetry*, doi:10.1093/rpd/ncv410 (2015)

(蔵岡)

・ 鶴見達明、蔵岡孝治、辻本智雄、福岡弘直：シリカ/ポリヒドロキシウレタン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、*日本包装学会誌* 24 (4)、 209-215 (2015).

・【著書】蔵岡孝治：第3編コーティング材料と応用 第7章有機-無機ハイブリッドガスバリア膜、最新高機能コーティングの技術・材料・評価 (監修：矢澤哲夫、シーエムシー出版)、175-181 (2015).

(香西)

・ WRFによる沿岸海上風シミュレーション時の四次元データ同化適用手法に関する検討、中尾知博、大澤輝夫、香西克俊、中村聡志、*土木学会論文集 B3 (海洋開発)*, Vol.71,No.2,I\_137-I\_142,2015

・ 洋上表層観測値と WRF 鉛直プロファイルから推定されたハブ高度風速の精度について、大澤輝夫、香西克俊、*日本風力エネルギー学会論文集*、Vol.38,No.4,pp.100-114,2015

(佐藤)

・ One-electron-oxidized States of Dihedral-angle-controlled 2,2'-bithiophenes with terminal ferrocenyl groups, Masa-aki Sato ; Syuhei Arita ; Kazuki Kawajiri, *Bull. Chem. Soc. Jpn*, 88 , 2 , 262-270

(嶋田)

・ Ashitaka, Y., & Shimada, H. (2015). The Implications of the Dissociation Between Response and Processing Conflict.. Abstracts of 56th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Chicago

・ 芦高 勇氣, 嶋田博行 (2015). 「階層的認知コントロール: キー押し反応 (タイプ反応) を指標として 基礎心理学研究 33 巻 2 号 p.215

(古山)

・ Akira Taniike, Raito Nakamura, Syugo Kusaka, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Yuichi Furuyama “Application of the ion beam graft polymerization method to the thin film diagnosis” 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, 26ICNTS, *Physics Procedia* 80 (2015) 151-154.

・ Masahito Tagawa, Daiki Watanabe, Yuichi Furuyama, Kazuhiro Kanda, Akitaka Yoshigoe, Yuden Teraoka, Koji Matsumoto, Kumiko Yokota “Collision-induced oxidation of Si atoms embedded in carbon-based material” 13th International Symposium on Materials in the Space Environment, June

22-26, 2015, Pau, France

- K. Kidena, M. Endo, H. Takamatsu, M. Niibe, M. Tagawa, K. Yokota, Y. Furuyama, K. Komatsu, H. Saitoh, K. Kanda, “Resistance of hydrogenated Ti-containing DLC film to hyperthermal atomic oxygen,” *Metals* 5, 1957-1970 (2015).
- S. Hagihara, T. Wada, S. Nakamoto, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike, “Characterization of secondary electron collection for energy recovery from high energy ions with a magnetic field,” *Plasma Fusion Res.* 10, 3405025, pp.1-4 (2015).
- S. Nakamoto, Y. Takeshita, S. Hagihara, T. Wada, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike, “Enhanced Energy Recovery in A Secondary Electron Direct Energy Converter through Reduction of the Magnetic Mirror Effect,” *Fusion Science and Technology* vol.68, No.1, pp.166-170 (2015).
- A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, A. Taniike, Y. Furuyama, “Comparison of some Ni-based nano-composite samples with respect to excess heat evolution under exposure to hydrogen isotope gases,” *Proc. 15th Meeting of Japan CF Research Society*, pp.1-19 (2015).
- A. Takahashi, A. Kitamura, A. Taniike, Y. Furuyama, R. Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, “A Mass-Flow-Calorimetry System for Scaled-up Experiments on Anomalous Heat Evolution at Elevated Temperatures,” *J. Condensed Matter Nucl. Sci.* 15, 23-32 (2015).
- A. Takahashi, A. Kitamura, A. Taniike, Y. Furuyama, R. Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, “Anomalous Exothermic and Endothermic Data Observed by Nano-Ni-Composite Samples,” *J. Condensed Matter Nucl. Sci.* 15, 23-32 (2015).
- A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, A. Taniike, Y. Furuyama, “Brief summary of latest experimental results with a mass-flow calorimetry system for anomalous heat effect of nano-composite metals under D (H)-gas charging,” *Current Science* vol. 108, No.4, 589-593 (2015).
- Kengo Kidena, Minami Endo, Hiroki Takamatsu, Ryo Imai, Masahito Niibe, Kumiko Yokota, Masahito Tagawa, Yuichi Furuyama, Keiji Komatsu, Hidetoshi Saitoh and Kazuhiro Kanada “Hyperthermal Atomic Oxygen Beam Irradiation Effect on the Hydrogenated Si-doped DLC Film” *Trans. Mat. Res. Soc. Japan* 40(4)353-358(2015)

(三村)

- Haruo Mimura, Kohei Hirono, Yoshiji Yano, and Noriyuki Endo, Application of Blue LED Irradiation to Antifouling of a Ship’s Bottom, *Proceedings of OCEANS 2015 Genova*, various 4 pages (Centro Congressi - Porto Antico di Genova, Calata Molo Vecchio 15, 16128 Genova Italy)

(山内)

- Rémi Barillon, Tomoya Yamauchi, Yutaka Mori, Quentin Raffy : A first attempt to simulate oxidization effects on latent track structure in PADC combining the radial dose theory and a radio-oxidation kinetic model, *Radiation Measurements* 83, 1-4 (2015)
- Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Kanasaki Masato, Takuya Ueno, Yuka Kameda, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Remi Barillon, Tomoya Yamauchi : Yields on the formation of OH groups and the loss of CH groups along nuclear tracks in PADC films, *Radiation Measurements* 83, 59-62 (2015)

(上田)

- R-J. Duan, S. Kawashima, Y. Ueda; Dissipative structure of the coupled kinetic-fluid models. *Nonlinear dynamics in partial differential equations*, 327–335, *Adv. Stud. Pure Math.*, 64, Math. Soc. Japan, Tokyo, 2015.

・ Y. Ueda, R-J. Duan, S. Kawashima; Large time behavior of solutions to symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation. *Nonlinear dynamics in partial differential equations*, 295–302, *Adv. Stud. Pure Math.*, 64, Math. Soc. Japan, Tokyo, 2015.

(大澤)

・大澤輝夫, 嶋崎翔太, 市川弘人, 嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 川口浩二, 中村聡志, 2015 : ブイ観測・数値シミュレーション併用型洋上風況推定手法の有用性検証, *土木学会論文集 B3 (海洋開発)*, Vol.71, No.2, pp.I\_132-I\_136.

・中尾知博, 大澤輝夫, 香西克俊, 中村聡志, 2015 : WRF による沿岸海上風シミュレーション時の四次元データ同化適用手法に関する検討, *土木学会論文集 B3 (海洋開発)*, Vol.71, No.2, pp.I\_137-I\_142.

・種本純, 大澤輝夫, 香西克俊, 塩谷茂明, 2015 : 中東・北太平洋航路における全球数値予報モデルの海上風予測精度検証, *日本航海学会論文集*, Vol.131, pp.48-56.

・大澤輝夫, 香西克俊, 2015 : 洋上表層観測値と WRF 鉛直プロファイルから推定されたハブ高度風速の精度について, *日本風力エネルギー学会論文集*, Vol.38, No.4, pp.110-114.

Susumu Shimada, Teruo Ohsawa, Tetsuya Kogaki, Gerald Steinfeld, Detlev Heinemann, 2015: Effects of sea surface temperature accuracy on offshore wind resource assessment using a mesoscale model, *Wind Energy*, Vol.18, No.10, pp.1839-1854, DOI: 10.1002/we.1796.

・Teruo Ohsawa, Kazuki Ishigami, Takeshi Misaki, Yasuyuki Baba, Koji Kawaguchi, 2015, Comparison of WRF-based methods for wind resource assessment at an offshore site, *Proc. of the 25th Annual International Offshore and Polar Engineering Conference*, 22-26 June 2015, Kona, Hawaii, USA, pp.706-712.

・Teruo Ohsawa, Tetsuya Orita, Katsutoshi Kozai, Susumu Shimada, Gerald Steinfeld, Detlev Heinemann, 2015: Accuracy evaluation of hub-height wind speeds estimated from scatterometer and mesoscale model, *Proc. of EWEA OFFSHORE 2015*, 10-12 March 2015, Copenhagen, PO.176, 7p.

・Susumu Shimada, Teruo Ohsawa, Yuko Takeyama, Tetsuya Kogaki, Gerald Steinfeld, Detlev Heinemann, 2015: Comparison of wind speeds simulated with WRF using seven planetary boundary layer schemes at two offshore met masts in the North Sea, *Proc. of EWEA OFFSHORE 2015*, 10-12 March 2015, Copenhagen, PO.175, 10p.

・Yuko Takeyama, Teruo Ohsawa, Katsutoshi Kozai, Charlotte Bay Hasager, Merete Badger, Susumu Shimada, Tetsuya Kogaki, 2015: Fetch effect on sea surface wind speed retrieval from SAR image in coastal waters, *Proc. of EWEA OFFSHORE 2015*, 10-12 March 2015, Copenhagen, PO.174, 10p.

・大澤輝夫, 嶋田進, 壺岐信二, 今村博, 2015: WRF を用いた日本沿岸洋上風況マップの研究開発, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月26-27日, 東京, pp.181-184.

・市川弘人, 大澤輝夫, 芝本夏子, 小長谷瑞木, 水戸俊成, 江口信也, 2015 : 沿岸海上における WRF 計算値と水平照射型ライダー観測値の比較, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月26-27日, 東京, pp.229-232.

・竹山優子, 大澤輝夫, 香西克俊, 嶋田進, 小垣哲也, 2015: 人工衛星搭載マイクロ波散乱計を用いた風力エネルギー資源量推定における長期変動解析, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月26-27日, 東京, pp.233-236.

・嶋田進, 大澤輝夫, 小林智尚, 吉野純, 竹山優子, 小垣哲也, 2015: 複数地形における気象モデルによる高解像度風況シミュレーション, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月26-27日, 東京, pp.241-244.

(笹)

・Chen, C., Shiotani, S. and Sasa, K.: “Study on a Numerical Navigation System in the East China Sea”, *Journal of Applied Ocean Research*, Vol.53, pp.257-266, 2015



- Sasa, K., Terada, D., Shiotani, S., Wakabayashi, N., Ikebuchi, T., Chen, C., Takayama, A. and Uchida, M.: “Evaluation of Ship Performance in International Maritime Transportation using an Onboard Observation System—In Case of a Bulk Carrier for International Voyages—”, *Journal of Ocean Engineering*, Vol.104, pp.294-309, 2015
- Chen, C., Shiotani, S. and Sasa, K.: “Effect of Ocean Currents on Ship Navigation in the East China Sea”, *Journal of Ocean Engineering*, Vol.104, pp.283-293, 2015
- 柳 馨竹、塩谷茂明、笹 健児：模擬体験用航海シミュレーションおよびシーナビのシステムに対する評価について、*土木学会論文集 B3 (海洋開発) 特集号*、Vol.71、No.2、pp.I\_197-I\_202、2015
- 笹 健児、陳 辰、塩谷茂明、若林伸和、寺田大介：沿岸から離れた海域における波浪特性と船舶運航への活用に関する基礎的研究、*土木学会論文集 B3 (海洋開発) 特集号*、Vol.71、No.2、pp.I\_185-I\_190、2015  
(谷池)
- Takayuki Wada, Shota Konno, Satoshi Nakamoto, Hiromasa Takeno, Yuichi Furuyama, Akira Taniike, Variation in Emission and Energy Recovery Concerning Incident Angle in a Scheme Recovering High Energy Ions by Secondary Electrons, *Plasma and Fusion Research*, Vol. 11, 2405029, pp. 1-4 (2016)
- Satoshi Nakamoto, Yousuke Takeshita, Shota Hagihara, Takayuki Wada, Hiromasa Takeno, Yasuyoshi Yasaka, Yuichi Furuyama, Akira Taniike, Enhanced Energy Recovery in a Secondary Electron Direct Energy Converter Through Reduction of the Magnetic Mirror Effect, *Fusion Science and Technology*, Vol. 68, 1, pp.166-170 (2015)
- Akira Taniike, Raito Nakamura, Syugo Kusaka, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Yuichi Furuyama, Application of the Ion Beam Graft Polymerization Method to the Thin Film Diagnosis, *Physics Procedia* 80, pp. 151-154 (2015)  
(橋本)
- Hashimoto, H., Kawamura, K., Sueyoshi, M. : Numerical Simulation of Ship Transient Behavior Coupled with Water Flooding, *Proceedings of the 25th International Offshore and Polar Engineering Conference* , 1251-1258 (2015)
- Hashimoto, H., Yoneda, S., Tahara, Y., Kobayashi, E. : Prediction of Wave-Induced Surge Force Using Overset Grid RaNS Solver, *Proceedings of the 12th International Conference on the Stability of Ships and Ocean Vehicles*, 623-632 (2015)
- Terada, D., Hashimoto, H., Matsuda, A. : Novel statistical prediction on parametric roll resonance by using onboard monitoring data for officers, *Proceedings of the 12th International Conference on the Stability of Ships and Ocean Vehicles*, 1007-1015 (2015)
- Kawamura, K., Hashimoto, H., Matsuda, A., Terada, D. : SPH Simulation of Ship Behaviour in Severe Water Shipping Situations, *Proceedings of the 12th International Conference on the Stability of Ships and Ocean Vehicles*, 433-440 (2015)
- Kobayashi, E., Yoneda, S., Murayama, M., Taniguchi, Y., Hashimoto, H., Koshimura, S. : Mathematical Modeling for Ship Evacuation from Tsunami Attack, *Proceedings of SIMULTECH 2015*, 318-325 (2015)
- Hashimoto, H., Kawamura, K., Sueyoshi, M : Numerical simulation method for dynamic stability assessment of damaged ships, *Proceedings of the 3rd International Conference on Violent Flows* (2015)

- ・ Yoneda, S., Hashimoto, H., Tahara, Y., Kobayashi, E., Umeda, N., Frederick Stern : CFD-based captive tests for the wave-exciting force acting on a ship running in stern quartering waves, Proceedings of the 3rd International Conference on Violent Flows (2015)
- ・ Terada, D., Hashimoto, H., Matsuda, A. : Estimation of parameters included in nonlinear roll motion equation based on data assimilation procedure, Proceedings of the 3rd International Conference on Violent Flows (2015)
- ・ Kawamura, K., Hashimoto, H., Onodera, N., Munesue, T. : GPGPU simulation of oil tank sloshing based on explicit MPS method, Proceedings of the 3rd International Conference on Violent Flows (2015)
- ・ Matsuda, A., Hashimoto, H., Terada, D., Taniguchi, Y. : Validation of Free Running Model Experiments in Heavy Seas, Proceedings of the 3rd International Conference on Violent Flows (2015)
- ・ Hashimoto, H., Kawamura, K., Sueyoshi, M., Munesue, T. : Comparison of Semi-implicit and Explicit MPS Methods as Flow Solvers for a Flooded Compartment, Conference Proceedings of the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers , 21 , 87-91 (2015)
- ・ Hashimoto, H., Kawamura, K., Sueyoshi, M. : Numerical Simulation of Ship Transient Behaviour under a Flooding Situation, Conference Proceedings of The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (2015)
- ・橋本博公, 谷口裕樹, 高田頼政, 小林英一 : 動的復原性問題を考慮したウェザールーティング (第一報) —パラメトリック横揺れ—, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 20, 357-360 (2015)
- ・寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : 規則向い波中におけるパラメトリック横揺れのデータ同化, 日本船舶海洋工学会講演論文集, 21, 543-546 (2015)
- ・寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : パラメトリック横揺れ予測数学モデルのパラメータ同定法 (その3) , 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 20, 133-135 (2015)
- ・米田翔太, 小林英一, 橋本博公, 田原祐介 : 津波来襲時に考慮すべき岸壁影響, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 21, 185-189 (2015)
- ・小林英一, 岡田啓佑, 橋本博公, 谷口裕樹 : 海水の打ち込みを考慮したウェザールーティングの検討, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 20, 361-362 (2015)
- ・中村充博, 芳村康男, 橋本博公, 齋藤史明, 福井洋 : 追波・斜追波中に船体が受ける波浪強制力, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 20, 125-128 (2015)
- ・中村充博, 芳村康男, 齋藤史明, 橋本博公, 福井洋 : 追波・斜追波中のプロペラ推力・トルク, 舵直圧力の数学モデル, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 21, 519-524 (2015)
- ・齋藤史明, 芳村康男, 中村充博, 橋本博公, 松田秋彦, 寺田大介 : 追波・斜追波中に船体が受ける波浪強制力(波浪外力) その2, 日本船舶海洋工学会講演論文集, 21, 525-528 (2015)
- ・米田翔太, 小林英一, 谷口裕樹, 越村俊一, 橋本博公 : 船舶に対するリアルタイム津波ハザードマップの基礎研究, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 20, 147-150 (2015)

(林)

- ・ Mitsuru Hayashi, Soto Suzuki, Satoshi Nakada, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Estimation of the Occurrence Condition of Sediment Resuspension in Osaka Bay by Tsunami, Proceedings of The Twenty-fifth (2015) International Ocean and Polar Engineering Conference, 783-787 (2015)
- ・中田聡史, 林美鶴, 鈴木綜人, 小林英一, 越村俊一 : 底泥巻き上げ・粒子追跡シミュレーションから推定した大阪湾沿岸水環境へ及ぼす巨大津波のインパクト, 第25回海洋工学シンポジウム講演論文集, OES25-114, 530-535(2015)

・ Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Yuki Taniguchi, Eiichi Kobayashi : Salinization by Tsunami in a semi-enclosed bay: Tsunami-Ocean 3D simulation based on the great earthquake scenario along the Nankai Trough, Extended abstracts of The 34th JSST (Japan Society for Simulation Technology) Annual Conference International Conference on Simulation Technology (JSST2015) (2015)

・ Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Shota Yoneda, Eiichi Kobayashi: Tsunami Simulation Generated the Greatest Scenario Earthquake along the Nankai Trough under Consideration of Tidal Current in Large Bay, Proceedings of The Twenty-fifth (2015) International Ocean and Polar Engineering Conference, 811-816 (2015)

・ 鈴木綜人、中田聡史、林美鶴、小林英一、越村俊一：津波による大阪湾での底質巻き上げ発生条件の推定、平成27年度日本船舶海洋工学会春季講演会論文集、191-194 (2015)

・ 鈴木綜人、林美鶴、中田聡史、越村俊一、小林英一：南海トラフ巨大地震津波による大阪湾での巻き上げ・移流輸送シミュレーション、平成27年度日本船舶海洋工学会秋季講演会論文集、143-146 (2015)

・ 野崎伸夫、和田真平、林美鶴：神戸大学深江キャンパスにおける海洋・気象観測（2014年1月～12月）」神戸大学大学院海事科学研究科紀要 12, 7-16 (2015)

(山地)

・ Yu MORINO, Toshimasa OHARA, Jiayu XU, Shuichi HASEGAWA, Bin ZHAO, Akihiro FUSHIMI, Kiyoshi TANABE, Miyuki KONDO, Masao UCHIDA, Kazuyo YAMAJI, L. YANG, Shaojie SONG, W. DONG, Ye WU, Shuxiao WANG, Jiming HAO : Diurnal variations of fossil and nonfossil carbonaceous aerosols in Beijing Atmospheric Environment, 122, 349-356 (2015)

(首藤)

・ Masashi Hyodo, Nobumichi Shutoh, Takahiro Nishiyama, Tatjana Pavlenko, Testing block-diagonal covariance structure for high-dimensional data, Statistica Neerlandica, 69(4), 460-482 (2015).

(浅岡)

・ Satoshi Asaoka, Tamiji Yamamoto, Hironori Yamamoto, Hideo Okamura, Kazutoshi Hino, Kenji Nakamoto, Tadashi Saito : Estimation of hydrogen sulfide removal efficiency with granulated coal ash applied to eutrophic marine sediment using a simplified simulation model, *Marine Pollution Bulletin* 94, 55-61 (2015)

・ Satoshi Asaoka, Yoshiaki Kiso, Masahiro Nagai, Hideo Okamura : A membrane extraction method for trace level phosphate analysis, *Analytical Methods* 7, 9268-9273 (2015)

・ 山本民次, 浅岡 聡: カキ殻の化学的性状を活用した底生生態系の回復, 月刊海洋 532, 96-101 (2015)

・ Yoshihiro B. Akiyama, Hitomi Yano, Kyohei Koba, Takahiro Katayama, Satoshi Asaoka, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Tamiji Yamamoto, Wataru Nishijima : Evaluation of steelmaking slag as basal media for coastal primary producers, *Marine Pollution Bulletin* 100, 240-248 (2015)

(金崎)

・ A. Yogo, S. V. Bulanov, M. Mori, K. Ogura, T. Zh. Esirkepov, A.S. Pirozhkov, M. Kanasaki, H. Sakaki, Y. Fukuda, P. R. Bolton, H. Nishimura, K. Kondo, Ion acceleration via 'nonlinear vacuum heating' by the laser pulse obliquely incident on a thin foil target, *Plasma Physics and Controlled Fusion* 58, 25003 (2016)

・ Hiromitsu Kiriyama, Masaki Kando, Alexander Pirozhkov, Maki Kishimoto, Akira Kon, Mamiko

Nishiuchi, Hironao Sakaki, Koichi Ogura, Masato Kanasaki, Hiroataka Tanaka, Yuji Fukuda, Michiaki Mori, Yuji Mashiba, Makoto Asakawa, Akito Sagisaka, James Koga, Timur Esirekepov, Yukio Hayashi, Hideyuki Kotaki, Yasuhiro Miyasaka, Kentaro Sekiguchi, Sergei Bulanov, and Kiminori Kondo, The Current Status of the J-KAREN Laser Upgrade, Conference on Lasers and Electro-Optics, SM1M-5 (2016)

- A. Yogo, H. Sakaki, Y. Fukuda, S. Jinno, M. Kanasaki, H. Kiriyaama, T. Shimomura, K. Ogura, M. Mori, P. R. Bolton, K. Kondo, 8th International Conference on Inertial Fusion Sciences and Applications (IFSA), Journal of Physics Conference Series 688, 12128 (2016)

- Masato Kanasaki, Satoshi Jinno, Hironao Sakaki, Anatoly Ya. Faenov, Tatiana A. Pikuz, Mamiko Nishiuchi, Hiromitsu Kiriyaama, Masaki Kando, Akira Sugiyama, Kiminori Kondo, Ryutaro Matsui, Yasuaki Kishimoto, Kunihiro Morishima, Yukinobu Watanabe, Clare Scullion, Ashley G. Smyth, Aaron Alejo, Domenico Doria, Satyabrata Kar, Marco Borghesi, Keiji Oda, Tomoya Yamauchi, Yuji Fukuda, Observation of the inhomogeneous spatial distribution of MeV ions accelerated by the hydrodynamic ambipolar expansion of clusters, Radiation Measurements 83, 12-14 (2015)

- A. Ya. Faenov, J. Colgan, S. B. Hansen, A. Zhidkov, T. A. Pikuz, M. Nishiuchi, S. A. Pikuz, I. Yu. Skobelev, J. Abdallah, H. Sakaki, A. Sagisaka, A. S. Pirozhkov, K. Ogura, Y. Fukuda, M. Kanasaki, N. Hasegawa, M. Nishikino, M. Kando, Y. Watanabe, T. Kawachi, S. Masuda, T. Hosokai, R. Kodama, K. Kondo, Nonlinear increase of X-ray intensities from thin foils irradiated with a 200 TW femtosecond laser, Scientific Reports 5, 13436 (2015)

- Rémi Barillon, Tomoya Yamauchi, Yutaka Mori, Quentin Raffy : A first attempt to simulate oxidization effects on latent track structure in PADC combining the radial dose theory and a radio-oxidation kinetic model, Radiation Measurements 83, 1-4 (2015)

- Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Kanasaki Masato, Takuya Ueno, Yuka Kameda, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Remi Barillon, Tomoya Yamauchi : Yields on the formation of OH groups and the loss of CH groups along nuclear tracks in PADC films, Radiation Measurements 83, 59-62 (2015)

## 2014 年度

### (岡村)

- Asaoaka,S., Okamura,H., Akita,Y., Nakano,K., Nakamoto,K., Hino,K., Saito,T., Hayakawa,S., KATAYAMA,M., Inada,Y. (2014) Regeneration of manganese oxide as adsorption sites for hydrogen sulfide on granulated coal ash. Chemical Engineering Journal 254 : 531-537.

- Asaoaka,S., Kiso,Y., Oomoro,T., Okamura,H., Yamada,T., Nagai,M. (2014) An on-line solid phase extraction method for the determination of ultratrace level phosphate in water with high performance liquid chromatography. Chemical Geology 380: 41-47.

### (小田)

- T. Nakayama, K. Ohashi, T. Yamauchi, K. Oda: Discrimination of Cs-137 and Sr-90 (Y-90) using imaging plate, Proc. Asian & Oceanic Congress on Radiation Protection (AOCR-4), PP3-5 (2014)

### (蔵岡)

- 山本梨紗子、蔵岡孝治 : 架橋構造を導入したシリカ/キトサン有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会誌 23 (6)、 435-442 (2014).

- 山本梨紗子、蔵岡孝治 : シリカ/キトサン有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日

本包装学会誌 23 (3)、 195-201 (2014).

• Koji Kuraoka, Shinji Matsuura and Kosuke Ueda: Ethylene/ethane separation through SiO<sub>2</sub>-poly(sodium acrylate)-Ag<sup>+</sup> organic-inorganic hybrid membrane, *Chemistry Letters* 43, 582-583 (2014).

• 塩野剛、奥宮毅、蔵岡孝治：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会誌 23 (2), 131-140 (2014).

(香西)

• ACCURACY ESTIMATION AND VALIDATION OF OFFSHORE WIND SPEED BY USING TerraSAR-X, Ryotaro Abo, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, Koji Kawaguchi, Yasuyuki Baba, Proceedings of Pan Ocean Remote Sensing Conference (PORSEC2014), 4-7Nov. 2014, Bali, Indonesia

• EVALUATION OF OFFSHORE WIND ENERGY RESOURCES BY USING SCATTEROMETER AND RADIOMETER-DERIVED WIND SPEEDS AND WRF, Katsutoshi Kozai, Tsuguhiko Morita, Teruo Ohsawa Proceedings of Pan Ocean Remote Sensing Conference (PORSEC2014), 4-7Nov. 2014, Bali, Indonesia

• 白浜沿岸海域における WRF 及び MANAL による推定風速場の精度検証、見崎 豪之、大澤輝夫、香西克俊、風工学シンポジウム論文集 2014、Vol.23、pp.505-510

(嶋田)

• Ashitaka, Y. & Shimada, H. (2014). Acquisition process of typing skill using hierarchical materials in the Japanese language. *Attention, Perception, & Psychophysics*, 76, 1838-1846, DOI: 10.3758/s13414-014-0693-4

• Ashitaka, Y. & Shimada, H. (2014). The cultural background of the non-academic concept of psychology in Japan: Its implications for introductory education in psychology. *International Journal of Psychology*, 149, 167-174. doi:10.1002/ijop.12021

• Snyder, K. M., Ashitaka, Y., Shimada, H., Ulrich, J. E., & Logan, G. D. (2014) What skilled typists don't know about the QWERTY keyboard. *Attention, Perception & Psychophysics*, 76, 162-171. doi:0.3758/s13414-013-0548-4

• Ashitaka, Y. & Shimada, H. (2014). Acquisition process of typing skill using hierarchical materials in the Japanese language. 55th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Long Beach, California, USA,

• Kawamura, S., & Shimada, H. (2014). Practical use of 3D images in the interactive slideshow to study traditional buildings. 22nd international conference on computers in education (ICCE) Proceedings, 1025-1027.

(古山)

• S. Nakamoto, Y. Takeshita, S. Hagihara, T. Wada, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike “Fundamental Studies on Secondary Electron Direct Energy Converter with Magnetic Field” Collection of Papers for The 10th International Conference on Open Magnetic System for Plasma Confinement, pp. 90-93 (2014).

• Y.Furuyama, K. Yahata, R. Nakamori, A.Taniike, H. Samata, A. Kitamura, “CO<sub>2</sub> absorption characteristics of a Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> blanket material under atmospheric exposure,” *Journal of Nuclear Materials* 455, pp.527-530 (2014).

- A. Kitamura, Y. Miyoshi, H. Sakoh, A. Taniike, Y. Furuyama, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, “Recent Progress in Gas-phase Hydrogen Isotope Absorption/Adsorption Experiments,” *J. Condensed Matter Nucl. Sci.* 13 pp.277-289 (2014).
- H. Sakoh, Y. Miyoshi, A. Taniike, Y. Furuyama, A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, “Hydrogen Isotope Absorption and Heat Release Characteristics of a Ni-based Sample,” *J. Condensed Matter Nucl. Sci.* 13 pp.471-484 (2014).
- A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, A. Taniike, Y. Furuyama, “Study on Anomalous Heat Evolution from H-Ni Nanoparticle System at Elevated Temperature with Mass-Flow Calorimetry,” *Proc. 14th Meeting of Japan CF Research Society*, pp. 1-13 (2014).
- Y. Furuyama, S. Kawatsu, A. Taniike, A. Kitamura, “Ion beam analyses for  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  blanket candidate material,” *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 331, pp.96-101 (2014).
- A. Taniike, Y. Hirooka, N. Nakanishi, R. Nakamura, Y. Furuyama, “High Fluence Irradiation Effect on the Ion Beam Graft Polymerization,” *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 331, pp.191-195 (2014).

(三村)

- Haruo MIMURA and Takuya SHIMOMURA, Importance of  $\text{Mg}^{2+}$  for the Growth of the Halotolerant *Bacillus* sp. TSK2, *Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan*, Vol. 68, No. 5, pp. 305-306 (2014).
- HARUO MIMURA, Growth Enhancement of the Halotolerant *Brevibacterium* sp. JCM 6894 by Methionine Externally Added to a Chemically Defined Medium, *Biocontrol Science*, Vol. 19, No. 3, pp. 151-155 (2014).

(山内)

- 松川兼也、山内知也、森豊、金崎真聡、又井悠里、楠本多聞、田尾陽、小田啓二、小平聡、小西輝昭、北村尚：ポリイミド中重イオントラックの特性評価、*放射線* 39, 3, 135-144 (2014).

(大澤)

- Yukitaka Ohashi, Toru Terao, Yoshinori Shigeta, Teruo Ohsawa, 2014: In situ observational research of the gap wind “Hijikawa-Arashi” in Japan, *Meteorology and Atmospheric Physics*, Vol.127, No.1, pp.33-48.
- 嶋田進, 大澤輝夫, 往岸達也, 菊島義弘, 小垣哲也, 川口浩二, 中村聡志, 2014 : 波崎海洋研究施設におけるドップラーライダーを用いた風速の鉛直プロファイル観測, *風力エネルギー学会論文集*, Vol.38, No.2, pp.29-35.
- 見崎豪之, 大澤輝夫, 香西克俊, 馬場康之, 川口浩二, 2014 : 白浜沿岸海域における WRF 及び MANAL による推定風速場の精度検証, *第 23 回風工学シンポジウム論文集*, pp.505-510.
- Teruo Ohsawa, Katsutoshi Kozai, 2014: Accuracy of hub-height wind speed estimation from in-situ surface measurements and WRF-simulated vertical wind profile, *Proc. of Grand Renewable Energy 2014*, 27 July - 1 Aug, 2014, Tokyo, O-Wd-1-7. (in CD-ROM).
- Teruo Ohsawa, Fuko Okayama, Susumu Shimada, Jun Tanemoto, 2014: Verification of MODIS-based sea surface temperature data set for offshore wind resource assessment, *Proc. of Grand Renewable Energy 2014*, 27 July - 1 Aug, 2014, Tokyo, P-Wd-1-6. (in CD-ROM)
- Kozai Katsutoshi, Tsuguhiro Morita, Teruo Ohsawa, 2014: Validation of satellite-derived wind speeds for evaluating offshore wind energy resources, *Proc. of Grand Renewable Energy 2014*, 27 July - 1 Aug, 2014, Tokyo, P-Wd-1-17. (in CD-ROM)
- Susumu Shimada, Teruo Ohsawa, Tetsuya Kogaki, Tomonao Kobayashi, Jun Yoshino, 2014: Comparison of a high-resolution WRF wind simulation with its using a subgrid-scale topography

scheme over complex terrain, Proc. of Grand Renewable Energy 2014, 27 July - 1 Aug, 2014, Tokyo, P-Wd-3-3. (in CD-ROM)

・大澤輝夫, 嶋崎翔太, 中尾知博, 市川弘人, 香西克俊, 嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 川口浩二, 中村聡志, 2014: 波崎海洋研究施設におけるブイ観測・数値シミュレーション併用型洋上風況調査手法の精度検証, 第36回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月27-28日, 東京, pp.325-328.

・石上一輝, 大澤輝夫, 見崎豪之, 馬場康之, 川口浩二, 2014: メソ気象モデル WRF を用いた2種類の海上風推定手法の精度検証, 第36回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月27-28日, 東京, pp.349-352.

・嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 大澤輝夫, 2014: 複雑地形における大気安定度と風速の鉛直プロファイルの関係, 第36回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11月27-28日, 東京, pp.209-212.

・ Takeshi Misaki, Teruo Ohsawa, Katsutoshi Kozai, Yasuyuki Baba, Koji Kawaguchi, 2014: Validation of WRF- and MANAL-estimated wind speed fields in coastal waters off Shirahama, Proceedings of the 3<sup>rd</sup> International Symposium on Maritime Sciences, Nov. 10-14 2014, Kobe, Japan.

・ Kazuki Ishigami, Teruo Ohsawa, Takeshi Misaki, 2014: Comparison of two WRF simulations to estimate wind speeds at an offshore site, Poster, Techno-Ocean 2014, Oct. 2-4, 2014, Kobe, Japan.

・ Tetsuya Orita, Teruo Ohsawa, Tsuguhiko Morita and Katsutoshi Kozai, 2014: Development of offshore wind maps based on satellite-borne scatterometer and mesoscale model, Techno-Ocean 2014, Oct. 2-4, 2014, Kobe, Japan.

(笹)

・ Sasa, K., Chen, C., Shiotani, S., Ohsawa, T. and Terada, D.: “Numerical Analysis of Failed Forecasts of Waves under Low Pressures from Viewpoint of Ship Operation”, Proceedings of the 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2014, pp.1-8, 2014

・ Shiotani, S. and Sasa, K.: “Analysis of Sea Shock Encountered by a Ship in North East Japan”, Proceedings of the 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2014, pp.1-9, 2014

・ Sasa, K. and Kashiwagi, M.: Improvement of Rankine Panel Method by Theoretical Consideration of Panel Forces on Ship Hull, Proceedings of the 29th International Workshop on Water Waves and Floating Bodies, pp.177-180, 2014

・塩谷茂明、笹 健児: 航行船舶が捉えた東日本震災時の海震の計測、沿岸域学会誌、Vol.26、No.3、pp.117-127、2014

(谷池)

・ Shota Hagihara, Takayuki Wada, Satoshi Nakamoto, Hiromasa Takeno, Yasuyoshi Yasaka, Yuichi Furuyama, Akira Taniike, Characterization of secondary electron collection for energy recovery from high energy ions with a magnetic field, Plasma and Fusion Research Vol. 10, 305025, pp. 1-4 (2015)

・ Akira Kitamura, Akito Takahashi, Reiko Seto, Y. Fujita, Akira Taniike, Yuichi Furuyama, A Mass-Flow-Calorimetry System for Scaled-up Experiments on Anomalous Heat Evolution at Elevated Temperatures, J. Condensed Matter Nucl. Sci. 15, pp. 231-239 (2015)

・ Akito Takahashi, Akira Kitamura, Akira Taniike, Yuichi Furuyama, Reiko Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, Anomalous Exothermic and Endothermic Data Observed by Nano-Ni-Composite Samples, Akito Takahashi, Akira Kitamura, Akira Taniike, Yuichi Furuyama, Reiko Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, J. Condensed Matter Nucl. Sci. 15, pp. 23-32 (2015)

- A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, A. Taniike and Y. Furuyama, Brief summary of latest experimental results with a mass-flow calorimetry system for anomalous heat effect of nano-composite metals under D(H)-gas charging, CURRENT SCIENCE, Vol. 108, No. 4, pp. 589-593 (2015)
- Akira Taniike, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Raito Nakamura, Yuichi Furuyama, High fluence irradiation effect on the ion beam graft polymerization method, Nucl. Inst. Meth. B, 331, pp. 191-195 (2014)
- Yuichi Furuyama, Sho Kawatsu, Akira Taniike, Akira Kitamura, Ion beam analyses for Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> blanket candidate material, Nuc. l. Inst. Meth. B, 331, pp. 96-101 (2014)
- Yuichi Furuyama, Kyohei Yahata, Ryoma Nakamori, Akira Taniike, Hiroaki Samata, Akira Kitamura, CO<sub>2</sub> absorption characteristics of a Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> blanket material under atmospheric exposure, J. Nucl. Mater., 455, pp. 527-530 (2014)
- M. Nishiura, K. Doi, A. Taniike, T. Matsuki, K. Shimazoe, T. Mushiake, M. Yoshino, T. Nagasaka, Y. Fujimoto, K. Fujioka, T. Tanaka, M. Kisaki, H. Yamaoka, Y. Matsumoto, and M. Wada, Ion-induced gamma-ray detection of fast ions escaping from fusion plasmas, Rev. Sci. Inst., 85, 11E804, pp. 1-3 (2014)
- (橋本)
- Hashimoto, H., David Le Touzé, Nicolas Grenier, Sueyoshi, M. : Investigation of ship flooding situations by MPS and SPH methods compared to dedicated experiments, Proceedings of the 9th International SPHERIC workshop, 395-402 (2014)
- Hashimoto, H., David Le Touzé : Coupled MPS-FEM Model for Violent Flows-Structures Interaction, Proceedings of the 29th Intl Workshop on Water Waves and Floating Bodies, 69-72 (2014)
- David Le Touzé, Hashimoto, H., Nicolas Grenier, Sueyoshi, M. : Comparisons of MPS and SPH methods : Forced Roll Test of a Two-dimensional Damaged Car Deck, Proceedings of the 29th Intl Workshop on Water Waves and Floating Bodies, 129-132 (2014)
- Hashimoto, H., Kawakami, N., Sueyoshi, M., David Le Touzé : Forced Roll Simulation of a Flooded Compartment of PCTC using MPS Method, Conference Proceedings of The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers , 18 , 223-226 (2014)
- Hashimoto, H., David Le Touzé : A Coupled MPS-FEM Model for the Analysis of Violent Flows-Structures Interaction, Conference Proceedings of The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers, 18, 219-222 (2014)
- 橋本博公 : 船向け波浪エネルギー吸収システムの検討, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 19, 509-510 (2014)
- 寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : パラメトリック横揺れ予測数学モデルのパラメータ同定法 (その2) , 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 19, 383-385 (2014)
- 寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : 船舶のパラメトリック横揺れ現象に関する逐次データ同化, 第63回理論応用力学講演会論文集 (2014)
- 河村昂軌, 橋本博公, 松田秋彦 : SPH 法を用いた海水打ち込み時の船体動揺シミュレーション, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 18, 161-164 (2014)
- 寺田大介, 橋本博公, 松田秋彦 : パラメトリック横揺れ予測数学モデルのパラメータ同定法, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 18, 227-230 (2014)
- 米田翔太, 小林英一, 田原裕介, 橋本博公 : 重合格子型 RaNS 法を用いた津波襲来時の船体動揺予測の基礎検討, 日本船舶海洋工学会講演会論文集, 第19号, 447-460 (2014)



### (林)

- ・杉井昌江、林美鶴、矢野吉治、若林伸和：深江丸に搭載された ADCP の概要と海上トライアル、神戸大学大学院海事科学研究科紀要、11, 29-38 (2014)
- ・Mitsuru Hayashi, Mitsuki Ohya, Kentaro Sakamoto, Eiji Yamashita: Which Parameters Affects the Exchange of N<sub>2</sub>O between the Air and the Sea? Proceedings of the Twenty-fourth(2014) International Ocean and Polar Engineering Conference, 648-651 (CD)(2014)
- ・Michio Fujii, Misako Urakami, Mitsuru Hayashi, Nobukazu Wakabayashi: The Development of Meteorological and Oceanographic Data Collection and Recording System Operating on Training Ship, Proceedings of 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2014, 23883, 1-6 (2014)
- ・林美鶴、徳留功樹、小家琢摩、藤井迪生、若林伸和、香西克俊：深江丸で計測した表層水温と明石海峡の潮汐フロント、Navigation, 187, 55-62 (2014)
- ・野崎伸夫、和田真平、林美鶴：神戸大学深江キャンパスにおける海洋・気象観測（2013年1月～12月）神戸大学大学院海事科学研究科紀要、11, 19-28 (2014)

### (山地)

- ・Kohei IKEDA, Kazuyo YAMAJI, Yugo KANAYA, Fumikazu TAKETANI, Xiaole PAN, Yuichi KOMAZAKI, Junichi KUROKAWA, Toshimasa OHARA : Source region attribution of PM<sub>2.5</sub> mass concentrations over Japan, Geochemical journal 49, 185-194 (2015)
- ・K Kudo, H. Tanimoto, S. Inomata, S. Saito, X. Pan, Y. Kanaya, F. Taketani, Z. Wang, H. Chen, H. Dong, M. Zhang, Kazuyo YAMAJI : Emissions of non-methane volatile organic compounds from open crop residue burning in the Yangtze River Delta region, China, Journal of Geophysical Research-Atmospheres 119, 12, 7684-7698 (2014)
- ・Kazuyo YAMAJI, K. Ikeda, H Irie, J Kurokawa, T. Ohara : Influence of Model Grid Resolution on NO<sub>2</sub> Vertical Column Densities over East Asia, Journal of the Air & Waste Management Association 64, 4, 436-444 (2014)
- ・H. Shimadera, H. Hayami, S. Chatani, Y. Morino, Y. Mori, T. Morikawa, Kazuyo YAMAJI, T. Ohara : Sensitivity Analyses of Factors Influencing CMAQ Performance for Fine Particulate Nitrate, Journal of the Air & Waste Management Association 64, 4, 374-387 (2014)
- ・K. Ikeda, Kazuyo YAMAJI, Y. Kanaya, F. Taketani, X. Pan, Y. Komazaki, J. Kurokawa, T Ohara : Sensitivity Analysis of Source Regions to PM<sub>2.5</sub> Concentration at Fukue Island, Japan. Journal of the Air & Waste Management Association 64 , 4 , 445-520 (2014)
- ・山地一代、数値シミュレーションによる船舶起源排ガスの大気環境影響評価：日本マリンエンジニアリング学会誌 49, 6 (2014)

### (首藤)

- ・Nobumichi Shutoh, Tail quantile approximations for hybrid lognormal distribution, SUT Journal of Mathematics, 50(2), 475-482 (2015).

### (浅岡)

- ・Satoshi Asaoka, Yoshiaki Kiso, Tsubasa Oomori, Hideo Okamura, Toshiro Yamada, Masahiro Nagai : An online solid phase extraction method for the determination of ultratrace level phosphate in water with a high performance liquid chromatograph, Chemical Geology 380, 41-47 (2014)
- ・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Yusuke Akita, Katsuyoshi Nakano, Kenji Nakamoto, Kazutoshi Hino, Tadashi Saito, Shinjiro Hayakawa, Misaki Katayama, Yasuhiro Inada : Regeneration of

manganese oxide as adsorption sites for hydrogen sulfide on granulated coal ash, *Chemical Engineering Journal* 254, 531-537 (2014)

• Yoshiaki Kiso, Satoshi Asaoka, Yuki Kamimoto, Seiya Tanimoto, Kuriko Yokota : Detection tube method for trace level arsenic, *Journal of Environmental Chemical Engineering* 3, 40-45 (2015)

• Satoshi Nakai, Satoshi Asaoka, Tetsuji Okuda, Wataru Nishijima : Growth inhibition of *Microcystis aeruginosa* by allelopathic compounds originally isolated from *Myriophyllum spicatum*: temperature and light effects and evidence of possible major mechanisms, *Journal of Chemical Engineering of Japan* 47, 488-493 (2014)

• Tetsuji Okuda, Satoshi Asaoka, Hitomi Yano, Koji Yoshitsugu, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima, Kenji Sugimoto, Daijiro Matsunami, Yorihide Asaoka, Mitsumasa Okada : Chemical behavior of sand alternatives in the marine environment, *Chemosphere*, 111, 164-168 (2014)

• 近藤和博, 高橋嘉夫, 浅岡 聡 : 希土類金属回収材および希土類金属回収方法, 特許第 5713390 号 (2015.3.20)

## 2013 年度

### (岡村)

• Tsuboi, A., Okamura, H., Kaewchuay, N., Fukushi, K., Zhou, X., and Nishida, T. (2013) Degradation of triphenylborane-pyridine (TPBP) antifouling agent in water by copper ions. *Environmental Technology* 34(20): 2835-2840.

• Asaoka, S., Okamura, H., Morisawa, R., Murakami, H., Fukushi, K., Okajima, T., Katayama, M., Inada, Y., Yogi, C., Ohta, T. (2013) Removal of hydrogen sulfide using carbonated steel slag. *Chemical Engineering Journal*. 228: 843-849.

• Togosmaa, L., 岡村秀雄, 浅岡聡 (2013) 水環境における銅ピリチオン防汚剤の運命に及ぼす底質の影響. *環境化学*. 23(2): 65-72.

• Tsunemasa, N., Tsuboi, A., Okamura, H. (2013) Effects of organoboron antifoulants on oyster and sea urchin embryo development. *Int.J.Molecular Sci.* 14, 421-433.

### (蔵岡)

• 金澤未祐, 蔵岡孝治 : 架橋構造を導入したシリカ/デンプン有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製 - トリカルバリル酸の添加効果 - , *日本包装学会誌* 22 (5), 347-356 (2013).

### (香西)

• Comparison of geophysical model functions for SAR wind speed retrieval in Japanese coastal waters, Takeyama Yuko, Ohsawa Teruo, Katsutoshi Kozai, Charlotte Bay Hasager, and Merete Badger, *Remote Sensing*, 5(4), pp.1956-1973, 2013, DOI:10.3390/rs5041956

• Estimation of offshore wind resource in coastal waters off Shirahama using spaceborne synthetic aperture radar images, Takeyama Yuko, Ohsawa Teruo, Tomohiro Yamashita and Katsutoshi Kozai, *Remote Sensing*, 5(6), pp.2883-2897, 2013, DOI:10.3390/rs5062883

• Estimation and validation of offshore wind energy resources using microwave radiometer and scatterometer, Tsuguhiro Morita, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, *Proceedings of International Symposium on Remote Sensing*, 15-17 May 2013, Chiba, Japan

• Verification of WRF simulation for offshore wind energy resources in the Taiwan Strait, Yinghua Jin, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, *Proceedings of International Symposium on Remote Sensing*, 15-17 May 2013, Chiba, Japan

(佐藤)

• Oxidation of Dihedral-angle-controlled 2,2'-Bithiophenes with Terminal Ferrocenyl Groups. Masa-aki Sato ; Syuhei Arita ; Kazuki Kawajiri ; Atsushi Isayama, Chemistry Letters 42 , 12 , 1571-1573

(古山)

• A. Taniike, T. Shinobu, S. Mochizuki, T. Ido, A. Shimizu, M. Nishiura, Y. Furuyama, "Charge fraction measurement for heavy particle beams generated by the tandem accelerator with MCP system," Plasma Fusion Res. 8, 2401087, pp.1-5 (2013).

• D. Akashi, Y. Takeshita, S. Nakamoto, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike, "Basic Characteristics of Secondary Electron Emission from Foil Electrodes for New Energy Recovery Scheme of High Energy Ions in an Advanced Fusion," Transactions of Fusion Science and Technology, Vol.63, pp.301-303 (2013).

• H. Sakoh, Y. Miyoshi, A. Taniike, Y. Furuyama, A. Kitamura, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, T. Murota, T. Tahara, "Heat release characteristics of Ni-based samples absorbing hydrogen isotopes at high temperature," Proc. 13th Meeting of Japan CF Research Society, pp. 214-229 (2013).

• A. Kitamura, H. Sakoh, Y. Miyoshi, A. Taniike, Y. Furuyama, A. Takahashi, R. Seto, Y. Fujita, "Hydrogen isotope absorption / adsorption characteristics of mesoporous-silica-included samples," Proc. 13th Meeting of Japan CF Research Society, pp. 230-241 (2013).

• K. Yokota, M. Tagawa, K. Matsumoto, Y. Furuyama, A. Kitamura, K. Kanda, M. Tode, A. Yoshigoe, Y. Teraoka, "Hydrogen removal from hydrogenated diamond-like carbon films by photon and energetic atomic oxygen exposures," Astrophys. Space Sci. Proc. 32. pp.531-539 (2013).

• Y. Furuyama, Y. Sasaki, Y. Gotoh, A. Taniike, A. Kitamura, "Composition change of the near-surface layer of Li<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> after CO<sub>2</sub> absorption observed with accelerator analyses," Journal of Nuclear Materials. Vol.442, pp. S442-S446 (2013).

• 上坂充、他. 分担執筆(古山雄一), "原子力核セキュリティ連携実験演習 ー大学・大学院・高専の実験演習ネットワークー" 日本原子力学会 学会誌報 vol.55, No.8 (2013) 39-43.

(三村)

• 三村治夫, 林 晴久, 芹澤昭示、マイクロバブルを利用した熱交換器用フェロコ管内壁に形成されるバイオフィルムの抑制及び除去効果、日本海水学会誌, 第 67 巻, 5 号, pp. 289-295 (2013)

• Mimura, Haruo and Miwa, Takashi, Survival Estimation of Pathogenic *Vibrio cholerae* after Invasion from Ballast Water discharged into Tokyo Bay, The Japan Institute of Marine Engineering, Vol. 48, No. 2, pp. 241-245 (2013)

(山内)

• Nabil M. Hassan, Yuri Matai, Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda, Hisahi Kitamura, Teruaki Konishi, Satoshi Kodaira, Nakahiro Yasuda, Tomoya Yamauchi: On the mechanism of the sensitization of PADC (poly(allyl diglycol carbonate)) track detectors by carbon dioxide treatment. Radiation Measurements 59, 23-29 (2013)

• Tomoya Yamauchi, Kenya Matsukawa, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Atsuto Hattori, Yuri Matai, Tamon Kusumoto, Akira Tao, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Teruaki Konishi, Hisashi Kitamura, Nakahiro Yasuda, Remi Barillon: Applicability of Polyimide Films as Etched-Track Detectors for Ultra-Heavy Cosmic Ray Components. Applied Physics Express 6, 046401, 1-4 (2013)

• Tomoya Yamauchi, Shunsuke Kaifu, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda, Satoshi Kodaira,

Teruaki Konishi, Nakahiro Yasuda, Remi Barillon: Applicability of the polyimide films as an SSNTD material. *Radiation Measurements* 50, 16-21 (2013)

• Rémi Barillon, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Tomoya Yamauchi, Nakahiro Yasuda: Chemical cross sections induced by ions in solid organic detectors: Experimentation and simulation. *Radiation Measurements* 50, 38-42 (2013)

• Yutaka Mori, Tomoya Yamauchi, Masato Kanasaki, Atsuto Hattori, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Teruaki Konishi, Nakahiro Yasuda, Sachiko Tojo, Yoshihide Honda, Remi Barillon: Vacuum effects on the radiation chemical yields in PADC films exposed to gamma rays and heavy ions. *Radiation Measurements* 50, 97-102 (2013)

(上田)

• T. Kawakami, Y. Ueda; Asymptotic profiles to the solutions for a nonlinear damped wave equation. *Differential Integral Equations* 26 (2013), no. 7-8, 781-814.

(大澤)

• Yukitaka Ohashi, Susumu Shimada, Teruo Ohsawa, 2013: Numerical simulations of summer mesoscale heat-stress around the Seto Inland Sea, Japan, *Journal of Meteorological Society of Japan*, Vol.92, No.1, pp.121-136.

• 重田祥範, 大橋唯太, 寺尾徹, 大澤輝夫, 2013 : 愛媛県大洲市沿岸部で発生する局地風”肱川あらし”の鉛直構造, *天気*, Vol.61, No.2, pp.91-96.

• 笹健児, 塩谷茂明, 寺田大介, 若林伸和, 大澤輝夫, 2013/11 : データ分析から見た船舶運航における波浪予報の現状と課題について, *土木学会論文集 B3 (海洋開発)*, Vol.69, No.2, pp.I\_61-I\_66.

• Yuko Takeyama, Teruo Ohsawa, Tomohiro Yamashita, Katsutoshi Kozai, Yasuyuki Baba, Koji Kawaguchi, 2013: Estimation of offshore wind resource in coastal waters off Shirahama using ENVISAT ASAR images, *Remote Sensing*, Vol.5, No.6, pp.2883-2897.

• Yuko Takeyama, Teruo Ohsawa, Katsutoshi Kozai, Charlotte Bay Hasager, Merete Badger, 2013: Comparison of geophysical model functions for SAR wind speed retrieval in Japanese coastal waters, *Remote Sensing*, Vol.5, No.4, pp.1956-1973.

• Kenji Sasa, Daisuke Terada, Shigeaki Shiotani, Nobukazu Wakabayashi, Teruo Ohsawa, 2013: Current situation and difficulty of wave forecast from viewpoint of ship management, *Proc. of the 32nd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering*, 9-14 Jun 2013, Nantes, France, No.10257, 8p.

• Teruo Ohsawa, Susumu Shimada, Detlev Heinemann, Gerald Steinfeld, Michael Schmidt, Lüder von Bremen, Jens Tambke, 2013: Offshore wind resource maps in German coastal waters based on WRF simulation, *Proc. of EWEA OFFSHORE 2013*, 19-21 Nov 2013, Frankfurt, Germany, PO.258, pp.1-8.

• Yuko Takeyama, Teruo Ohsawa, Tomohiro Yamashita, Katsutoshi Kozai, Yasunori Muto, Yasuyuki Baba, Koji Kawaguchi, 2013: Making offshore wind resources map in Japanese coastal waters by ENVISAT ASAR images, *Proc. of EWEA OFFSHORE 2013*, 19-21 Nov 2013, Frankfurt, Germany, PO.212, pp.1-10.

• Tsuguhiko Morita, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, 2013: Estimation and validation of offshore wind energy resources using microwave radiometer and scatterometer, *Proc. of International Symposium on Remote Sensing*, 15-17 May 2013, Chiba, Japan, A7-01.

• Yinghua Jin, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, 2013: Verification of WRF simulation for offshore wind energy resources in the Taiwan Strait, *Proc. of International Symposium on Remote Sensing*, 15-17 May 2013, Chiba, Japan, Q2-04.

・大澤輝夫, 香西克俊, 2013 : 洋上における表層気象観測値を利用した風車ハブ高度の風力資源量調査, 第 35 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11 月 12-13 日, 東京, pp.351-354.

・見崎豪之, 大澤輝夫, 竹山優子, 香西克俊, 馬場康之, 川口浩二, 2013 : 沿岸海域における WRF 水平風速勾配の計算精度, 第 35 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11 月 12-13 日, 東京, pp.347-350.

・嶋田進, 大澤輝夫, 往岸達也, 菊島義弘, 小垣哲也, 川口浩二, 中村聡志, 2013 : 波崎海洋研究施設におけるウィンドライダーを用いた風速鉛直プロファイル観測, 第 35 回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 11 月 12-13 日, 東京, pp.359-362.

・見崎豪之, 大澤輝夫, 香西克俊, 馬場康之, 川口浩二, 2013 : メソ気象モデル WRF によって計算された沿岸海域における水平風速勾配の精度検証, 日本風工学研究会誌 (平成 25 年度年次研究発表会梗概集), Vol.135, pp.131-132.

#### (笹)

・Chen, C., Shiotani, S. and Sasa, K.: “Numerical Ship Navigation Based on Weather and Ocean Simulation”, Journal of Ocean Engineering, Vol.69, pp.43-53, 2013

・笹 健児, 寺田大介, 塩谷茂明, 若林伸和, 池淵卓郎 : 実海域における荒天航海時の貨物船の運動性能について-オンボードデータによる運動および波浪特性の分析・推定-, 日本船舶海洋工学会論文集, 第 18 号, pp.167-175, 2013

・Sasa, K., Terada, D., Shiotani, S., Wakabayashi, N., and Ohsawa, T.: “Current Situation and Difficulty of Wave Forecast from Viewpoint of Ship Management”, Proceedings of the 32nd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2013, pp.1-8, 2013

・Shimizu, S., Fujii, M., Koga, E., Sasa, K., Kimura, Y. and Kitakaze, H.: “Study of Tidal Stream Electricity Generation for Obatake Strait”, Proceedings of the 23rd International Conference of Offshore and Polar Engineering, 2013

・Shiotani, S., Sasa, K., Wakabayashi, N. and Terada, D.: “Measurement of Sea-Shocks Response of a Sailing Ship in Japan”, Proceedings of the 23rd International Conference of Offshore and Polar Engineering, 2013

・柳 馨竹, 中尾謙太, 堀川大介, 塩谷茂明, 笹 健児 : GIS を用いた船舶出入港時の航海シミュレーションの研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発) 特集号, Vol.69, No.2, pp.I\_610-I\_615, 2013

・笹 健児, 塩谷茂明, 寺田大介, 若林伸和, 大澤輝夫 : データ分析から見た船舶運航における波浪予報の現状と課題について, 土木学会論文集 B3 (海洋開発) 特集号, Vol.69, No.2, pp.I\_61-I\_66, 2013

・曾田泰介, 塩谷茂明, 笹 健児 : 気象・海象を考慮した数値ナビゲーションシステムの基礎的研究, 日本船舶海洋工学会論文集, 第 16 号, pp.155-164, 2013

#### (谷池)

・Akashi Daisuke, Takeshita Yousuke, Nakamoto Satoshi, Takeno Hiromasa, Yasaka Yasuyoshi, Furuyama Yuichi, Taniike Akira, Basic Characteristics of Secondary Electron Emission from Foil Electrodes for New Energy Recovery Scheme of High Energy Ions in an Advanced Fusion, Trans. Fusion Sci. Tech., 63, 1T, pp. 301-303 (2013)

・Yuichi Furuyama, Yuki Sasaki, Yuji Gotho, Akira Taniike, Akira Kitamura, Composition change of near-surface layer of  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  after  $\text{CO}_2$  absorption observed with accelerator analyses, J. Nucl. Mater., 442, pp. S442-S446 (2013)

・ Akira Taniike, Tomoaki Shinobu, Sho Mochizuki, Takeshi Ido, Akihiro Shimizu, Masaki Nishiura, Yuichi Furuyama, Charge Fraction Measurements for Heavy Particle Beams Generated by the Tandem Accelerator with MCP System, Plasma and Fusion Research, 8, 2401087, pp. 1-5 (2013)

(林)

・ Mitsuru Hayashi, Mitsuki Ohya, Kentaro Sakamoto, Eiji Yamashita: Estimation of the air-sea N<sub>2</sub>O flux based on the measured data in the Japanese coastal sea. Proceedings of EMECS 10- MEDCOAST 2013 Joint Conference 2, 1185-1195 (2013)

・ Mitsuru Hayashi, Ryutaro Koga, Tomoyasu Fujii, Keigo Yamamoto: Analysis of Seawater Run Up in the Yodo River Estuary. Proceedings of EMECS 10- MEDCOAST 2013 Joint Conference 2, 1225-1235 (2013)

・ 柳東勲、林美鶴、新田好古、藤田浩嗣：船舶運航条件が亜酸化窒素排出に及ぼす影響、日本マリンエンジニアリング学会誌、48, 5, 106-112 (2013)

・ 林美鶴：柳哲雄教授との九州大学応用力学研究所共同利用研究成果の概略、九州大学応用力学研究所所報、145, 67-71 (2013)

(山地)

・ Yugo Kanaya, Hajime Akimoto, Zifa Wang, Pakpong Pochanart, Kimitaka Kawamura, Yu Liu, Jie Li Yuichi Komazaki, Hitoshi Irie, Xiaole Pan, Fumikazu Taketani, Kazuyo Yamaji, Hiroshi Tanimoto, Satoshi Inomata, Shungo Kato, Jeeranut Suthawaree, Kazuhiro Okuzawa, Gehui Wang, Shankar Gopala Aggarwal, Pingqing Fu, Tao Wang, J. Gao, Y. Wang, Guoshun Zhuang : Overview of the Mount Tai Experiment (MTX2006) in Central East China in June 2006: studies of significant regional air pollution : Atmospheric Chemistry and Physics 13,16, 8265-8283 (2013)

・ Hitoshi Irie, Kazuyo Yamaji, Kohei Ikeda, Itsushi Uno, Shuichi Itahashi, Toshimasa Ohara, J. Kurokawa : An evaluation of the CMAQ reproducibility of satellite tropospheric NO<sub>2</sub> column observations at different local times over East Asia : Atmospheric Chemistry and Physics (Discussion paper) 13,5, 14037-14067 (2013)

・ Amin Nawahda, Ken Yamashita, Junichi Kurokawa, Ohara Toshimasa, Kazuyo Yamaji : Evaluation of the Effect of Surface Ozone on Main Crops in East Asia: 2000, 2005, and 2020 : Water Air and Soil Pollution, 224, 1537 (2013)

・ Kohei Ikeda, Kazuyo Yamaji, Yugo Kanaya, +4 more authors, Toshimasa Ohara : Model analysis of seasonal variation of PM<sub>2.5</sub> across Japan and its regional-scale transport in East Asia, (2013)

・ Jie Li, Zifa Wang, Kazuyo Yamaji, Masayuki Takigawa, Yugo Kanaya, Fumikazu Taketani, Xiaole Pan, M. Hu, F. Meng, Ting Yang : Uplifting of Asian Continental Pollution Plumes from the Boundary Layer to the Free Atmosphere over the Northwestern Pacific Rim in Spring, Scientific online letters on the atmosphere: SOLA, 9, 40-44, (2013)

・ Kazuyo YAMAJI, 図説地球環境の事典 (吉崎ら編) 朝倉書店 2013.9.

(浅岡)

・ Satoshi Asaoka, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima : Determination method for maximum calcium releasing potential from steel slags, marine sands alternatives in seawater, ISIJ International 53, 1888-1893 (2013)

・ Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Ryosuke Morisawa, Hiroshi Murakami, Keiichi Fukushi, Toshihiro Okajima, Misaki Katayama, Yasuhiro Inada, Chihiro Yogi, Toshiaki Ohta : Removal of hydrogen sulfide using carbonated steel slag, Chemical Engineering Journal 228, 843-849 (2013)

- ・浅岡 聡, 山本民次 : 酸素発生材, 酸素発生材の製造方法及び環境改善方法, 特許第 5257928 号 (2013.5.2)
- ・Keisuke Okada, Tamiji Yamamoto, Kyung-Hoi Kim, Satoshi Asaoka, Shinjiro Hayakawa, Kazuhiko Takeda, Tetsuya Watanabe, Akio Hayashi, Yasuhito Miyata : Removal of hydrogen sulfide with steelmaking slag by concurrent reactions of sulfide mineralization and oxidation, Ecological Engineering 63, 122-126 (2014)
- ・Togosmaa Luvsantsend, 岡村秀雄, 浅岡 聡 : 水環境における銅ピリチオン防汚剤の運命に及ぼす底質の影響, 環境化学 23, 65-72
- ・山本民次, 浅岡 聡 : カキ殻のリサイクルによる海域環境の修復, 化学と工業 66, 978-980(2013)

## 5. 研究発表 (2013 年度から 2016 年度)

### 2016 年度

#### (岡村)

- ・林穎卿、北野徳治、松林雅之、岡村秀雄、浅岡聡. 2017. 日本沿岸の表層海水中の溶存態ニッケルの分布. 第 51 回日本水環境学会年会講演集.
- ・北野徳治、田中風太、中村紗矢香、岡村秀雄、浅岡聡. 2016. 溶出試験による漁網防汚塗料から海水に溶出した銅が海産藻類に及ぼす影響. 第 22 回日本環境毒性学会講演要旨集. 19-20.

#### (小田)

- ・梅谷圭吾、大藤広暉、金崎真聡、森 豊、小田啓二 : 海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算(3)、日本原子力学会 2017 年春の年会、東海大学、2017. 3.
- ・K. Umetani, H. Ofuji, M. Kanasaki, Y. Mori, K. Oda: Proposal of Utilization of Training Ships for Emergency Radiation Monitoring in Nuclear Disaster, 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Oarai, Japan, 2016. 12.
- ・H. Ofuji, K. Umetani, M. Kanasaki, Y. Mori, K. Oda: Calculation of Dose Rate Distribution in the Training Ship for Maritime Mobile Radiation Monitoring System, 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Oarai, Japan, 2016. 12.
- ・小田啓二 : 原子力災害時における船舶活用の提案、日本放射線安全管理学会第 15 回学術大会、岡山大学、2016. 12.
- ・大藤広暉、梅谷圭吾、金崎真聡、森 豊、小田啓二 : 海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算、日本放射線安全管理学会第 15 回学術大会、岡山大学、2016. 12.
- ・梅谷圭吾、大藤広暉、金崎真聡、森 豊、小田啓二 : 海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算(2)、日本原子力学会 2016 年秋の年会、久留米シティプラザ、2016. 9.
- ・小田啓二 : 原子力災害時における船舶活用の提案、日本保健物理学会第 49 回研究発表会、弘前文化センター、2016. 7.
- ・大藤広暉、梅谷圭吾、金崎真聡、小田啓二 : 海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算、日本保健物理学会第 49 回研究発表会、弘前文化センター、2016. 7.

・大藤広暉、梅谷圭吾、金崎真聡、小田啓二：海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算、日本保健物理学会第49回研究発表会、弘前文化センター、2016.7.

#### (蔵岡)

・蔵岡孝治、新免佑太、小坂誠二郎、関浩康、加藤秀利：ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜のガスバリア特性、日本セラミックス協会2017年年会、日本大学、2017.3.

・中谷遼、蔵岡孝治：有機-無機ハイブリッド二酸化炭素分離膜の作製と気体透過特性、第55回セラミックス基礎科学討論会、岡山コンベンションセンター、2017.1.

・三木万海、蔵岡孝治：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、膜シンポジウム2016、関西大学、2016.12.

・蔵岡孝治、塩野剛、三木万海：有機修飾層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本セラミックス協会第29回秋季シンポジウム、広島大学、2016.9.

・Takuma Tanaka and Koji Kuraoka: Preparation of silica/hydrophilic polymer inorganic-organic hybrid oil/water separation membranes via sol-gel method, The 10th Conference of Aseanian Membrane Society (AMS10), Nara Kasugano International Forum, Nara, 2016.7.

・Koji Kuraoka and Miyu Kanazawa: Preparation and gas barrier properties of silica/starch organic-inorganic hybrid gas barrier membranes with cross-linked structure, The 10th Conference of Aseanian Membrane Society (AMS10), Nara Kasugano International Forum, Nara, 2016.7.

・Koji Kuraoka and Risako Yamamoto: Preparation and gas barrier properties of silica/chitosan organic-inorganic hybrid gas barrier membranes with cross-linked structure, The 10th Conference of Aseanian Membrane Society (AMS10), Nara Kasugano International Forum, Nara, 2016.7.

・岩崎友美、蔵岡孝治、西岡幸泰、小林理規、竹内秀治：シリカ/セルロース有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第25回年次大会、神戸大学、2016.7.

・原谷知宏、蔵岡孝治：層状化合物を分散した有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその膜特性評価、日本包装学会第25回年次大会、神戸大学、2016.7.

・蔵岡孝治、新免佑太、小坂誠二郎、関浩康、加藤秀利：ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とガスバリア特性、日本包装学会第25回年次大会、神戸大学、2016.7.

・三木万海、蔵岡孝治：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第25回年次大会、神戸大学、2016.7.

#### (香西)

・Investigation on offshore wind energy resource using AMSR2-derived wind speed and mesoscale meteorological model WRF-Influence of atmospheric stability on wind speed profile-, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, Ryotaro Abo, Joint PI Meeting of Global Environment Observation Mission 2016, Jan.25-27, 2017, TKP Garden City Takebashi, Tokyo, Japan

・マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発—大気安定度の風速プロファイルへの影響—、香西克俊、大澤輝夫、安保遼太郎、第19回環境リモートセンシングシンポジウム、千葉大学けやき会館、2017年2月16日

#### (嶋田)

・芦高 勇氣, 嶋田博行, 箱田裕司 (2016). 「記憶表象に基づくキー押し反応—マッピングの操作」日本基礎心理学会第34回大会(2015年11月) 大阪樟蔭女子大学・小阪・EELキャンパス



2015年11月28日(土)～29日(日)

(古山)

- ・中村 穂高、武田 翼、藤原 滉基、谷池 晃、古山 雄一 固体ブランケット候補材料  $\text{Li}_2\text{ZrO}_3$  と  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  の  $\text{CO}_2$  吸収特性 日本原子力学会 2017 春の年会 2017 年 3 月 26 日 東海大学湘南キャンパス
- ・西村洋亮, 宇都宮匠, 吉岡良兼, 谷池晃, 古山雄一, 西浦正樹, 土居謙太, 木崎雅志, 松本新功, 山岡人志 ピンホールコロメータを用いた高エネルギーガンマ線イメージングシステム開発 日本原子力学会春の年会, 東海大学, 2017.3
- ・谷池晃, 岩岡恭平, 藤田尚希, 山下裕之, 古山雄一 ポリカーボネートのイオンビームその場グラフト重合と重イオン照射 日本原子力学会春の年会, 東海大学, 2017.3
- ・中村穂高、武田 翼、藤原滉基、谷池晃、古山雄一 NRBS を用いた核融合ブランケット候補材の  $\text{CO}_2$  吸収特性評価 若手フロンティア研究会 2016, 神戸大学, 2016 年 12 月 21 日
- ・紺野祥太, 清水祐樹, 井原康輔, 中本聡, 市村和也, 竹野裕正, 古山雄一, 谷池 晃 二次電子放出を利用した高速イオンからのエネルギー回収装置における捕集電極構造の改良 平成 28 年電気関係学会関西連合大会, 2016 年 11 月 23 日
- ・清水祐樹, 紺野祥太, 中本聡, 竹野裕正, 古山雄一, 谷池晃 二次電子放出を利用した高速イオンからのエネルギー回収法における電極間滞留電子の測定 平成 28 年電気関係学会関西連合大会, 2016 年 11 月 22 日
- ・岩岡恭平, 藤田尚希, 谷池晃, 古山雄一 重金属イオンビームを照射したポリカーボネートの導電率のフルエンス依存性 日本原子力学会春の年会, 久留米シティープラザ, 2016.9
- ・宇都宮匠, 西村洋亮, 谷池晃, 古山雄一, 西浦正樹, 土居謙太, 木崎雅志 損失  $\alpha$  粒子の Be 壁入射角度に対する核反応ガンマ線スペクトル 日本原子力学会秋の大会, 久留米シティープラザ, 2016.9
- ・A.Taniike, K. Iwaoka, N. Fujita, S. Kusaka, Y. Furuyama. Introduction of conductivity to the polymer with a heavy ion beam irradiation for production of a functional polymer substrate. 12th European Conference on Accelerators in Applied Research and Technology, Jyvaskyla, Finland, 2016.7

(三村)

- ・廣野康平、中島叡祥、矢野吉治、三村治夫、遠藤紀之、：青色 LED 光の放射強度及び明滅間隔に依存したフジツボ付着期幼生の着生率の変化、第 86 回マリンエンジニアリング学術講演会 (2016 年 10 月 25 日)(〒670-8505 兵庫県姫路市 姫路商工会議所)
- ・中島叡祥、廣野康平、矢野吉治、三村治夫、遠藤紀之、河合和弥、航行船と海岸線との距離を指標としたフジツボ幼生の種及び個体数の分布、第 86 回マリンエンジニアリング学術講演会 (2016 年 10 月 25 日)(〒670-8505 兵庫県姫路市 姫路商工会議所)
- ・中川和磨、三村治夫、遠藤紀之、平行平板の間隙に依存したフジツボキプリス幼生の着生行動の変化、第 53 回好塩微生物研究会 (平成 28 年 12 月 10 日)(〒658-0022 兵庫県神戸市東灘区)

(山内)

- ・楠本多聞、森豊、山内知也：高分子系エッチング型飛跡検出器中イオントラックの研究、光・量子デバイス研究会、電気学会：兵庫県民会館、2017.3.
- ・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、レミバリオン、山内知也：紫外線(222 nm)照射下で PADC 検出器中に形成される 損傷サイズ評価、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.

- ・寺下佳孝、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、小平聡、山内知也：検出閾値近傍におけるPADC中イオントラックのステップ状構造変化、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・山内知也、楠本多聞、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、レミバリオン：高分子系エッチング型飛跡検出器中に形成されるイオントラックの検出閾値近傍における特徴、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・楠本多聞、上田隆裕、上野琢也、亀田結貴、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、菅田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC検出器の放射線感受性領域に見られる段階的な損傷過程、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・楠本多聞、小田啓二、ジアッドエルビタ、ニコラスアーバ、レミバリオン、山内知也：PADC検出器中に形成されるイオントラックと二次電子フルエンスの関係、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・亀田結貴、金崎真聡、神野智史、福田祐仁、小田啓二、山内知也：PADC検出器中に存在するヒドロキシル基の定量分析とその化学エッチング特性、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・東和樹、楠本多聞、寺下佳孝、上野琢也、上田隆裕、亀田結貴、金崎真聡、小田啓二、山内知也：ポリビニルアルコール中ヒドロキシル基の赤外線分光法による定量分析、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・寺下佳孝、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、小平聡、山内知也：検出閾値近傍におけるPADC中イオントラックのステップ状構造変化、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・山内知也：固体飛跡検出器研究会 歴史と現在、そしてこれから第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・山内知也：高分子系飛跡検出器中に形成されるイオントラック 第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、山内知也：紫外線照射下でPADC検出器中に形成される損傷特性評価、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・酒井盛寿、楠本多聞、上野琢也、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、山内知也：実効電荷を考慮した局所線量分布の現代的更新とその閾値周辺への活用、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・上野琢也、楠本多聞、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、小平聡、山内知也：重イオン弁別型飛跡検出器開発のためのPETの特性評価、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・上田隆裕、寺下佳孝、楠本多聞、金崎真聡、小田啓二、小平聡、山内知也：赤外顕微鏡を用いた高分子中イオントラックの分析、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・亀田結貴、金崎真聡、福田祐仁、神野智史、小田啓二、山内知也：PADC 検出器に対するエッチピット生成感度の深さ依存性、第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.
- ・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング機能による放射線損傷パラメータの評価、第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・上野琢也、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：固体飛跡検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特異性研究、第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・寺下佳孝、楠本多聞、上田隆裕、上野琢也、亀田結貴、金崎真聡、小田啓二、石川一平、山内知也：重合度の異なるプラスチック飛跡検出器(ポリアリルジグリコールカーボネート)の赤外線吸収スペクトル分析、第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、菅田義英、藤乗幸子、ミッシェルフロム、ジョニーエマニュエルグロエツ、小平聡、北村尚、レミバリオン、山内知也：PADC 飛跡検出器の放射線高感受性部に見られる段階的な損傷形成、第59回放射線化学討論会、高崎応用量子研究所、2016.9.

#### (上田)

・ Yoshihiro Ueda, Stability condition for a system of delay-differential equations and its application, Oberseminar Partielle Differentialgleichungen, University of Konstanz, Konstanz, Germany, (April 2016).

・ Yoshihiro Ueda, Analysis for the regularity-loss structure of thermoelastic plate equations, 16th International Conference on Hyperbolic Problems: Theory, Numerics, Applications, RWTH Aachen University, Aachen, Germany, (August 2016).

・ Yoshihiro Ueda, Stability criterion for a system of delay-differential equations and its application, GSSI Seminar, Gran Sasso Science Institute, L'Aquila, Italy, (November 2016).

・ Yoshihiro Ueda, Classification of the dissipative structure for the hyperbolic system with relaxation, TLUKKA, University of Konstanz, Konstanz, Germany, (February 2017).

・ Yoshihiro Ueda, Classification of the dissipative structure for the hyperbolic system with relaxation, DK seminar, Vienna University of Technology, Vienna, Austria, (March 2017).

・ Yoshihiro Ueda, New stability criterion for the system of regularity-loss type, PDE Colloquium in Konstanz, University of Konstanz, Konstanz, Germany, (March 2017).

#### (大澤)

・大澤輝夫, 2016: 洋上風況マップについて, 第17回風力エネルギー利用総合セミナー(招待講演), 2016年6月23-24日, 足利.

・大澤輝夫, 2016: 洋上風況観測システム実証研究(洋上風況マップ), NEDO平成28年度成果報告会, 2016年10月27日, 横浜.

・大澤輝夫, 香西克俊, 嶋田進, 竹山優子, 小垣哲也, 2016: NEDO洋上風況マップにおけるWRF計算精度の検証, 日本気象学会2016年度秋季大会, 2016年10月26-28日, 名古屋.

・上出宏和, 大澤輝夫, 加藤茉莉, 見崎豪之, 2016: 沿岸域海上風況実測データを用いたWRF計算風速のバイアス特性の検討, 日本気象学会関西支部例会, 2016年12月21日, 大阪.

#### (笹)

・笹健児: ばら積み貨物船による荒天航海に関する諸特性について - 海域・季節ごとの比較 -, 日本船舶海洋工学会第72回実海域推進性能研究会にて講演, 2016年4月28日, 東京海洋大学越中島キャンパス

・盧麗鋒, 笹健児, 佐々木亘: “Numerical Simulation of Wind Waves in Rough Seas using Different Wind Inputs - Comparison and Verification -“, 日本船舶海洋工学会第72回実海域推進性能研究会

にて講演、2016年4月28日、東京海洋大学越中島キャンパス

・笹健児、盧麗鋒、佐々木亘、Odd Faltinsen：南半球の荒天航海時におけるオンボードデータおよびEUTによる沖合波浪の推定について、日本船舶海洋工学会第4回推進・運動性能研究会にて講演、2016年6月17日、神戸大学海事科学研究科深江キャンパス

・Lu, L., Sasa, K., and Sasaki, W., “Comparison of wind field and simulated wave in severe weather from a perspective of weather routing: a case study along South African coast”, 日本海洋学会2016年度秋季大会講演会、2016年9月13日、鹿児島大学郡元キャンパス

・盧麗鋒、笹健児、佐々木亘：南半球の荒天航海時におけるオンボードデータおよびEUTによる沖合波浪の推定について（第二報）—タスマン海および大西洋における波浪特性を含めた考察—、日本船舶海洋工学会第5回推進運動性能研究会にて講演、2016年10月21日、海上技術安全研究所

・笹健児、盧麗鋒、Odd Faltinsen、佐々木亘：20,000DWTばら積み貨物船の南半球航海時における船速低下の再現性について、日本船舶海洋工学会第5回推進運動性能研究会にて講演、2016年10月20日、海上技術安全研究所会第5回推進運動性能研究会にて講演、2016年10月21日、海上技術安全研究所

（谷池）

・A. Taniike, K. Iwaoka, N. Fujita, S. Kusaka, Y. Furuyama: Introduction of conductivity to the polymer with a heavy ion beam irradiation for production of a functional polymer substrate, 12<sup>th</sup> European Conference on Accelerators in Applied Research and Technology, Jyväskylä, Finland, 2016.7

・井戸毅、清水昭博、牧野良平、加藤眞治、塚田究、谷池晃：LHDにおける高エネルギー重イオンビームプローブのための高効率位置検出器の開発、第11回核融合エネルギー連合講演会、九州大学伊都キャンパス、2016.7

・宇都宮匠、西村洋亮、谷池晃、古山雄一、西浦正樹、土居謙太、木崎雅志：損失 $\alpha$ 粒子のBe壁入射角度に対する核反応ガンマ線スペクトル、日本原子力学会秋の大会、久留米シティープラザ、2016.9

・岩岡恭平、藤田尚希、谷池晃、古山雄一：重金属イオンビームを照射したポリカーボネートの導電率のフルエンス依存性、日本原子力学会春の年会、久留米シティープラザ、2016.9

・谷池晃、岩岡恭平、藤田尚希、山下裕之、古山雄一：ポリカーボネートのイオンビームその場グラフト重合と重イオン照射」、日本原子力学会春の年会、東海大学、2017.3

・西村洋亮、宇都宮匠、吉岡良兼、谷池晃、古山雄一、西浦正樹、土居謙太、木崎雅志、松本新功、山岡人志：ピンホールコリメータを用いた高エネルギーガンマ線イメージングシステム開発、日本原子力学会春の年会、東海大学、2017.3

（橋本）

・Hashimoto, H., Kawamura, K., Hata, Y. : Numerical analysis of sloshing load under a seismic motion assuming Nankai Trough earthquake, The 3rd International Symposium on Natural and Technological Risk Reduction at Large Industrial Parks 2017.3.

・橋本博公、河村昂軌：粒子法シミュレーションを用いた動的復原性評価の現状、第4回推進・運動性能研究会、2016.6

・松田秋彦、橋本博公：複数の模型船を用いたロボット船舶の検証システム、船舶の運航自動化に関するワークショップ、2017.3

・河村昂軌、橋本博公、小野寺直幸：粒子法を用いた船舶の浸水計算、第35回粒子法コードユーザグループ会合、2017.3

・河村昂軌, 小野寺直幸, 橋本博公: GPU クラスタを用いた粒子法の開発と船舶分野への適用, 粒子法コードユーザーグループ第 34 回会合, 2016.9

(林)

・中田聡史、林美鶴、小林英一：津波からの船舶避航および海洋環境減災のための津波×海洋シミュレーション、第 9 回海事防災研究会、神戸大学深江キャンパス、2017.3.

・中田聡史、林美鶴、小林英一：潮汐・津波シミュレーションを船舶避難に活かす—強流域・津波渦の予測、神戸海難防止研究会(第 44 回月例会)、神戸まちづくり会館、2017.2.

・林美鶴：大阪湾に出現するフロントに関する考察、第 2 回海洋環境研究集会、神戸大学深江キャンパス、2016.12.

・中田聡史、小林志保、中嶋昌紀、山本圭吾、秋山諭、石坂丞二、林正能、中村一平、林美鶴、瀧真輝：大阪湾における台風襲来後に発生する大規模赤潮の動態解析、第 6 回 La Mer 共同利用研究集会” 赤潮の予測に向けた観測とモデリング “、愛媛大学沿岸環境科学研究センター、2016.11.

・Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Port resolving, tsunami and tide simulation to find “tsunami vortexes” for safe vessel evacuation, The 35th JSST (Japan Society for Simulation Technology) Annual Conference International Conference on Simulation Technology, Kyoto, 2016.10.

・林美鶴、宮脇知美、古賀竜太郎：塩分を加味して河川に適用した低次生態系モデル、日本海洋学会 2016 年度秋季大会、鹿児島大学郡元キャンパス、2016.9.

・中村一平、中田聡史、石坂丞二、小林志保、中嶋昌紀、瀧真輝、林美鶴：現場と静止海色衛星データを用いた大阪湾における季節内から日変化までの赤潮動態の解析、日本海洋学会 2016 年度秋季大会、鹿児島大学郡元キャンパス、2016.9.

・林美鶴、宮脇知美、古賀竜太郎：塩分を加味した海洋性有毒植物プランクトンの数値生態系モデル、日仏海洋学会 2016 年度学術研究発表会、日仏会館（東京）、2016.6.

・Mitsuru Hayashi, Tomomi Miyawaki, Ryutaro Koga: Analysis of Marine Phytoplankton in the Yodo River Estuary by the Numerical Ecosystem Model, Proceedings of EMECS (Environmental Management of Enclosed Coastal Seas) 11- Sea Coast XXVI Joint Conference, Russia (Saint Petersburg), 2016.8.

・Mitsuru Hayashi, Satoshi Nakada, Taketo Abe, Eiichi Kobayashi: Influence of Eddies on Vessel Evacuation from Tsunami, The Twenty-sixth (2016) International Ocean and Polar Engineering Conference, Greece (Rhodos), 2016.6~7.

・Satoshi Nakada, Soto Suzuki, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Simulation of Heavy Metal Transport Induced by a Giant Tsunami Based on Nankai-Trough Earthquake: Application to Osaka Bay, The Twenty-sixth (2016) International Ocean and Polar Engineering Conference, Greece (Rhodos), 2016.6~7.

・林美鶴、中田聡史：津波が引き起こす大阪湾での海底堆積物・物質の巻き上げ、日本地球惑星科学連合 2016 年大会、幕張メッセ、2016.5.

・林美鶴：淀川潮間帯で発生する有毒植物プランクトンの数値生態系モデルによる解析、日本地球惑星科学連合 2016 年大会、幕張メッセ、2016.5.

・中田聡史・林美鶴・小林英一・越村俊一：巨大津波襲来時における避航のための渦場の解析、日本地球惑星科学連合 2016 年大会、幕張メッセ、2016.5.

・中田聡史、小林志保、石坂丞二、林正能、瀧真輝、中嶋昌紀：大阪湾における河川プリユ

ームの動態解析：海色衛星観測データを用いた海表面塩分の新推定法」日本地球惑星科学連  
合 2016 年大会、幕張メッセ、2016.5.

・中田聡史、小林志保、中嶋昌紀、石坂丞二、林正能、中村一平、林美鶴、淵真輝：海色衛  
星観測データを用いた埋立地周辺を含む大阪湾における赤潮動態の解明」大阪湾圏域の海域  
環境再生・創造に関する研究助成制度（平成 27 年度実施）成果発表会、ラッセホールリリー  
（神戸）、2016.5.

#### （堀田）

・堀田弘樹、鈴木祐哉、角田欣一、液液光導波路を用いたラジカル消去反応の観察、第 53  
回フローインジェクション分析講演会、同志社大学、2016.11.5.

・角安麻奈、堀田弘樹、石原れい子、角田欣一、電気透析を利用したフロー小型脱塩セルに  
よる脱塩の選択性について、第 53 回フローインジェクション分析講演会、同志社大学、  
2016.11.5.（ポスター）

・堀田弘樹、ESI-MS を用いた微量元素定量法の開発、第 21 回 徳島地区分析技術セミナー  
（徳島地区講演会）、徳島大学、2017.1.20.（依頼講演）

#### （山地）

・Kazuyo Yamaji：光化学オキシダント影響評価に向けた数値モデル研究、大気環境学会近畿  
支部人体影響部会 2015 年度セミナー「光化学オキシダントの実態と健康影響」、2016.3.

・山地一代、上出広和、茶谷聡、速水洋、嶋寺光：2011 年夏季関東地域を対象とした大気質  
モデルによる二次大気汚染物質の再現性の評価、Japan Geoscience Union Meeting 2016、(2016)

・林田 佐智子、出牛 真、梶野 瑞王、山地 一代、関山 剛、眞木 貴史：東アジアにおける下  
部対流圏オゾンの衛星観測とモデルシミュレーションの比較、Japan Geoscience Union Meeting  
2016、(2016)

・山地一代、上出広和、茶谷聡、速水洋、嶋寺光：都市域を対象とした大気質モデルによる二  
次大気汚染物質の再現性の評価、第 57 回大気環境学会年会、北海道大学、(2016)

・Kazuyo Yamaji, Hirokazu Uede, Satoru Chatani, Hiroshi Hayami, Hikari Shimadera: Evaluation of  
performance of simulated secondary pollutants by using air quality models for urban areas in Japan,  
2016 IGAC Science Conference, Breckenridge, US, 2016

・Sachiko Hayashida, Makoto Deushi, Kazuyo Yamaji, Mizuo Kajino, Tsuyoshi Thomas Sekiyama,  
Takashi Maki, Xiong Liu: Satellite measurement of the lower tropospheric ozone enhancement over  
East Asia – elimination of the effect from the upper troposphere and lower stratosphere, 2016  
IGAC Science Conference, Breckenridge, US, 2016

・梶野瑞王, 林田佐智子, 山地一代, 出牛真, 関山剛, 眞木貴史：中国上空におけるオゾンの増  
加、モデルシミュレーションと衛星観測の比較、第 22 回大気化学討論会、札幌、2016

・山地一代：モデル間相互比較 J-STREAM の紹介とお誘い、アジア域の化学輸送モデルの現  
状と今後の展開に関する研究集会、九州大学、(2016)

・Kazuyo Yamaji: Preliminary results of O3 comparison in J-STREAM project, 8th International  
Workshop on Atmospheric Modeling Research in East Asia, Laxenburg, Austria, 2017

・林田佐智子、出牛真、山地一代、梶野瑞王、関山剛、眞木貴史：中国中東部におけるオゾン  
増加：衛星観測とモデルシミュレーションの比較、日本気象学会 2016 年度春季大会、国立オ  
リンピック記念青少年総合センター、5 月 18 日～21 日、2016 年

・松井駿佑、山地一代、茶谷聡：WRF-CMAQ による関西都市域の PM2.5 とその成分の再現

性について、大気環境学会近畿支部第5回支部研究発表会、2016.12

(首藤)

・首藤 信通, 西山 貴弘, 兵頭 昌, Bartlett correction to the likelihood ratio test for MCAR with two-step monotone missing data, 科研費シンポジウム「統計科学における数理と理論の最先端について」, 北海道大学大学院経済学研究科, 2016.11.

・首藤 信通, 単調欠測データに基づく線形判別分析と仮説検定法 (特別講演), 2016 年日本数学会秋季総合分科会, 関西大学, 2016.9.

・西山 貴弘, 首藤 信通, 兵頭 昌, Modified likelihood ratio test for MCAR with two-step monotone missing data, 2016 年度統計関連学会連合大会, 金沢大学角間キャンパス, 2016.9.

(浅岡)

・梅原 亮, 浅岡 聡, 藤井直紀, 大谷壮介, 山本裕規, 中井智司, 奥田哲士, 曾我遥平, 西嶋 渉: 広島湾の低次生物生産過程における炭素転送効率, 日本海洋学会 2016 年度春季大会, 東京大学, 2016.3.

・中村英人, 安藤卓人, 廣瀬孝太郎, 浅岡 聡, 沢田 健: 瀬戸内海の近過去堆積物における長鎖アルキルジオール組成を用いた古環境復元の可能性, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 幕張メッセ, 2016.5.

・廣瀬 孝太郎, 中村英人, 安藤卓人, 浅岡 聡, 沢田 健: 近過去堆積物における珪藻化石群集と藻類バイオマーカーの相関性, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 幕張メッセ, 2016.5.

・浅岡 聡, 岡村秀雄, 廣瀬孝太郎, 入江絵莉衣, 牛原康博, 遠藤 徹, 片山真祥, 稲田康宏: 大阪湾と播磨灘の底泥の鉄・マンガンの化学形態の比較, 立命館大学 SR センター研究成果報告会, 立命館大学, 2016.6.

・Sosuke Ootani, Akira Umehara, Haruka Miyagawa, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima: Transfer efficiency from primary producers to Ruditapes philippinarum on an intertidal flat in Hiroshima Bay, Japan, EMECS'11, St Petersburg, Russia, 2016.8.

・Tetsuji Okuda, Satoshi Sekito, Akira Umehara, Satoshi Asaoka, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima: Fate of silts and clay from river and its contribution to transparency, EMECS'11, St Petersburg, Russia, 2016.8.

・Akira Umehara, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Sousuke Ootani, Hironori Yamamoto, Satoshi Nakai, Tetsuji Okuda, Wataru Nishijima: Energy transfer efficiencies on lower trophic levels with intensive oyster farming in Hiroshima Bay, Japan, EMECS'11, St Petersburg, Russia, 2016.8.

・北野徳治, 田中風太, 中村紗矢香, 岡村秀雄, 浅岡 聡: 溶出試験による漁網防汚塗料から海水に溶出した銅が海産藻類に及ぼす影響, 第 22 回日本環境毒性学会研究発表会, 愛媛大学, 2016.9.

・梅原 亮, 浅岡 聡, 藤井直紀, 大谷壮介, 山本裕規, 中井智司, 奥田哲士, 西嶋 渉: カキ養殖が盛んな広島湾における低次生物生産構造, 2016 年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 熊本県立大学, 2016.9.

・中村英人, 安藤卓人, 廣瀬孝太郎, 浅岡 聡, 沢田 健: 瀬戸内海表層堆積物中の長鎖ジオール分析:  $C^{32}$  アルカン-1,15-ジオールは河川流入指標となるか?, 2016 年度地球化学会, 大阪市立大学, 2016.9

・吉田明輝, 岡村秀雄, 浅岡 聡, 速水健斗, 楠 将志, 今 吾一: 船用ディーゼル機関から採取したススの変異原性と 1-ニトロピレン, 第 86 回 (平成 28 年) マリンエンジニアリング学術講演会, 姫路商工会議所, 2016.10.

- ・浅岡 聡：発電所から発生する石炭灰で海底泥に含まれる有害な硫化水素を除去する、第9回サイエンスフェア in 兵庫、神戸大学、2017.1.
- ・林 穎卿、北野徳治、岡村秀雄、浅岡 聡、松林雅之：日本沿岸の表層海水中の溶存態ニッケルの分布、第51回日本水環境学会年会、熊本大学、2017.3.
- ・Satoshi Asaoka, Waqar Azeem Jadoon, Tomoshisa Dan, Hideo Okamura, Kadumitsu Nakaguchi, Mitsuru Kubota, Ayaka Tamura, Shinjiro Hayakawa : Identifying sulfur species in particulate matter derived from various ships using XAFS analyses, The 21th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation, Hiroshima university, Higashihiroshima, Japan, 2017.3.
- ・Waqar Azeem Jadoon, Satoshi Asaoka, Kenji Nakamoto, Kadutoshi Hino, , Ayaka Tamura, Shinjiro Hayakawa : Oxidation mechanism of hydrogen sulfide on the surface of mixture of granulated coal ash and metal oxides, The 21th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation, Hiroshima University, Higashihiroshima, Japan, 2017.3.

(金崎)

- ・梅谷圭吾、大藤広暉、金崎真聡、森豊、小田啓二：海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算(3)、日本原子力学会2017年春の年会、東海大学、2017.3.
- ・福田祐仁、神野智史、田中宏堯、松井隆太郎、金崎真聡、榊泰直、神門正城、近藤公伯、上坂充、岸本泰明：ミクロンサイズ水素クラスターターゲット生成装置の開発とその高エネルギー密度科学への応用、日本物理学会第72回年次大会、大阪大学豊中キャンパス、2017.3.
- ・古賀啓資、余語覚文、戸崎翔太、岡本和輝、鈴木洋介、金崎真聡、有川安信、藤岡慎介、安部勇輝、加藤祐亮、西村博明、中井光男、三間罔興、小田啓二、山内知也、疇地宏：レーザー加速重陽子による高速中性子発生および中性子ラジオグラフィ実験、日本物理学会第72回年次大会、大阪大学豊中キャンパス、2017.3.
- ・金崎真聡、神野智史、榊泰直、近藤公伯、小田啓二、山内知也、福田祐仁：クラスターターゲットから発生するレーザー加速イオンの高精度計測、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、レミバリオン、山内知也：紫外線(222 nm)照射下で PADC 検出器中に形成される 損傷サイズ評価、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・寺下佳孝、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、小平聡、山内知也：検出閾値近傍におけるPADC中イオントラックのステップ状構造変化、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・山内知也、楠本多聞、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、レミバリオン：高分子系エッチング型飛跡検出器中に形成されるイオントラックの検出閾値近傍における特徴、第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜、2017.3.
- ・金崎真聡、神野智史、榊泰直、近藤公伯、小田啓二、山内知也、福田祐仁：クラスターターゲットから発生する MeV 級イオンの高精度計測、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・高野雄太、神野智史、宇野雅貴、山内知也、小田啓二、福田祐仁、金崎真聡：レーザー駆動陽子線加速ターゲット用水素クラスターターゲットの光学顕微鏡観察、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.



- ・楠本多聞、上田隆裕、上野琢也、亀田結貴、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、菅田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC検出器の放射線感受性領域に見られる段階的な損傷過程、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・亀田結貴、金崎真聡、神野智史、福田祐仁、小田啓二、山内知也：PADC検出器中に存在するヒドロキシル基の定量分析とその化学エッチング特性、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・東和樹、楠本多聞、寺下佳孝、上野琢也、上田隆裕、亀田結貴、金崎真聡、小田啓二、山内知也：ポリビニルアルコール中ヒドロキシル基の赤外線分光法による定量分、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・寺下佳孝、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、小平聡、山内知也：検出閾値近傍におけるPADC中イオントラックのステップ状構造変化、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、山内知也：紫外線照射下でPADC検出器中に形成される損傷特性評価、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・酒井盛寿、楠本多聞、上野琢也、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、山内知也：実効電荷を考慮した局所線量分布の現代的更新とその閾値周辺への活用、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・上野琢也、楠本多聞、寺下佳孝、金崎真聡、小田啓二、小平聡、山内知也：重イオン弁別型飛跡検出器開発のためのPETの特性評価、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・上田隆裕、寺下佳孝、楠本多聞、金崎真聡、小田啓二、小平聡、山内知也：赤外顕微鏡を用いた高分子中イオントラックの分析、第31回固体飛跡検出器研究会、量研機構関西光科学研究所、2017.3.
- ・M. Kanasaki, S. Jinno, H. Sakaki, K. Kondo, K. Oda, T. Yamauchi, Y. Fukuda : The precise measurement of laser-accelerated ions using CR-39 detectors, The 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Technol Convention Center -Hosoda Hall-, 2016.12.
- ・Masataka Uno, Masato Kanasaki, Yuji Fukuda Tomoya Yamauchi, Keiji Oda : Design of the stacked CR-39 energy spectrometer for laser-accelerated protons, The 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Technol Convention Center -Hosoda Hall-, 2016.12.
- ・K. Umetani, H. Ofuji, M. Kanasaki, Y. Mori, K. Oda : Proposal of Utilization of Training Ships for Emergency Radiation Monitoring in Nuclear Disaster, The 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Technol Convention Center -Hosoda Hall-, 2016.12.
- ・H. Ofuji, K. Umetani, M. Kanasaki, Y. Mori, K. Oda : Calculation of Dose Rate Distribution in the Training Ship for Maritime Mobile Radiation Monitoring System, The 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Technol Convention Center -Hosoda Hall-, 2016.12.
- ・M. Kanasaki, S. Jinno, H. Sakaki, K. Kondo, K. Oda, T. Yamauchi, Y. Fukuda : The precise measurement of laser-accelerated MeV/n-class high-Z ions and protons using CR-39 detectors, International Symposium on Ultrafast Intense Laser Science, Cassis Convention Center, 2016. 10.
- ・金崎真聡、宇野雅貴、山内知也、小田啓二、福田祐仁：レーザー加速陽子線のためのエネルギースペクトロメータの設計、第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.
- ・宇野雅貴、金崎真聡、福田祐仁、山内知也、小田啓二：固体飛跡検出器を用いたレーザー

加速陽子線のエネルギースペクトル計測体系の設計、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・神野智史、金崎真聡、宇野雅貴、福田祐仁：レーザー駆動イオン加速におけるクラスターターゲットに対するサイズ分布解析手法の開発、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・亀田結貴、金崎真聡、福田祐仁、神野智史、小田啓二、山内知也：PADC 検出器に対するエッチピット生成感度の深さ依存性、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング機能による放射線損傷パラメータの評価、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・上野琢也、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：固体飛跡検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特長研究、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・寺下佳孝、楠本多聞、上田隆裕、上野琢也、亀田結貴、金崎真聡、小田啓二、石川一平、山内知也：重合度の異なるプラスチック飛跡検出器(ポリアリルジグリコールカーボネート)の赤外線吸収スペクトル分析、第 77 回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター、2016.9.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、菅田義英、藤乗幸子、ミッシェルフロム、ジョニーエマニュエルグロエッ、小平聡、北村尚、レミバリオン、山内知也：PADC 飛跡検出器の放射線高感受性部に見られる段階的な損傷形成、第 59 回放射線化学討論会、高崎応用量子研究所、2016.9.

・亀田結貴、金崎真聡、神野智史、小田啓二、山内知也、福田祐仁：PADC 検出器に対するエッチピット生成感度の深さ依存性、弥生研究会・共同利用成果報告会、東京大学本郷キャンパス、2016.8.

## 2015 年度

### (岡村)

・北野徳治、阿部 徹、浅岡 聡、岡村秀雄. 2015. 神戸市の港湾海水中に残留するレーバイル銅第 85 回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集. 47-48.

・阿部 徹、浅岡 聡、岡村秀雄. 2015. 神戸市の港湾海水中に残留するレーバイル銅. 第 85 回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集. 47-48.

・阿部 徹、北野徳治、浅岡 聡、岡村秀雄、佐久川弘、竹田一彦、2015. 第 4 回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」、講演要旨集

・白谷亮裕、宮永政光、汪達紘、野上祐作、岡村秀雄、矢野吉治. 2015. 岡山県沿岸を中心とした西日本海域の多環芳香族炭化水素の濃度レベルの長期比較. 第 49 回日本水環境学会年会講演集. 554.

・阿部 徹、北野徳治、浅岡聡、岡村秀雄. 2015. 夏季における西日本沿岸の表層海水中の溶解態銅の分布 第 49 回日本水環境学会年会講演集. 287.

### (小田)

・小田啓二：原子力災害時における船舶活用の提案、日本原子力学会 2016 年春の年会、東北大学、2016. 3.

- ・梅谷圭吾、大藤広暉、金崎真聡、小田啓二：海上移動型放射線モニタリングシステムに用いる船舶内の線量率分布の計算、日本原子力学会 2016 年春の年会、東北大学、2016. 3.
- ・梅谷圭吾、中山高宏、山内知也、小田啓二：イメージングプレートを用いた核種分析法における実用上の課題、日本保健物理学会第 48 回研究発表会、首都大学東京、2015. 7.
- ・中山高宏、梅谷圭吾、山内知也、小田啓二：蛍光飛跡検出器をベースとした個人中性子線量計用ラジエータの設計、日本保健物理学会第 48 回研究発表会、首都大学東京、2015. 7.
- ・K. Oda, T. Nakayama, K. Umetani, K. Kajihara, T. Yamauchi: Generalization of radiator design techniques for personal neutron dosimeter by unfolding method, International Conference on Individual Monitoring of Ionising Radiation, Bruges, Belgium, 2015. 4.

#### (蔵岡)

- ・蔵岡孝治、山本梨紗子：架橋構造を導入したシリカ/キトサン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性、日本セラミックス協会 2016 年年会、早稲田大学、2016.3.
- ・鶴見達明、蔵岡孝治、辻本智雄、福岡弘直：シリカ/ポリヒドロキシウレタン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第 24 回年次大会、東京大学、2015.7.
- ・新免佑太、蔵岡孝治、西川健、関浩康：ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第 24 回年次大会、東京大学、2015.7.
- ・池田真吾、村上知弘、蔵岡孝治：クレイ/ポリ(N-イソプロピルアクリルアミド) ナノコンポジット膜の構造解析とバリア性の温度応答特性、日本包装学会第 24 回年次大会、東京大学、2015.7.
- ・岩崎友美、蔵岡孝治、西岡幸泰、小林理規、竹内秀治：セルロースを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 24 回年次大会、東京大学、2015.7.
- ・原谷知宏、蔵岡孝治：層状化合物を分散した有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 24 回年次大会、東京大学、2015.7.

#### (香西)

- ・ Investigation on offshore wind energy resource using AMSR2-derived wind speed and mesoscale meteorological model WRF-Validation of wind speed profile models in the North Sea-, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, Ryotaro Abo, Joint PI Meeting of Global Environment Observation Mission 2015, Jan.18-20, 2016, TKP Garden City Takebashi, Tokyo, Japan
- ・ VALIDATION OF HUB-HEIGHT WIND SPEED ESTIMATED FROM ASCAT WIND SPEED WITH THREE DIFFERENT PROFILE MODELS IN THE NORTH SEA, Katsutoshi Kozai, Ryotaro Abo, Teruo Ohsawa, Gerald Steinfeld, Detlev Heinemann, The 23rd CEReS International Symposium, December 1-2, 2015, Keyaki hall, Chiba University

#### (佐藤)

- ・ Oxidated states of a condensed ring thiophene with terminal ferrocenyl groups, HIRAI NAOKI ; ASANO TOMOHIRO ; SATO MASA AKI, 日本化学会第96春季年会 2016/03
- ・ Oxidated states of fused oligothiophenes with ferrocenyl groups, MIZUNO TAIKI ; NISHIMURA RYOTARO ; SATO MASA AKI, 日本化学会第96春季年会 2016/03

#### (嶋田)

- ・嶋田博行, 芦高 勇氣 箱田裕司 (2015). 認知コントロールの高齢者と大学生の比較—コンフリクト適応効果を指標として—日本心理学会第 79 回大会発表論文集 pp.698、名古屋国際会議場、平成 27 年 (2015 年) 9 月 22 日～

24日

・芦高 勇気, 嶋田博行, 箱田裕司 (2015). コンフリクト解決のダイナミクス—ストループ課題を使って—日本心理学会第 79 回大会発表論文集 pp.697、名古屋国際会議場, 平成 27 年 (2015 年) 9 月 22 日~24 日

・芦高 勇気, 嶋田博行 (2015). タイピング技能獲得プロセス—ローマ字とモーラの関係について—、日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集 pp.366、神戸国際会議場

・芦高 勇気, 嶋田博行 (2015). 「階層的認知コントロール: キー押し反応 (タイプ反応) を指標として」日本基礎心理学会第 33 回大会 (2014 年 11 月)

(古山)

・中村穂高、武田 翼、平山 諒、永井 翔、谷池晃、古山雄一 ブランケット候補材料  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  の種々の曝露雰囲気における  $\text{CO}_2$  吸収特性 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016 年 3 月 28 日

・岩岡恭平, 日下柊吾, 谷池晃, 古山雄一 銅イオンビームで照射したポリカーボネートの導電率のフルエンス依存性 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016 年 3 月 27 日

・谷池晃, 日下柊吾, 岩岡恭平, 古山雄一 その場イオンビームグラフト重合法における重合時間とグラフト率の関係 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016 年 3 月 27 日

・紺野祥太, 和田貴行, 中本聡, 竹野裕正, 古山雄一, 谷池晃 2 次電子放出を利用した高速イオンからのエネルギー回収における 2 次電子のエネルギー分布 平成 27 年電気関係学会関西連合大会, G5-16, 2015.

・T. WADA, S. KONNO, S. NAKAMOTO, H. TAKENO, Y. FURUYAMA, A. TANIKE. Variation in secondary electron collection and energy recovery concerning electrode angle in a high energy ion penetration scheme. 25th International Toki Conference, P1-54, 2015.

・永井 翔, 田中 崇晃, 谷池 晃, 段 智久, 古山 雄一 粒子状物質中に含有される硫黄のイオンビーム分析 若手フロンティア研究会 2015、神戸大学、平成 27 年 12 月 25 日

・永井 翔, 田中 崇晃, 谷池 晃, 段 智久, 古山 雄一 ディーゼルエンジンの PM に含有される ISF 成分に対する RBS 分析 第 85 回(平成 27 年) マリンエンジニアリング学術講演会、富山国際会議場 (富山県)、平成 27 年 10 月 26 日

・Masahito Tagawa, Daiki Watanabe, Yuichi Furuyama, Kazuhiro Kanda, Akitaka Yoshigoe, Yuden Teraoka, Koji Matsumoto, Kumiko Yoko. Collision-induced oxidation of Si atoms embedded in carbon-based material. 13th International Symposium on Materials in the Space Environment, June 22-26, 2015, Pau, France.

(三村)

・廣野康平、遠藤紀之、矢野吉治、三村治夫、キプリス幼生着生率の青色 LED 放射照度依存性、第 4 回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」(2015 年 9 月 16 日)(〒040-0051 函館市、函館国際水産・海洋総合研究センター)

・遠藤紀之、河合和弥、矢野吉治、廣野康平、三村治夫、寄港地を含む近海航路域内に棲息するフジツボ幼生の実態調査、2016 年度日本付着生物学学会総会・研究集会 (2016 年 3 月 30 日)(〒108-8477 東京都港区、東京海洋大学品川キャンパス)

(山内)

・亀田結貴、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：PADC 検出器中イオントラックに生成されるヒドロキシル基の研究、第 63 回応用物理学会

春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、誉田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC 検出器中に形成される 28 MeV 電子線飛跡の構造分析、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング測定を用いた損傷構造の分析、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・上野琢也、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：高閾値検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特性研究 (2)、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・亀田結貴、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：PADC 検出器中イオントラックに生成されるヒドロキシル基の研究、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：PADC 検出器中高エネルギープロトントラックの構造分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、誉田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC 検出器中に形成される 28 MeV 電子線飛跡の構造分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・安田修一郎、楠本多聞、池永龍之介、上野琢也、小田啓二、小平聡、北村尚、蔵岡孝治、山内知也：ポリイミド系エッチング型飛跡検出器の重イオンに対する検出閾値、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・上野琢也、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：ポリエチレンテレフタレート中重イオントラックの特性評価、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング測定を用いた損傷構造の分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・池永龍之介、金崎真聡、楠本多聞、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：顕微赤外分光法によるポリイミド薄膜に対する重イオン照射効果、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Yoshihide Honda, Sachiko Tojo, Remi Barillon, Tomoya Yamauchi : Radiation chemical yields for loss of carbonyl bonds in poly(allyl diglycol carbonate) and other polymeric etched track detector at the LETs ranging from 0.025 to 12,000 keV/ $\mu$ m, International Symposium on Radiation Detectors and Their Uses 2016, High Energy Accelerator Research Organization (KEK), Tsukuba, 2016.1.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、誉田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC 検出器中重イオントラック形成機構における低エネルギー電子の役割、第 76 回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・池永龍之介、楠本多聞、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：ポリイミド薄膜(BPDA/ODA)の重イオンに対する放射線損傷パラメータ、第 76 回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・安田修一郎、楠本多聞、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、蔵岡孝治、山内知也：ポリイミド樹脂(BPDA/ODA)の重イオン応答特性評価、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・上田隆裕、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：顕微赤外分光システムを用いたイオントラック構造分析、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・上野琢也、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：高閾値検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特性研究、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・亀田結貴、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：未照射のPADC検出器中に存在するヒドロキシル基の定量評価、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

#### (上田)

・Yoshihiro Ueda, Stability condition for a system of damped wave equations with delay in the coupling, IMS PDE Seminar, The Institute of Mathematical Sciences, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, (April 2015).

・Yoshihiro Ueda, Dissipative structure of regularity-loss type for some physical problems, 10th International ISAAC Congress (ISAAC2015), University of Macau, Macau, (August 2015).

・上田好寛, Stability condition for a system of damped wave equations with delay in the coupling, Ito Workshop on Partial Differential Equations, 九州大学, 2015年8月.

・上田好寛, 時間遅れの項を持つ微分方程式の安定性解析, 有珠山セミナー2015, 大滝セミナーハウス(北海道), 2015年9月.

・上田好寛, Stability for the system of differential-difference equations and its application, 広島微分方程式研究会, 広島大学, 2015年10月.

・上田好寛, Stability condition for a system of delay-differential equations and its application, 微分方程式セミナー, 大阪大学, 2015年10月.

・Yoshihiro Ueda, Stability condition for a system of delay-differential equations and its application, Fifth China-Japan Workshop on Mathematical Topics from Fluid Mechanics, Wuhan University, Wuhan, China, (November 2015).

・上田好寛, 時間遅れの項を持つ微分方程式の安定性に関する些細な考察と今後の課題について, 第1回田町解析研究会, キャンパスイノベーションセンター, 東京, 2015年11月.

・上田好寛, Stability for a system of differential-difference equations and its application, 第5回弘前非線形方程式研究会, 弘前大学, 2015年12月.

・上田好寛, 時間遅れを考慮した常微分方程式系の安定性解析と偏微分方程式への応用について, 非線形解析セミナー@大岡山, 東京工業大学, 2016年1月.

・Yoshihiro Ueda, Stability condition for a system of delay-differential equations and its application, Perspectives in Applied PDEs: a day in Pavia, University of Pavia, Pavia, Italy (February 2016).

・上田好寛, 時間遅れを考慮した常微分方程式系の安定性解析と偏微分方程式への応用, 神戸大学解析セミナー, 神戸大学, 2016年2月.

#### (大澤)

・岡山芙有子, 大澤輝夫, Martin Doerenkaemper, Gerald Steinfeld, Detlev Heinemann, 2015: 日本沿岸とドイツ沿岸の洋上観測値を用いたWRF計算風速の精度比較, 2015年度日本気象学会関西支部第3回例会, 2015年12月22日, 大阪.

・岡山芙有子, 大澤輝夫, 香西克俊, 嶋田進, 2015 : 2015 年度日本気象学会関西支部年会, 2015 年 6 月 27 日, 大阪.

(笹)

・笹 健児, FALTINSEN ODD M., 塩谷 茂明, 内田 誠 : 実海域における船速低下の計算手法ごとの定量評価と検証, 日本船舶海洋工学会第 1 回推進・運動性能研究会, 大阪府立大学 I-site なんば, 2015.6

・笹 健児, Faltinsen Odd M., Prpic-Orsic, J. : 実海域における船速低下の計算手法ごとの定量評価と検証その 2 (時間領域での解析), 日本船舶海洋工学会第 2 回推進・運動性能研究会, 九州大学応用力学研究所, 2015.10

(谷池)

・宇都宮匠, 角椋太, 西村洋亮, 谷池晃, 土居謙太, 西浦正樹, 木崎雅志 : ガンマ線カメラ開発のための  ${}^9\text{Be}(\alpha, n){}^{12}\text{C}$  反応のエネルギースペクトル, 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016.3

・谷池晃, 日下柊吾, 岩岡恭平, 古山雄一 : その場イオンビームグラフト重合法における重合時間とグラフト率の関係, 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016.3

・岩岡恭平, 日下柊吾, 谷池晃, 古山雄一 : 銅イオンビームで照射したポリカーボネートの導電率のフルエンス依存性, 日本原子力学会春の年会, 東北大学, 2016.3

(橋本)

・Hashimoto, H., Umeda, N. : Progress report of feasibility studies on operational limitation and guidelines for parametric roll and broaching failure modes, IMO(International Maritime Organization) SDC3, 2016.1

・Hashimoto, H., Hata, Y., Kawamura, K., Taniguchi, Y., Munesue, T. : Oil tank sloshing caused by Nankai Trough earthquake, International Symposium on Natural and Technological Risk Reduction at Large Industrial Parks, 2016.1

・橋本博公 : 船舶海洋工学分野における粒子法の応用について, Prometec Simulation Conference, 2015.9

・河村昂軌, 橋本博公, 小野寺直幸, 末吉誠 : GPU を用いた MPS コードの開発と強非線形自由表面流れへの適用例の紹介, 粒子法コードユーザーグループ第 33 回会合, 2016.2

(林)

・中田聡史, 林美鶴, 越村俊一, 小林英一 : 巨大津波襲来時における避航のための危険海域の抽出, 日本海洋学会 2016 年度春季大会, 東京大学本郷キャンパス, 2016.3.

・林美鶴, 中田聡史, 鈴木綜人, 越村俊一, 小林英一 : 津波による海洋環境擾乱の予測, 日本海洋学会 2016 年度春季大会, 東京大学本郷キャンパス, 2016.3.

・中田聡史, 林美鶴, 越村俊一, 小林英一 : 巨大津波襲来時における避航のための渦場の抽出」第 9 回海事防災研究会, 神戸大学深江キャンパス, 2016.2.

・林美鶴 : 船舶観測気象海象ビッグデータ構築の提案, 第 9 回海事防災研究会, 神戸大学深江キャンパス, 2016.2.

・Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Simulation of marine sediment resuspension and transport induced by agiant tsunami in Osaka Bay, 14th Japan-Korea joint seminar, Saga, 2016.2.

・林 美鶴, 中田 聡史 : 淀川への海水遡上と海洋性プランクトン輸送, 九州大学応用力学研究所共同利用研究集会, 九州大学応用力学研究所, 2015.12.

・林美鶴 : 練習船深江丸による海洋・気象観測, 第 45 回南海・瀬戸内海洋調査技術連絡会, 神戸第 2 地方合同庁舎本館, 2015.12.

- ・中田聡史、小林志保、石坂丞二、林正能、湊真輝、林美鶴：海色衛星の毎時観測が捉えた大阪湾奥におけるクロロフィル a 分布の時間発展、第 1 回海洋環境研究集会、神戸大学深江キャンパス、2015.12.
- ・林美鶴、宮脇望来、中田聡史、鈴木綜人：南海トラフ巨大地震による底質の巻き上げと海水環境変化、第 1 回海洋環境研究集会、神戸大学深江キャンパス、2015.12.
- ・鈴木綜人、中田聡史、林美鶴：南海トラフ巨大地震津波による底質の巻き上げから再堆積までの研究、第 1 回海洋環境研究集会、神戸大学深江キャンパス、2015.12.
- ・中田聡史、林美鶴、鈴木綜人、越村俊一、小林英一：南海トラフ地震津波による海洋環境の被害評価、第 5 回巨大津波災害に関する合同研究集会、東京大学地震研究所、2015.12.
- ・Mitsuru Hayashi, Satoshi Nakada, Soto Suzuki, Mirai Miyawaki: Shift of water quality in Osaka Bay the resuspension of marine sediment caused by tsunami, The 16th Japanese-French Oceanography Symposium, Miyagi and Tokyo, 17-21, 2015.11.
- ・鈴木綜人、林美鶴、中田聡史、越村俊一、小林英一：南海トラフ巨大地震津波による大阪湾での巻き上げ・移流拡散シミュレーション、平成 27 年日本船舶海洋工学会秋季講演会、東京大学生産技術研究所、2015.11.
- ・Mitsuru Hayashi, Yoo Dong-Hoon: The measurement of nitrous oxide concentrations and the emission estimations of the exhaust gas of ongoing vessels, The 13th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality, Kobe, Japan, 2015.11.
- ・Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Salinization by tsunami in a semi-enclosed bay, tsunami-ocean 3D simulation based on the great earthquake scenario along the Nankai Trough, Japan Society for Simulation Technology 2015, Toyama, 2015.10.
- ・林美鶴、中村一平、中田聡史、小山悠人、宮脇知美：淀川感潮域への海水遡上の簡易推定、日本海洋学会秋季大会、愛媛大学城北キャンパス、2015.9.
- ・中田聡史、林美鶴、越村俊一、小林英一：南海トラフ巨大地震津波による内湾域の塩水化、日本海洋学会秋季大会、愛媛大学城北キャンパス、2015.9.
- ・中田聡史、林美鶴、小林英一：南海トラフ地震による巨大津波が引き起こす大阪湾における塩水化、瀬戸内海研究フォーラム in 奈良、奈良県文化会館、2015.9.
- ・鈴木綜人、林美鶴、中田聡史、越村俊一、小林英一：南海トラフ巨大地震津波による大阪湾における底質巻き上げシミュレーション、瀬戸内海研究フォーラム in 奈良、奈良県文化会館、2015.9.
- ・中田聡史、林美鶴、鈴木綜人、小林英一、越村俊一：底泥巻き上げ・粒子追跡シミュレーションから推定した大阪湾沿岸水環境へ及ぼす巨大津波のインパクト、第 25 回海洋工学シンポジウム、日本大学理工学部駿河台キャンパス、2015.8.
- ・Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Shota Yoneda, Eiichi Kobayashi: Tsunami simulation generated the greatest scenario earthquake along the Nankai Trough under consideration of tidal current in Large Bay, The Twenty-fifth (2015) International Ocean and Polar Engineering Conference, Kona, USA, 2015.6.
- ・Mitsuru Hayashi, Soto Suzuki, Satoshi Nakada, Shunichi Koshimura, Eiichi Kobayashi: Estimation of the occurrence condition of sediment resuspension in Osaka Bay by tsunami, The Twenty-fifth (2015) International Ocean and Polar Engineering Conference, Kona, USA, 2015.6.
- ・鈴木綜人、林美鶴、中田聡史、越村俊一、小林英一：南海トラフ巨大地震津波による大阪湾での底質巻き上げ、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー、京都大学防災研究所、2015.6.
- ・中田聡史、小林英一、林美鶴、鈴木綜人、谷口裕樹、米田翔太、越村俊一：津波×海洋シミュレーションによる津波マリンハザードの研究、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー、京都大学防災研究所、2015.6.
- ・鈴木綜人、林美鶴、中田聡史、越村俊一、小林英一：津波による大阪湾での底質巻き上げ発生条件の推定、平成 27 年日本船舶海洋工学会春季講演会、神戸国際会議場、2015.5.
- ・林美鶴、鈴木綜人、中田聡史：津波による大阪湾の海底堆積物の再懸濁、日本地球惑星科学連合、幕張メッセ、2015.5.



・中田聡史、林美鶴、小林英一、越村俊一：潮汐・津波シミュレーション：潮流による津波到達時間の早期化、日本地球惑星科学連合、幕張メッセ、2015.5.

・中村一平、小山悠人、中田聡史、林美鶴：淀川河口への海水遡上に関する流動モデル解析、日本地球惑星科学連合、幕張メッセ、2015.5.

#### (山地)

・Kazuyo YAMAJI, Yugo KANAYA, Masayuki TAKIGAWA, Golam SARWAR, Kengo SUDO : Study on factors of overestimated summertime ozone concentration by a regional chemical transport model over Southwestern seas of Japan. [Invited], The 13 th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality, 2015.11.

・上田裕洋、山地一代：近年の東アジアにおける黄砂現象の年々変動とその要因に関する研究、大気環境学会近畿支部第4回支部研究発表会、2015.12

・Sachiko Hayashida, Akiko Ono, Satoko Kayaba, Mizuo Kajino, Makoto Deushi, Takashi Maki, Tsuyoshi Thomas Sekiyama, Kazuyo Yamaji and Xiong Liu : Ozone Enhancement in the Lower Troposphere over Central and Eastern China as Observed from the space、AGU FALL MEETING,2015.12

・Yugo Kanaya, Fumikazu Taketani, Xiaole Pan, Yuichi Komazaki, Takuma Miyakawa, Hitoshi Matsui, Kazuyo Yamaji, Zifa Wang, Limseok Chang, Daeil Kang, Akinori Takami, Kohei Ikeda, Hiroshi Tanimoto, Yutaka Kondo. :Synthesis of observations of atmospheric black carbon, organics and PM2.5 aerosols over Japan, Korea, and China with numerical simulations to better constrain their emission rates and origins.,AOGS 12th Annual Meeting, Singapore, 2015

・S.Hayashida, A.Ono, S.Kayaba, M.Kajino, M.Deuchi, T.Maki, T.Sekiyama, K.Yamaji, X.Liu and K.Chance : S.Hayashida,A.Ono, S.Kayaba, M.Kajino, M. Deuchi, T.Maki,T.Sekiyama,K.Yamaji,X.Liu and K.Chance, Ozone Enhancement in the Lower Troposphere over Central and Eastern China Observed from OMI:Comparison with Emission Inventories, Ground-based Measurements, and Model simulations, The 6th GEMS Science Team Meeting, Busan, Korea, October 6-8, 2015.

・茅場聡子、林田佐智子、小野朗子、出牛真、梶野瑞王、関山剛、眞木貴史、山地一代 東アジアにおける大気微量成分の衛星観測結果とモデルシミュレーションの比較 気象学会 2015 年度秋季大会、京都テルサ、10/28～10/30、2015

・茅場聡子、林田佐智子、小野朗子、出牛真、梶野瑞王、関山剛、眞木貴史、山地一代 東アジアにおける大気微量成分の衛星観測結果とモデルシミュレーションの比較 第21回大気化学討論会、東京工業大学、10/19～10/21、2015

・岡本 祥子、谷本 浩志、奈良 英樹、池田 恒平、山地 一代：八方尾根におけるオゾンおよびCO、CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>の観測と化学輸送モデルによる起源推定、Japan Geoscience Union Meeting 2015

#### (首藤)

・川崎 玉恵、首藤 信通、瀬尾 隆、2-step 単調欠測データにおける T<sup>2</sup> 型検定統計量の帰無分布に対する漸近展開、第10回日本統計学会春季集会、東北大学、2016. 3.

・Takahiro Nishiyama, Masashi Hyodo, Nobumichi Shutoh, Testing Independence Among Populations for High-Dimensional Data, Eighth International Workshop on Simulation, The University of Natural Resources and Life Sciences in Vienna, 2015.9.

#### (浅岡)

・阿部 徹、北野徳治、浅岡 聡、岡村秀雄：夏季における西日本沿岸の表層海水中の溶存

態銅の分布、第 49 回日本水環境学会年会、金沢大学、2015.3.

・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Kenji Nakamoto, Kazutoshi Hino : Remediation of eutrophic coastal marine sediments using granulated coal ash, a by-product from coal electric power plants, International Conference Sustainable Materials Science and Technology 2015, University of Paris 8, Paris, France, 2015.7.

・阿部 徹、北野徳治、浅岡 聡、岡村秀雄、佐久川 弘、竹田一彦：瀬戸内海表層海水中における溶存態銅の分布（2015 年度調査）、日本マリンエンジニアリング学会（JIME）海洋環境研究委員会、函館国際水産・海洋総合研究センター、2015.9.

・中本健二、樋野和俊、浅岡 聡：覆砂材に活用される石炭灰造粒物による硫化物イオン吸着機能と吸着サイト再生機構、土木学会第 70 回年次学術講演会、岡山大学、2015.9.

・井上智子、中本健二、樋野和俊、浅岡 聡：覆砂材に活用される石炭灰造粒物の硫化物イオン吸着機能に注目した最適配合の検討、土木学会第 70 回年次学術講演会、岡山大学、2015.9.

・浅岡 聡：鉄鋼スラグによる底質改善、日本鉄鋼協会 評価・分析・解析部会平成 27 年度第 1 回講演会、鈴鹿工業高等専門学校、2015.9.

・北野徳治、阿部 徹、浅岡 聡、岡村秀雄：神戸市の港湾海水中に残留するレーバイル銅、第 85 回マリンエンジニアリング学術講演会、富山国際会議場、2015.10.

・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Yasuhiro Ushihara, Toru Endo, Ayaka Tamura, Shinjiro Hayakawa : Identifying sulfur species in marine sediments collected from Osaka Bay using XAFS, The 20th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation, Hiroshima University, Higashihiroshima, Japan, 2016.3.

#### （金崎）

・田中宏堯、神野智史、金崎真聡、関口健太郎、一ノ瀬紘佑、榊泰直、近藤公伯、松井隆太郎、岸本泰明、福田祐仁：サブミクロンサイズ水素クラスターに対する Mie 散乱を用いたサイズ評価法の検討、日本物理学会第 71 回年次大会、東北学院大学、2015.9.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、誉田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC 検出器中に形成される 28 MeV 電子線飛跡の構造分析、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング測定を用いた損傷構造の分析、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・上野琢也、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：高閾値検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特長研究 (2)、第 63 回応用物理学会春季学術講演会、東工大 大岡山キャンパス、2016.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：PADC 検出器中高エネルギープロトントラックの構造分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、誉田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC 検出器中に形成される 28 MeV 電子線飛跡の構造分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・上田隆裕、楠本多聞、小田啓二、金崎真聡、北村尚、小平聡、山内知也：顕微マッピング測定を用いた損傷構造の分析、第 30 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・池永龍之介、金崎真聡、楠本多聞、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：顕微赤外分光法によるポリイミド薄膜に対する重イオン照射効果、第30回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2016.3.

・Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura, Yoshihide Honda, Sachiko Tojo, Remi Barillon, Tomoya Yamauchi : Radiation chemical yields for loss of carbonyl bonds in poly(allyl diglycol carbonate) and other polymeric etched track detector at the LETs ranging from 0.025 to 12,000 keV/μm, International Symposium on Radiation Detectors and Their Uses 2016, High Energy Accelerator Research Organization (KEK), Tsukuba, 2016.1.

・Masato Kanasaki, Satoshi Jinno, Hironao Sakaki, Anatoly Ya. Faenov, Tatiana A. Pikuz, Mamiko Nishiuchi, Hiromitsu Kiriyama, Masaki Kando, Kiminori Kondo, Ryutaro Matsui, Yasuaki Kishimoto, Kunihiro Morishima, Yukinobu Watanabe, Clare Scullion, Ashley G. Smyth, Aaron Alejo, Domenico Doria, Marco Borghesi, Keiji Oda, Tomoya Yamauchi, Yuji Fukuda : Observation of the spatial distribution of MeV ions accelerated by the hydrodynamic ambipolar expansion of clusters、第16回光量子シンポジウム、原子力機構関西光科学研究所、2015.11.

・A. S. Pirozhkov, Y. Fukuda, M. Kanasaki, M. Nishiuchi, A. Sagisaka, H. Sakaki, K. Sekiguchi, A. Kon, K. Ogura, H. Kotaki, Y. Hayashi, H. Kiriyama, T. Kawachi, K. Kondo, M. Kando : Upgrade of the J-KAREN-P Beamline, Compressor, and Alignment System、第16回光量子シンポジウム、原子力機構関西光科学研究所、2015.11.

・Hiromitsu KIRIYAMA, Masaki KANDO, Alexander S. PIROZHKOV, Maki KISHIMOTO, Akira KON, Mamiko NISHIUCHI, Hironao SAKAKI, Koichi OGURA, Masato KANASAKI, Hirotaka TANAKA, Yuji FUKUDA, Michiaki MORI, Yuji MASHIBA, Makoto ASAKAWA, Akito SAGISAKA, James KOGA, Timur Zh. ESIRKEPOV, Yukio HAYASHI, Hideyuki KOTAKI, Yasuhiro MIYASAKA, Sergei V. BULANOV, Kiminori KONDO : Recent advances on the J-KAREN-P laser development、第16回光量子シンポジウム、原子力機構関西光科学研究所、2015.11.

・金崎真聡：レーザー駆動イオン加速における固体飛跡検出器の利用、第1回原子力関係科学技術の基礎的研究の動向調査委員会、大阪科学技術センター、2015.10.

・田中宏堯、神野智史、金崎真聡、榊泰直、近藤公伯、松井隆太郎、岸本泰明、福田祐仁：レーザー駆動イオン加速のための水素クラスターターゲットの開発と評価-ターゲットパラメータの温度、圧力依存性-、日本物理学会2015年秋季大会、大阪市立大学、2015.9.

・西内満美子、ピロジコフアレキサンダー、榊泰直、福田祐仁、匂坂明人、金崎真聡、田中宏堯、桐山博光、今亮、小瀧秀行、小倉浩一、林由紀夫、西谷勁太、渡辺幸信、ファエノフアナトリー、ピクツタチアナ、神門正城、近藤公伯：原子力機構・関西研における超高強度レーザーJ-KAREN-Pによるイオン加速実験の現状報告、日本物理学会2015年秋季大会、大阪市立大学、2015.9.

・金崎真聡、神野智史、榊泰直、近藤公伯、小田啓二、山内知也、福田祐仁：レーザー駆動イオン加速における光中性子発生を考慮したイオン計測体系の設計、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、菅田義英、藤乗幸子、山内知也：PADC検出器中重イオントラック形成機構における低エネルギー電子の役割、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・池永龍之介、楠本多聞、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：

ポリイミド薄膜(BPDA/ODA)の重イオンに対する放射線損傷パラメータ、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・安田修一郎、楠本多聞、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、蔵岡孝治、山内知也：ポリイミド樹脂(BPDA/ODA)の重イオン応答特性評価、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・上田隆裕、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：顕微赤外分光システムを用いたイオントラック構造分析、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・上野琢也、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：高閾値検出器としてのポリエチレンテレフタレートの特性研究、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・亀田結貴、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、金崎真聡、小田啓二、北村尚、小平聡、山内知也：未照射のPADC検出器中に存在するヒドロキシル基の定量評価、第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場、2015.9.

・金崎真聡、神野智史、榊泰直、A. Ya. Faenov、T. A. Pikuz、西内満美子、桐山博光、神門正城、杉山僚、近藤公伯、松井隆太郎、C. Scullion、A. G. Smyth、A. Alejo、D. Doria、M. Borghesi、小田啓二、山内知也、岸本泰明、福田祐仁：クラスターの両極性膨張で加速されたMeV級イオンの空間分布、弥生研究会・共同利用成果報告会、東京大学本郷キャンパス、2015.8.

## 2014年度

### (岡村)

・Beskoski,V., Nakano,T., Matsumura,C., Yamamoto,K., Yamamoto,A., Motegi,M., Okamura,H., Inui,H. 2014. Interaction of PFOS, PFOA, and 8:2 FTOA with human, rat, and microbial cytochrome P450s: similarities and differences. International Conference of Asian Environmental Chemistry (ICAEC2014), Bangkok, Thailand,

・Beskoski,V., Nakano,T., Yamamoto,A., Matsumura,C., Yamamoto,K., Motegi,M., Okamura,H., Inui,H. 2014. Biotransformation of perfluorinated compounds by the action of microbial community isolated from polluted environment- Road to successful bioremediation. International Conference of Asian Environmental Chemistry (ICAEC2014), Bangkok, Thailand,

・Yamaguchi, Y., Nishino,T., Ohji,M., Harino,H., and Okamura,H. 2014. The measurements of copper concentrations with a potentially toxic fraction in Tokyo Bay. International Symposium on Marine Engineering 2014 (ISME2014), Harbin, China.

・Li,G.X., Okamura,H., and Asaoka,S. 2014. Dissolved copper concentration in seawaters at a harbor in Osaka Bay. International Symposium on Marine Engineering 2014 (ISME2014), Harbin, China

・篠原悠、大谷貴士、岡本ひさよ、段智久、浅岡 聡、岡村秀雄. 2014. ジメチルエーテル混合C重油燃料を用いた船用機関からの排ガスが水生生物に及ぼす影響評価. 第84回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集. 155-156.

### (小田)

・中山高宏、梅谷圭吾、山内知也、小田啓二：蛍光飛跡検出素子をベースとした個人中性子線量計用ラジエータの設計、第29回固体飛跡検出器研究会、福井大学、2015.3.

・小田啓二、中山高宏、梅谷圭吾、谷川 誠、山内知也：イメージングプレートを用いたCs-137

と Sr-90 の識別(Ⅱ)、日本放射線安全管理学会第 13 回学術大会、徳島大学、2014.12.

・ T. Nakayama, K. Ohashi, T. Yamauchi, K. Oda: Identification of Cs-137 and Sr-90 (Y-90) using imaging plate, 4th Asia and Oceanic Congress on Radiation Protection, Kuala Lumpur, Malaysia, 2014.

(蔵岡)

・ 谷直人、蔵岡孝治：有機-無機ハイブリッドオレフィン分離膜の作製と気体透過特性、日本セラミックス協会第 27 回秋季シンポジウム、鹿児島大学、2014.9.

・ 蔵岡孝治、山本梨紗子：シリカ/キトサン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とガスバリア特性、日本セラミックス協会第 27 回秋季シンポジウム、鹿児島大学、2014.9.

・ 鶴見達明、蔵岡孝治、辻本智雄、福岡弘直：ポリヒドロキシウレタンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ 新免佑太、蔵岡孝治、西川健、関浩康：ポリシルセスキオキサンを用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ 池田真吾、蔵岡孝治、村上知弘：クレイ/N-イソプロピルアクリルアミドナノコンポジット膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ 河端浩平、蔵岡孝治、奥宮毅：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその特性評価、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ 山本梨紗子、蔵岡孝治：架橋構造を導入したシリカ/キトサン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とその特性評価、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ 蔵岡孝治、金澤未祐：架橋構造を導入したシリカ/デンプン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とガスバリア特性、日本包装学会第 23 回年次大会、東京大学、2014.7.

・ Koji Kuraoka, Ryusuke Abe and Yusuke Kinoshita: Preparation and Properties of Silica/poly(vinyl alcohol) Organic-inorganic Hybrid Gas Barrier Films with Cross-linked Structure, 13th International Ceramic Congress (CIMTEC2014), Palazzo dei Congressi, Italy, 2014.6.

(香西)

・ Investigation on offshore wind energy resource using AMSR2-derived wind speed and mesoscale meteorological model WRF-Comparison with ASCAT-derived wind speed-, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, Joint PI Meeting of Global Environment Observation Mission 2014, Jan.12-16, 2015, Tokyo, Japan

・ マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発-AMSR2 風速と ASCAT 風速との比較-、香西克俊、大澤輝夫、第 17 回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム、平成 27 年 2 月 20 日、千葉大学けやき会館

(嶋田)

・ 芦高 勇氣、嶋田博行(2014). タイピングローマ字入力におけるオーバーラップによる干渉効果、日本心理学会第 78 回大会、同志社大学

・ 芦高 勇氣、嶋田博行(2014). 心理学の対象は heart を含むのか 日本心理学会「認知と注意」研究会論文集、第 12 回合宿研究会、名古屋

(古山)

・ 日下 柊吾、谷池晃、中西孝彰、古山雄一 その場イオンビームグラフト重合のための高真空中へのモノマー導入実験 日本原子力学会 春の年会、茨城大学 2015.3.

・ 角 椋太、松木拓也、谷池晃、古山雄一、西浦正樹、土居謙太、木崎雅志、松本新功、山岡人志 高エネルギーガンマ線カメラ開発へ向けた鉛コリメータの概念設計 日本原子力学会 春の年会、茨城大学 2015.3.

- ・貴傳名健悟, 新部正人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 小松啓志, 齋藤秀俊, 神田一浩 日本放射光学会, 2015年1月10日-12日 (草津)
  - ・永井 翔, 久柴 尚裕, 段 智久, 谷池 晃, 古山 雄一 ディーゼル機関から排出された粒子状物質のRBS分析 若手フロンティア研究会2014、神戸大学、平成26年12月25日
  - ・渡邊大樹、初田光嶺、古山雄一、神田一浩、吉越章隆、寺岡有殿、横田久美子、田川雅人 Si, Ti 添加ダイヤモンドライクカーボン膜表面酸化反応における原子状酸素衝突エネルギーの影響 第11回宇宙環境シンポジウム, 2014年12月10日-12月11日 (大阪)
  - ・永井 翔、久柴尚裕、谷池 晃、段 智久、古山雄一 硫黄化合物添加A重油を用いたディーゼルエンジンの粒子状物質のイオンビーム分析 第84回 (平成26年) マリンエンジニアリング学術講演会 海峡メッセ下関
  - ・Daiki Watanabe, Akimine Hatsuda, Yuichi Furuyama, Kazuhiro Kanda, Akitaka Yoshigoe, Yuden Teraoka, Kumiko Yokota, Masahito Tagawa. Hyperthermal collision of O-atom on metal-doped diamond-like carbon films: effect of collision energy on the formation of protective oxide films. VASSCAA-7, Hsinchu, Taiwan ROC, October 5-9, 2014.
  - ・中森涼馬、永井翔、谷池晃、古山雄一 様々な雰囲気下における固体ブランケット候補材料  $\text{Li}_2\text{TiO}_3$  の  $\text{CO}_2$  吸収特性 日本原子力学会2014年秋の大会、京都大学
  - ・松木拓也、谷池晃、古山雄一、角椋太、西浦正樹、島添健次、木崎雅志、松本新功、土居謙太、山岡人志 加速器を用いて生成したガンマ線のドップラー効果の測定 日本原子力学会 秋の大会、京都大学 2014.9.
  - ・中西孝彰、谷池晃、日下柊吾、古山雄一 グラフト鎖鎖域幅のイオンビーム径依存性に関する研究 日本原子力学会 秋の大会、京都大学 2014.9.
  - ・S. Hagihara, T. Wada, S. Nakamoto, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike. Characterization of Secondary Electron Collection with Magnetic Field for Energy Recovery from High Energy Ion. 24th International Toki Conference, P6-34 (2014)
  - ・和田貴行、萩原翔太、中本聡、竹野裕正、八坂保能、古山雄一、谷池晃 2次電子放出を利用した高エネルギーイオンからのエネルギー回収における磁場導入効果の数値計算 平成26年電気関係学会 関西支部連合大会 2014.9.
  - ・貴傳名健吾, 新部雅人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 小松啓志, 齋藤秀俊, 神田一浩 Si含有DLC膜の原子状酸素照射効果 第75回応用物理学会秋季学術講演会, 2014年9月17日-9月20日 (札幌) on DVD.
  - ・Kumiko Yokota, Akitaka Yoshigoe, Yuden Teraoka, Kazuhiro Kanda, Yuichi Furuyama, Koji Matsumoto, Masahito Tagawa. Protection of materials from O-atom collision in low Earth orbit using thin oxide film grown in space. 13th European Vacuum Conference, Aveiro, Portugal, September 8-12, 2014.
  - ・A.Taniike, Raito Nakamura, Syugo Kusaka, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Y. Furuyama. Application of the ion beam graft polymerization method to the thin film diagnosis. 26th International conference on Nuclear Tracks in Solids, OP-4, Sep. 15-19, 2014, Kobe, Japan.
  - ・A.Taniike, S. Mochizuki, T. Shinobu, T. Ido, A. Shimizu, M. Nishiura, Y. Furuyama. Measurement of the cross sections for gold ion with 1.7 MV tandem accelerator. 26th International conference on atomic collisions in solids (ICACS-26) P61, July 13-18, 2014, Debrecen, Hungary.
- (山内)
- ・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也 : PADC 検出器中重イオントラック内に形成されるヒドロキシル基の役割、第62回応用物理学会春季学術講演会、東海大学湘南キャンパス、2015.3.
  - ・池永龍之介、松川兼也、小田啓二、小西輝明、小平聡、北村尚、山内知也 : Xe イオン(290

MeV/n), Kr イオン(400 MeV/n)を照射したポリイミドの損傷構造、第 62 回応用物理学会春季学術講演会、東海大学湘南キャンパス、2015.3.

・安田修一郎、松川兼也、小田啓二、小平聡、小西輝明、北村尚、蔵岡孝治、山内知也：高閾値飛跡検出器としてのポリイミド樹脂の研究、第 62 回応用物理学会春季学術講演会、東海大学湘南キャンパス、2015.3.

・山内知也、ムハンマド・エリワ、楠本多聞、田尾陽、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、西内満美子、榊泰直、金崎真聡、福田祐仁、近藤公伯：重イオン成分を含む混成場への固体飛跡検出器群の適用、東海大学湘南キャンパス、2015.3.

・亀田結貴、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、蔵岡孝治、小平聡、北村尚、山内知也：PADC 検出器中イオントラックに生成されるヒドロキシル基の研究、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：PADC 検出器中重イオントラック内に形成される OH 基の役割、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・池永龍之介、楠本多聞、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：Xe イオン (290 MeV/n)、Kr イオン (400 MeV/n) を照射したポリイミドの損傷構造、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・岩崎研太、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：イオン照射及び化学エッチングによるプラスチック表面の特性変化、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・安田修一郎、楠本多聞、小田啓二、小平聡、北村尚、蔵岡孝治、山内知也：高閾値飛跡検出器としてのポリイミド樹脂の研究、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・楠本多聞、上野琢也、小田啓二、山内知也：従来型実効電荷と加速器物理等で用いられる実効電荷の相互比較、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・上田隆裕、楠本多聞、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：従来型赤外分光と顕微分光との相互比較、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・山内知也、ムハンマド・エリワ、楠本多聞、田尾陽、池永龍之介、安田修一郎、小田啓二、小平聡、北村尚、西内満美子、榊泰直、金崎真聡、福田祐仁、近藤公伯：重イオンを含む放射線混成場への固体飛跡検出器群の適用、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・川嶋元、小平聡、安田仲宏、池永龍之介、山内知也、小林啓一、エリック・ベントン：分子間長の異なるモノマーから合成されたポリマーの荷電粒子に対するレスポンス 顕微 FT-IR 測定 (II)、第 29 回固体飛跡検出器研究会、福井大学敦賀キャンパス、2015.3.

・Shuichiro Yasuda, Yutaka Mori, Kenya Matsukawa, Tamon Kusumoto, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Teruaki Konishi, Hisashi Kitamura, Tomoya Yamauchi: A study on polyimide films as an etched track detector with higher registration threshold, 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, 2014.9.

・Ryunosuke Ikenaga, Yutaka Mori, Tamon Kusumoto, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Teruaki Konishi, Hisashi Kitamura, Tomoya Yamauchi: Feature of radiation damage formed along the nuclear tracks in bisphenol A polycarbonate films, 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, 2014.9.

・Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda, Satoshi Kodaira, Hisashi Kitamura,

Remi Barillon, Tomoya Yamauchi: On the modified structure around the latent tracks in PADC films exposed to protons and heavy ions, 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, 2014.9.

• Tomoya Yamauchi, Atsushi Sakamoto, Tamon Kusumoto, Yutaka Mori, Masato Kanasaki, Keiji Oda: Quantum yields for loss of carbonate ester bonds in polymeric nuclear track detectors under 222 nm UV radiations, 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, 2014.9.

• Remi Barillon: Chemical structure of heavy ion tracks in polymers, 26th International Conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, 2014.9.

(上田)

• 上田好寛, Euler-Maxwell 方程式系に現れる定常解の存在と漸近安定性, 神戸大学解析セミナー, 神戸大学, 2014年4月.

• 上田好寛, 非対称な緩和項を持つ対称双曲型方程式系の消散構造の解析とその応用, 京都駅前セミナー ~非線形現象の数理を考える~, キャンパスプラザ京都, 2014年6月.

• Yoshihiro Ueda, Decay structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, The 10th AIMS Conference on Dynamical Systems, Differential Equations and Applications, ICMAT, Madrid, Spain, (July 2014).

• Yoshihiro Ueda, Existence of the stationary solutions and its asymptotic stability for non-isentropic Euler-Maxwell system, 15th International Conference on Hyperbolic Problems: Theory, Numerics, Applications, IMPA, Rio de Janeiro, Brazil, (July 2014).

• Yoshihiro Ueda, Analysis of hyperbolic system with relaxation and its application, PDE Seminar, LNCC, Rio de Janeiro, Brazil, (August 2014).

• Yoshihiro Ueda, Analysis of hyperbolic system with relaxation and the application for Euler-Maxwell system, Coloquio, University of Concepcion, Concepcion, Chile, (August 2017).

• Yoshihiro Ueda, Decay structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, Wayamba International Conference WinC2014, Wayamba University of Sri Lanka, Kuliyaipitiya, Sri Lanka, (August 2014).

• Yoshihiro Ueda, Dissipative property for symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation, Workshop on Mathematical Sciences, Wayamba University of Sri Lanka, Kuliyaipitiya, Sri Lanka, (August 2014).

• 上田好寛, Asymptotic stability of stationary solutions for the non-isentropic Euler-Maxwell system, 第65回埼玉大学解析ゼミ, 埼玉大学, 2014年11月.

• 上田好寛, 非対称な緩和項を持つ対称双曲型方程式系の減衰構造の解析, 幾何セミナー, 神戸大学, 2014年12月.

• Yoshihiro Ueda, Decay structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, Mathematical Seminar, University of the Philippines, Baguio, Philippines, (February 2015).

• Yoshihiro Ueda, Decay property for symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation, CS Lecture Series, University of the Philippines, Baguio, Philippines, (February 2015).

(大澤)

• Takeshi Misaki, Teruo Ohsawa, Katsutoshi Kozai, Yasuyuki Baba, Koji Kawaguchi, 2014: Validation of WRF- and MANAL-estimated wind speed fields in coastal waters off Shirahama, Proceedings of the 3<sup>rd</sup> International Symposium on Maritime Sciences, Nov. 10-14 2014, Kobe, Japan.



- Kazuki Ishigami, Teruo Ohsawa, Takeshi Misaki, 2014: Comparison of two WRF simulations to estimate wind speeds at an offshore site, Poster, Techno-Ocean 2014, Oct. 2-4, 2014, Kobe, Japan.
- Tetsuya Orita, Teruo Ohsawa, Tsuguhiko Morita and Katsutoshi Kozai, 2014: Development of offshore wind maps based on satellite-borne scatterometer and mesoscale model, Techno-Ocean 2014, Oct. 2-4, 2014, Kobe, Japan.

(笹)

- Sasa, K.: A Consideration of Ship Performance in Weather Routing -Numerical Modeling of Speed Loss in Seaways-, Joint Symposium of Brain-Circulation and Maritime & Urban Engineering Programs, 大阪大学理工学図書館, 2015.3

(谷池)

- A. Taniike, S. Mochizuki, T. Shinobu, T. Ido, A. Shimizu, M. Nishiura, Y. Furuyama: Measurement of the cross sections for gold ion with 1.7 MV tandem accelerator, 26th International conference on atomic collisions in solids (ICACS-26), Debrecen, Hungary, 2014.7.
- A. Taniike, Raito Nakamura, Syugo Kusaka, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Y. Furuyama: Application of the ion beam graft polymerization method to the thin film diagnosis, 26th International conference on Nuclear Tracks in Solids, Kobe, Japan, 2014.9
- M. Nishiura, K. Doi, A. Taniike, T. Matsuki, K. Shimazoe, K. Horiki, T. Nagasaka, Y. Fujimoto, K. Fujioka, T. Tanaka, M. Kisaki, H. Yamaoka, Y. Matsumoto, M. Wada: Ion-induced gamma-ray detection of fast ions escaping from fusion plasmas, 20th High Temperature Plasma Diagnostics, the InterContinental Hotel Buckhead, 2014
- 中西孝彰, 谷池晃, 日下柊吾, 古山雄一: グラフト鎖鎖域幅のイオンビーム径依存性に関する研究, 日本原子力学会秋の大会, 京都大学, 2014.9
- 松木拓也, 谷池晃, 古山雄一, 角椋太, 西浦正樹, 島添健次, 木崎雅志, 松本新功, 土居謙太, 山岡人志: 加速器を用いて生成したガンマ線のドップラー効果の測定, 日本原子力学会秋の大会, 京都大学, 2014.9
- 土居謙太, 西浦正樹, 谷池晃, 松木拓也, 島添健次, 虫明敏生, 吉野将生, 長坂琢也, 藤本靖, 藤岡加奈, 田中照也, 木崎雅志, 山岡人志, 松本新功, 粕谷俊郎, 和田元: 核融合損失アルファ粒子計測のためのガンマ線画像再構成法, 第75回応用物理学会秋季学術講演会, 北海道大学, 2014.9
- 西浦正樹, 土居謙太, 谷池晃, 松木拓也, 島添健次, 山岡人志, 吉野将生, 長坂琢也, 藤本靖, 松本新功, 虫明敏生, 藤岡加奈, 田中照也, 木崎雅志, 和田元: 核融合高エネルギーイオン誘起ガンマ線検出器の開発, 第75回応用物理学会秋季学術講演会, 北海道大学, 2014.9
- 角椋太, 松木拓也, 谷池晃, 古山雄一, 西浦正樹, 土居謙太, 木崎雅志, 松本新功, 山岡人志: 高エネルギーガンマ線カメラ開発へ向けた鉛コリメータの概念設計, 日本原子力学会春の年会, 茨城大学, 2015.3
- 日下柊吾, 谷池晃, 中西孝彰, 古山雄一: その場イオンビームグラフト重合のための高真空中へのモノマー導入実験, 日本原子力学会春の年会, 茨城大学, 2015.3

(橋本)

- Hashimoto, H. : Recent Developments of Ship Stability Assessment, Invited lecture at Gyeongsang National University, 2014.11
- Hashimoto, H.: Recent Developments of Ship Stability Assessment, Invited seminar at China Ship Scientific Research Center, 2014.9

- ・ Hashimoto, H., Yuuki Taniguchi : Oil-Sloshing Impact due to Possible Nankai Trough Earthquake, International Symposium on Natural Disaster Impacts to Large Industrial Parks, 2015.3
- ・ Hashimoto, H. : Collaborative Research with ECN through JSPS Brain-Circulation Program, Joint Symposium of Brain-Circulation and Maritime & Urban Engineering Programs, 2015.3
- ・ Hashimoto, H. : Development of a coupled MPS-FEM model for the analysis of violent flow-structure interaction, Brain-Circulation Research Seminar, 2014.5
- ・ Hashimoto, H. : Investigation of ship flooding situations by MPS and SPH methods compared to dedicated experiments, Brain-Circulation Research Seminar, 2014.5
- ・ 橋本博公 : 粒子法の基礎と船舶海洋工学分野への応用, 日本船舶海洋工学会平成 26 年度性能・運動分野「夏の学校」, 2014.9
- ・ 橋本博公 : 船舶の損傷浸水問題を対象とした MPS 法と SPH 法の精度比較, 粒子法コードユーザーグループ第 29 回会合, 2014.7

#### (林)

- ・ 宮脇知美、林美鶴 : 淀川河口域における *Alexandrium tamarense* の濃度変動要因の検討、日本海洋学会春季大会、東京海洋大学品川キャンパス、2015.3
- ・ 小山悠人、中田聡史、林美鶴 : 淀川感潮域における海水遡上に対する主要な物理素過程の寄与率～数値シミュレーションによる解析～、日本海洋学会春季大会、東京海洋大学品川キャンパス、2015.3.
- ・ 中田聡史、林美鶴、鈴木綜人、越村俊一、小林英一 : 南海トラフ巨大地震津波を想定したマリンハザード研究、日本海洋学会春季大会、東京海洋大学品川キャンパス、2015.3.
- ・ 林美鶴 : 津波に対する船舶・海洋環境影響評価に向けた海底泥巻き上げ域の推定、第 3 回国連防災会議パブリック・フォーラム「津波が沿岸域の船舶や海洋環境に与える影響」、仙台市民会館、2015.3.
- ・ 林美鶴 : 津波が海洋環境に与える影響～堆積物の巻き上げ～、第 8 回海事防災研究会、神戸大学深江キャンパス、2015.2.
- ・ 林美鶴 : 練習船を利用した排ガス中温室効果ガス濃度計測、伏木富山港・海王丸財団・日本航海学会海洋工学研究会合同研究会、海王丸パーク、2015.2.
- ・ 塩山昌志、林美鶴 : 船上計測風速の補正に関する基礎研究、2014 年度海洋気象学会第 2 回例会、大阪合同庁舎、2014.12.
- ・ 林美鶴、柳東勲、黒田博之 : 航行船舶での排ガス中温室効果ガス濃度の実測、2014 年度海洋気象学会第 2 回例会、大阪合同庁舎、2014.12.
- ・ 小山悠人、中田聡史、林美鶴 : 淀川感潮域における海水遡上に対する物理現象の把握、九州大学応用力学研究所共同利用研究集会「日本海及び日本周辺海域の海況モニタリングと波浪計測に関する研究集会」、九州大学応用力学研究所、2014.12.
- ・ Shinpei Wada, Mitsuru Hayashi, Satoshi Nakada: Analysis of the direction of gas flux calculated by two methods. Techno-Ocean 2014, Kobe, 2014.10.
- ・ Yuto Koyama, Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi: The response of seawater intrusion on tide and river runoff in Yodo River estuary, Techno-Ocean 2014, Kobe, 2014.10.
- ・ 林美鶴、古賀竜太郎 : 数値生態系モデルによる淀川河口での *Alexandrium tamarense* 濃度変動の解析、日本海洋学会秋季大会、長崎大学文教キャンパス、2014.9.
- ・ 小山悠人、中田聡史、林美鶴 : 淀川感潮域における潮汐及び河川流量に対する海水遡上の応答、日本海洋学会秋季大会、長崎大学文教キャンパス、2014.9.
- ・ Mitsuru Hayashi, Ryutaro Koga, Tomoyasu Fujii, Keigo Yamamoto: Factors of the Temporal

Variation of Marine Phytoplankton at Yodo River Estuary, Asia Oceania Geosciences Society 11th Annual Meeting 2014, 2014.7~8.

・ Yuto Koyama, Mitsuru Hayashi, Teruo Ohsawa: Analysis of The Physical Structure of the Yodo River Estuary by the Computer Modeling, Asia Oceania Geosciences Society 11th Annual Meeting 2014, 2014.7~8.

・ Mitsuru Hayashi, Mitsuki Ohya, Kentaro Sakamoto, Eiji Yamashita: Which Parameters Affect the Exchange of N<sub>2</sub>O between the Air and the Sea? Twenty-fourth(2014) International Ocean and Polar Engineering Conference, Korea, 2014.6.

・ Michio Fujii, Misako Urakami, Mitsuru Hayashi, Nobukazu Wakabayashi: Draft: The Development of Meteorological and Oceanographic Data Collection and Recording System Operating on Training Ship, Proceedings of 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2014, USA, 2014.6.

・ 林美鶴、古賀竜太郎、藤井智康、山本圭吾：淀川河口での海洋性植物プランクトン濃度の変動要因、日本地球惑星科学連合 2014 年大会、パシフィコ横浜、2014.4~5.

#### (山地)

・ Kazuyo YAMAJI, 排出インベントリの概要及び化学輸送モデルへの活用について、講演会「全環研酸性雨データの活用例と排出インベントリを活用した大気質予測について」、2015.2.

・ Kazuyo YAMAJI, Yugo KANAYA, Masayuki TAKIGAWA：化学輸送モデルにおける日本南西海域での夏季オゾン過大評価傾向の要因について、第 56 回大気環境学会年会、2014.9

・ Kazuyo YAMAJI, Kohei IKEDA, Yugo KANAYA, Fumikazu TAKETANI, Hiroshi TANIMOTO、福江島でのオゾン・PM<sub>2.5</sub>、前駆物質の通年観測のモデル解析、第 55 回大気環境学会年会 2014.9.

・ Kudo S., Tanimoto H., Inomata S., Saito S., Pan X., Kanaya Y., Taketani F., Wang Z., Chen H., Dong H., Zhang M., Yamaji K. : Emissions of nonmethane volatile organic compounds from open crop residue burning in the Yangtze River Delta region, China. 13th Quadrennial iGACGP Symposium, 13th IGAC Science Conference on Atmospheric Chemistry, 2014

・ 金谷有剛, 松井仁志, 竹谷文一, 駒崎雄一, Xiole Pan, 山地一代, 池田恒平, 高見昭憲, 谷本浩志, 近藤豊, Zifa Wang, Daeil Kang, Limseok Chang : 日中韓広域大気汚染集中観測における有機エアロゾル・PM<sub>2.5</sub> 濃度のモデル再現性評価: VBS アプローチによる改善、第 20 回大気化学討論会, 第 20 回大気化学討論会 講演要旨集, 56、2014

・ 池田 恒平, 山地 一代, 金谷 有剛, 竹谷 文一, Pan Xiaole, 駒崎 雄一, 黒川 純一, 大原 利真: 日本の PM<sub>2.5</sub> 質量濃度に対する発源地域別の寄与. 2014 年度日本地球化学会第 61 回年会、富山市, 2014

・ Yugo Kanaya, Hitoshi Matsui, Fumikazu Taketani, Xiaole Pan, Yuichi Komazaki, Kohei Ikeda, Kazuyo Yamaji, Zifa Wang, Limseok Chang, Daeil Kang, Akinori Takami, Hiroshi Tanimoto, and Yutaka Kondo : Mass concentrations of organic aerosol and PM<sub>2.5</sub> in East Asia reproduced by using volatility base-set approach in the WRF-Chem model. 13th Quadrennial ICACGP Symposium & 13th IGAC Science Conference on Atmospheric Chemistry, Natal, 2014

・ Shimadera H., Hayami H., Chatani S., Morikawa T., Morino Y., Ohara T., Mori Y., Yamaji K., Nakatsuka S : Comprehensive sensitivity analyses on air quality model performance for PM<sub>2.5</sub> simulation, 16th International Conference on Harmonisation within Atmospheric Dispersion Modelling

for Regulatory Purposes, H16-105, Verna, September 2014

(首藤)

- ・西山 貴弘, 兵頭 昌, 首藤 信通, Test for covariance structure in high-dimensional settings, Workshop on Statistical Methods for Large Complex Data, 筑波大学, 2014.11.
- ・西山 貴弘, 兵頭 昌, 首藤 信通, Tatjana Pavlenko, Testing the block-diagonal covariance structure for high-dimensional data, 2014 年度 統計関連学会連合大会, 東京大学, 2014.9.
- ・首藤 信通, Approximations to the percentiles for the contaminated normal distribution, 2014 年度 統計関連学会連合大会, 東京大学, 2014.9.

(浅岡)

- ・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Katsuyoshi Nakano, Kenji Nakamoto, Kazutoshi Hino : Coal ash and cement mixture can remove hydrogen sulfide from marine sediments in enclosed water bodies, ECSA54, Sesimbra, Portugal, 2014.5.
- ・Guo Xin Li, Hideo Okamura, Satoshi Asaoka: Dissolved copper concentrations in seawater at a harbor in Osaka Bay, Japan, 10th International Symposium on Marine Engineering, Harbin, China, 2014.9.
- ・浅岡 聡, 岡村秀雄, 早川慎二郎, 中本健二, 樋野和俊, 柳楽俊之: フライアッシュとセメントを混合した底質改善材による閉鎖性水域からの硫化物イオンの除去, 日本分析化学会第 63 年会, 広島大学, 2014.9.
- ・篠原 悠, 大谷貴士, 岡本ひさよ, 段 智久, 浅岡 聡, 岡村秀雄: ジメチルエーテル混合 C 重油燃料を用いた船用機関からの排ガスが水生生物に及ぼす影響評価, 第 84 回マリンエンジニアリング学術講演会, 海峡メッセ下関, 2014.11.
- ・浅岡 聡: 産業系リサイクル材料を用いた閉鎖性水域の環境改善材の開発, 第 7 回サイエンスフェア in 兵庫, 神戸国際展示場, 2015.2.
- ・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Shinjiro Hayakawa : Development of a coal fly ash and cement mixture for optimum removal of hydrogen sulfide from water, The 19th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation, Hiroshima University, Higashihiroshima, Japan, 2015.3.

2013 年度

(岡村)

- ・李国鑫, 仁多一徳, 木村太輔, 岡村秀雄, 浅岡聡, 2013. 水中における亜酸化銅からの銅の溶出挙動, 第 3 回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」講演要旨集. 26.
- ・木村太輔, 李国鑫, 仁多一徳, 岡村秀雄, 浅岡聡, 2013. 天然海水中でのポリチオン防汚剤と銅イオンが塩水性甲殻類に及ぼす影響, 第 3 回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」講演要旨集. 18.
- ・木村太輔, 李国鑫, 上村知輝, 岡村秀雄, 2013. ポリチオン防汚剤と銅イオンによる塩水性甲殻類に対する相乗的毒性作用, 第 83 回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集. 57-58.
- ・岡本ひさよ, 段智久, 岡村秀雄, 2013. DME 混合燃料由来のディーゼル排ガス微粒子の変異原性評価, 第 83 回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集. 107-108.

(小田)

- ・K. Ohashi, T. Nakayama, T. Yamauchi, K. Oda: Identification of Cs-137 and Sr-90(Y-90) using Imaging Plate, 9th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Oarai, Japan, 2013. 12.
- ・大橋 改, 奥野貴大, 笠原英嗣, 中山高宏, 山内知也, 小田啓二: イメージングプレートを

用いた Cs-137 と Sr-90(Y-90)の識別、日本放射線安全管理学会第 12 回学術大会、北海道大学、2013. 11.

・大橋 改、中山高宏、山内知也、小田啓二：イメージングプレートを用いた Cs-137 と Sr-90(Y-90)の識別、日本保健物理学会第 46 回研究発表会、ホテルポートプラザちば、2013. 6.

(蔵岡)

・蔵岡孝治、山城一藤、奥宮毅：重合性層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製とガスバリア特性、日本セラミックス協会 2014 年年会、慶應義塾大学、2014.3.

・谷直人、蔵岡孝治：有機-無機ハイブリッドオレフィン分離膜の作製、日本セラミックス協会第 26 回秋季シンポジウム、信州大学、2013.9.

・蔵岡孝治、金澤未祐：架橋構造を導入したシリカ/デンプン有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性、日本セラミックス協会第 26 回秋季シンポジウム、信州大学、2013.9.

・西村大知、蔵岡孝治：有機 - 無機ハイブリッド気体分離膜の作製と気体透過特性、日本セラミックス協会第 26 回秋季シンポジウム、信州大学、2013.9.

・Koji Kuraoka and Miyu Kanazawa: Preparation and gas barrier properties of silica/starch organic-inorganic hybrid gas barrier films with cross-linked structures, International Conference & Exhibition on Advanced & Nano Materials (ICANM 2013), Université Laval, Quebec City, Canada, 2013.8.

・山本梨紗子、蔵岡孝治：キトサンを用いた有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

・蔵岡孝治、阿部 竜介、木下 侑亮：架橋構造を導入したシリカ/ポリビニルアルコール有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

・河端浩平、蔵岡孝治、奥宮毅：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

・辻隼人、蔵岡孝治：ポリカーボネートジオールを用いた有機-無機ハイブリッドハードコート膜の作製と特性評価、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

・塩野剛、山城一藤、奥宮毅、蔵岡孝治：層状複水酸化物を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

・金澤未祐、蔵岡孝治：架橋構造を導入したシリカ/デンプン有機 - 無機ハイブリッドガスバリア膜の作製と膜特性評価、日本包装学会第 22 回年次大会、東京大学、2013.7.

(香西)

・Investigation of offshore wind energy resource using AMSR2-derived wind speed and sea surface temperature products- Estimation of offshore wind energy resource -, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, Tsuguhiko Morita, GCOM-W1 PI Workshop, Jan.17, 2014, Tokyo, Japan

・マイクロ波放射計・散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発、香西克俊、大澤輝夫、森田承宏、第 16 回環境リモートセンシングシンポジウム、千葉大学 けやき会館 3 階レセプションホール、2014 年 2 月 21 日

(嶋田)

・芦高 勇氣, 嶋田博行 (2013).

コンフリクト適応とネガティブプライミングとの関係ーストループ試行内一致性と背景比率の操作ー 日本心理学会第 77 回大会発表論文集 pp.672、北海道医療大学、札幌コンベンション・EZ ンター、札幌市産業振興センター

・芦高 勇氣, 嶋田博行 (2013).

タイピング技能習得に及ぼす阻害的効果—ローマ字入力に伴うモーラ・音素変換 プロセスに着目して—日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集 pp.672、法政大学

・芦高 勇氣, 嶋田博行 (2013).

タイピストの脆弱なキーボードレイアウトの記憶表象 日本心理学会「認知と注意」研究会, 第 11 回会宿研究会、名古屋

#### (古山)

・松木拓也, 谷池晃, 古山雄一, 西浦正樹, 島添健次, 堀木一成, 木崎雅志, 松本新功, 土居謙太, 山岡人志 タンデム加速器を用いて生成した高エネルギー $\gamma$ 線の測定及び中性子の影響 日本原子力学会春の年会, 東京都市大 2014.3.

・谷池晃, 中西孝彰, 古山雄一 ポリエチレン中のイオンビーム誘起ラジカル種とグラフト率の関係 日本原子力学会春の年会, 東京都市大 2014.3.

・貴傳名健吾, 遠藤みなみ, 今井亮, 新部雅人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 小松啓志, 齋藤秀俊, 神田一浩 Ti 含有 DLC 膜の原子状酸素照射への耐性 第 61 回応用物理学会春季学術講演会, 2014 年 3 月 17 日-3 月 20 日 (相模原) on DVD.

・中森涼馬, 八幡恭平, 大塚遼, 倉橋慎太郎, 谷池晃, 古山雄一 核融合炉ブランケット候補材としての Li 金属化合物の CO<sub>2</sub> 吸収特性 若手フロンティア研究会、神戸大学 13.12.25

・Y. Takeshita, S. Hagihara, D. Akashi, S. Nakamoto, H. Takeno, Y. Yasaka, Y. Furuyama, A. Taniike, Study of Energy Recovery from High Energy Ions Using Secondary Electron Emission with Magnetic Field. 9th General Scientific Assembly of the Asia Plasma and Fusion Association in 2013, TP-36 (2013)

・貴傳名健悟, 遠藤みなみ, 今井亮, 新部正人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 小松啓志, 齋藤秀俊, 神田一浩 Ti 含有 DLC 膜の原子状酸素照射への耐性評価 NewSUBARU・立命館 SR センター合同シンポジウム 2013, 2011 年 11 月 1 日 (京都)

・貴傳名健悟, 遠藤みなみ, 今井亮, 新部正人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 神田一浩 原子状酸素照射による Si 含有 DLC 膜への表面構造変化 第 74 回応用物理学会秋季学術講演会, 2013 年 9 月 16 日-9 月 20 日 (京都) on DVD.

・遠藤みなみ, 貴傳名健悟, 今井亮, 新部正人, 横田久美子, 田川雅人, 古山雄一, 神田一浩 原子状酸素照射による Si 含有 DLC 膜への影響 第 74 回応用物理学会秋季学術講演会, 2013 年 9 月 16 日-9 月 20 日 (京都) on DVD.

・中森涼馬, 八幡恭平, 谷池晃, 古山雄一 固体ブランケット候補材としての様々な Li 金属化合物の CO<sub>2</sub> 吸収特性 日本原子力学会秋の大会 八戸工業大学 2013.9.

#### (山内)

・楠本多聞, 森豊, 金崎真聡, 小田啓二, 小西輝昭, 小平聡, 北村尚, 山内知也 : PADC 検出器中重イオントラックの赤外線分光分析による研究(1)、第 61 回応用物理学会春季学術講演会、青山学院大学、2014.3.

・田尾陽, 森豊, 金崎真聡, 小田啓二, 小西輝昭, 小平聡, 北村尚, 山内知也 : 高閾値型飛跡検出器としてのポリエチレンテレフタレータの研究 (II)、第 61 回応用物理学会春季学術講演会、青山学院大学、2014.3.

・中村洋明, 森豊, 松川兼也, 楠本多聞, 小田啓二, 小平聡, 小西輝昭, 北村尚, 山内 知也 : 重イオンに対するポリカーボネートのエッチング特性、第 28 回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・池永龍之介, 森豊, 松川兼也, 楠本多聞, 小田啓二, 小平聡, 小西輝昭, 北村尚, 山内知也 : ポリカーボネート中に形成される放射線損傷の特徴、第 28 回固体飛跡検出器研究会、神

戸大学、2014.3.

・安田修一郎、森豊、松川兼也、楠本多聞、小田啓二、小平聡、小西輝昭、北村尚、山内知也：高閾値飛跡検出器としてのポリイミド樹脂の研究、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・石間倭太郎、松川兼也、楠本多聞、田尾陽、森豊、北村尚、小平聡、小西輝昭、小田啓二、山内知也：高閾値飛跡検出器としてのポリエチレンテレフタレートの研究、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・楠本多聞、森豊、金崎真聡、又井悠里、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：PADC 飛跡検出器中重イオントラックの赤外分光分析、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・松川兼也、森豊、楠本多聞、小田啓二、小平聡、北村尚、山内知也：高閾値飛跡検出器としてのエンジニアリングプラスチックの応用可能性、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・又井悠里、金崎真聡、森豊、小田啓二、小平聡、小西輝昭、安田仲宏、山内知也：PADC 検出器中イオントラック内に形成されるヒドロキシル基の役割、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・森豊、金崎真聡、小田啓二、小平聡、北村尚、小西輝昭、藤乗幸子、誉田義英、山内知也：ポリアリルジグリコールカーボネート検出器中に形成されるプロトン及び重イオントラックの構造、第28回固体飛跡検出器研究会、神戸大学、2014.3.

・又井悠里、金崎真聡、森豊、小田啓二、小平聡、小西輝昭、山内知也：PADC 中潜在飛跡近傍における水の定量評価、第73回応用物理学会秋季学術講演会、同志社大学、2013.9.

・松川兼也、森豊、小田啓二、小西輝昭、小平聡、北村尚、山内知也：ポリイミド薄膜の重イオン応答特性評価、第73回応用物理学会秋季学術講演会、同志社大学、2013.9.

・田尾陽、森豊、小平聡、小西輝昭、小田啓二、山内知也：高閾値型飛跡検出器としてのポリエチレンテレフタレートの研究、第73回応用物理学会秋季学術講演会、同志社大学、2013.9.

・楠本多聞、森豊、小田啓二、小西輝昭、小平聡、北村尚、安田仲宏、山内知也：重イオンに対する PADC 検出器の応答特性、第73回応用物理学会秋季学術講演会、同志社大学、2013.9.

(上田)

・Yoshihiro Ueda, Decay property for symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation, Mathematical Seminar, The Chinese academy of sciences institute of applied mathematics, (May 2013).

・Yoshihiro Ueda, Dissipative structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, Mathematical Seminar, Beijing University of Technology, Beijing, China, (May 2013).

・Yoshihiro Ueda, Dissipative structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, Mathematical Seminar, Capital normal university, Beijing, China (May 2013).

・Yoshihiro Ueda, Decay property for symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation, Mathematical Seminar, Beijing University of Chemical and Technology, Beijing, China (May 2013).

・上田好寛, Dissipative structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, 愛媛大学解析セミナー, 愛媛大学, 2013年6月.

・上田好寛, 非対称な緩和項を持つ対称双曲型方程式系の減衰構造の解析とその応用, 松江セミナー, 島根大学, 2013年6月.

- Yoshihiro Ueda, Asymptotic stability of stationary solutions for the non-isentropic Euler-Maxwell system, 流体と気体の数学解析 RIMS 研究集会, 京都大学, 2013 年 7 月.
- 上田好寛, Existence of the stationary solutions and its asymptotic stability for non-isentropic Euler-Maxwell system, 偏微分方程式セミナー, 北海道大学, 2013 年 12 月.
- 上田好寛, Euler-Maxwell 方程式系の消散構造の解析と安定性について, NIFS 共同研究 (研究会)「MHD および流体力学における流れの安定性に関する理論・シミュレーション研究」, 核融合科学研究所, 2013 年 12 月.
- 上田好寛, Stability of stationary solutions for the non-isentropic Euler-Maxwell system, 若手による流体力学の基礎方程式研究集会, 名古屋大学, 2014 年 1 月.
- Yoshihiro Ueda, Dissipative property for symmetric hyperbolic systems with non-symmetric relaxation, Oberseminar Partielle Differentialgleichungen, University of Konstanz, Germany (February 2014).
- Yoshihiro Ueda, Dissipative structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, Winter School on Calculus of Variations in Physics and Materials Science, University of Wurzburg, Germany, (February 2014).
- Yoshihiro Ueda, Decay structure of the regularity-loss type and the asymptotic stability for the Euler-Maxwell system, IMS Workshop on Nonlinear PDEs from Fluids and Related Topics, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, (March 2014).

(大澤)

- Tsuguhiko Morita, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, 2013: Estimation and validation of offshore wind energy resources using microwave radiometer and scatterometer, Proc. of International Symposium on Remote Sensing, 15-17 May 2013, Chiba, Japan, A7-01.
- Yinghua Jin, Katsutoshi Kozai, Teruo Ohsawa, 2013: Verification of WRF simulation for offshore wind energy resources in the Taiwan Strait, Proc. of International Symposium on Remote Sensing, 15-17 May 2013, Chiba, Japan, Q2-04.
- 見崎豪之, 大澤輝夫, 香西克俊, 馬場康之, 川口浩, 2013 : メソ気象モデル WRF によって計算された沿岸海域における水平風速勾配の精度検証, 日本風工学研究会誌 (平成 25 年度年次研究発表会梗概集), Vol.135, pp.131-132.

(笹)

- 笹 健児 : 国際航海に従事する船舶の実海域計測の問題点と改良、日本船舶海洋工学会 実海域性能研究会、大阪大学、2013.9

(谷池)

- A. Taniike, Yuya Hirooka, Noriaki Nakanishi, Raito Nakamura, Y. Furuyama: High fluence irradiation on the ion beam graft polymerization method, The 11<sup>th</sup> European Conference on Accelerators in Applied Research and Technology, Namur, Belgium, 2013.9
- S. Mochizuki, A. Taniike, T. Shinobu, T. Ido, A. Shimizu, M. Nishiura, Y. Furuyama: MCP Calibration for the heavy ion beams generated by the 1.7 MV tandem accelerator, The 11<sup>th</sup> European Conference on Accelerators in Applied Research and Technology, Namur, Belgium, 2013.9
- 土居謙太, 西浦正樹, 谷池晃, 松木拓也, 島添健次, 堀木一成, 長坂琢也, 藤本靖, 藤岡加奈, 田中照也, 木崎雅志, 山岡人志, 松本新功, 粕谷俊郎, 和田元 : 高エネルギー粒子誘起ガンマ線カメラを用いた核融合損失アルファ粒子計測手法の開発, 第 75 回応用物理学会秋季学術講演会, 同志社大, 2013.9
- 土居謙太, 西浦正樹, 谷池晃, 松木拓也, 島添健次, 堀木一成, 長坂琢也, 藤本靖, 藤岡加奈, 田中照也, 木崎雅志, 山岡人志, 松本新功, 粕谷俊郎, 和田元 : 損失アルファ粒子計



測のためのガンマ線イメージング用コリメータ設計, プラズマ核融合学会, 東工大, 2013.12

・谷池晃, 中西孝彰, 古山雄一: ポリエチレン中のイオンビーム誘起ラジカル種とグラフト率の関係, 日本原子力学会春の年会, 東京都市大, 2014.3

・松木拓也, 谷池晃, 古山雄一, 西浦正樹, 島添健次, 堀木一成, 木崎雅志, 松本新功, 土居謙太, 山岡人志: タンデム加速器を用いて生成した高エネルギー $\gamma$ 線の測定及び中性子の影響, 日本原子力学会春の年会, 東京都市大, 2014.3

・土居謙太, 西浦正樹, 谷池晃, 松木拓也, 島添健次, 堀木一成, 長坂琢也, 藤本靖, 藤岡加奈, 田中照也, 木崎雅志, 山岡人志, 松本新功, 粕谷俊郎, 和田元: ガンマ線画像検出による核融合損失アルファ粒子計測のためのコリメータ設計, 応用物理学会, 青山大, 2014.3

#### (林)

・林美鶴, 古賀竜太郎, 宮脇知美, 藤井智康, 山本圭吾: 観測データによる淀川感潮域における海水遡上要因の解析, 日本海洋学会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス, 2014.3.

・小山悠人, 林美鶴, 大澤輝夫: 物理モデルによる淀川感潮域における海水遡上要因の解析, 日本海洋学会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス, 2014.3.

・Mitsuru Hayashi, Mitsuki Ohya, Kentaro Sakamoto, Eiji Yamashita: Estimation of the air-sea dinitrogen monoxide flux based on the measured data in the Japanese coastal sea, Proceedings of EMECS 10- MEDCOAST 2013 Joint Conference, Turkey, 2013.10-11.

・Mitsuru Hayashi, Ryutaro Koga, Tomoyasu Fujii, Keigo Yamamoto: Analysis of Seawater Run Up in the Yodo River Estuary, Proceedings of EMECS 10- MEDCOAST 2013 Joint Conference, Turkey, 2013.10-11.

・古賀竜太郎, 林美鶴, 藤井智康, 山本圭吾: 淀川感潮域における有毒赤潮に関する研究, 瀬戸内海研究フォーラム in 山口, 宇部文化会館, 2013.8.

・柳東勲, 西尾澄人, 平田宏一, 仁木洋一, 新田好古, 林美鶴, 藤田浩嗣, 足立直陽, 滝本剛士: 船舶に起因する亜酸化窒素の計測及び排出特性, 平成 25 年度(第 13 回) 海上技術安全研究所研究発表会, 海上技術安全研究所, 2013.6.

#### (山地)

・Kazuyo YAMAJI: 大気物質輸送シミュレーションによる船舶起源排ガスの大気質影響評価, 日本航海学会第 129 回講演会, 2013.11.

・Kazuyo YAMAJI, Masayuki TAKIGAWA, Kohei IKEDA: Models reproducibility of ozone concentrations over Japan in warm season., 12th Annual CMAS Conference, 2013.10.

・Kazuyo YAMAJI, Masayuki TAKIGAWA, Kohei IKEDA, Yugo KANAYA, Xiaole PAN, Hiroshi TANIMOTO: 福江島における暖候期オゾン濃度のモデル再現性に関する研究, 第 54 回大気環境学会年会, 2013.9.

・Kazuyo YAMAJI: 長崎県福江島における PM2.5 のモデル解析, 2013 年度海洋気象学会第 1 回例会, 2013.7.

・Kazuyo YAMAJI, Kohei IKEDA, Masayuki TAKIGAWA Tatsuya NAGASHIMA: 東アジア域大気汚染物質の発生源感度評価のためのモデル間相互比較, 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 2013.6.

・Kazuyo YAMAJI, Kohei IKEDA, Masayuki TAKIGAWA Tatsuya NAGASHIMA, Yugo KANAYA: Model inter-comparison for evaluation on source sensitivities of ozone and PM2.5 over East Asia. The 12 th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality, The 12 th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality, 2013.6.

・ IKEDA KOHEI , YAMAJI KAZUYO , KANAYA YUGO , TAKETANI FUMIKAZU , PAN XIAOLE , KOMAZAKI YUICHI , KUROKAWA JUN-ICHI, OHARA TOSHIMASA : Regional-scale transport of PM2.5 in East Asia: Implications to air quality over Japan. 12th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality, 2013

・ IKEDA KOHEI , YAMAJI KAZUYO , KANAYA YUGO , TAKETANI FUMIKAZU , PAN XIAOLE , KOMAZAKI YUICHI , KUROKAWA JUN-ICHI , OHARA TOSHIMASA. Model analysis of seasonal variation of PM2.5 across Japan and its regional-scale transport in East Asia. EGU, 2013

・池田 恒平 , 山地 一代 , 金谷 有剛 , 竹谷 文一 , Pan Xiaole , 駒崎 雄一 , 黒川 純一 , 大原 利眞.: 日本の PM2.5 質量濃度に対する発生源地域の感度解析. 第 54 回大気環境学会年会, 2013

・嶋寺光、速水洋、茶谷聡、森川多津子、森野悠、大原利眞、森康彰、山地一代、中塚誠次：大気質モデルによる PM2.5 主要成分の再現性向上のための感度解析、第 30 回エアロゾル科学・技術研究討論会、2013

・ Irie, H., K. Yamaji, K. Ikeda, I. Uno, S. Itahashi, T. Ohara, and J. Kurokawa, : An evaluation of the CMAQ reproducibility of satellite tropospheric NO2 column observations at different local times over East Asia, 2013 AGU Fall Meeting, Moscone center (San Francisco), December 10, 2013.

・ Irie, H., K. Yamaji, K. Ikeda, I. Uno, S. Itahashi, T. Ohara, and J. Kurokawa, : An evaluation of the CMAQ reproducibility of satellite tropospheric NO2 column observations at different local times over East Asia, GEMS workshop, Seokyo hotel (Seoul), October 15, 2013

・ Irie, H., K. Yamaji, K. Ikeda, I. Uno, S. Itahashi, T. Ohara, and J. Kurokawa, : An evaluation of the CMAQ reproducibility of satellite tropospheric NO2 column observations at different local times over East Asia, the 6th International DOAS workshop, the University of Boulder (Boulder), August 14, 2013

・入江仁士, 山地一代, 池田恒平, 鶴野伊津志, 板橋秀一, 大原利眞, 黒川純一：GOME-2, SCIAMACHY, OMI の対流圏 NO2 カラム衛星データを複合利用した CMAQ モデルの評価、大気化学討論会、石川県七尾市、2013 年 11 月 6-8 日

・入江仁士、山地一代、池田恒平、鶴野伊津志、板橋秀一、大原利眞、黒川純一：東アジアにおける対流圏 NO2 カラム衛星データの CMAQ による再現性の評価:日変化の観点から、日本地球惑星科学連合大会、千葉県幕張市、2013 年 5 月 19-24 日

・入江仁士, 山地一代, 池田恒平, 鶴野伊津志, 板橋秀一, 大原利眞, 黒川純一：GOME-2, SCIAMACHY, OMI の対流圏 NO2 カラム衛星データを複合利用した CMAQ モデルの評価、日本気象学会、仙台国際センター(仙台市), 2013 年 11 月 19-21 日

・入江仁士, 山地一代, 池田恒平, 鶴野伊津志, 板橋秀一, 大原利眞, 黒川純一：GOME-2, SCIAMACHY, OMI の対流圏 NO2 カラム衛星データを複合利用した CMAQ モデルの評価、大気化学討論会、石川県七尾市、2013 年 11 月 6-8 日

#### (浅岡)

・浅岡 聡、斉藤 直、岡村秀雄、早川慎二郎：好気、嫌気環境の繰り返しによる石炭灰造粒物への硫化物イオンの吸着機構の解明、第 73 回分析化学討論会、北海道大学、2013.5.

・浅岡 聡、遠藤 徹、別所 大、和田洋一：インジゴカルミンによる溶存酸素の簡易的な可視化技術の検討、第 73 回分析化学討論会、北海道大学、2013.5.

・浅岡 聡、岡村秀雄、与儀千尋、太田敏明、片山真祥、稲田康宏、早川慎二郎：閉鎖性水域における環境改善材料の XAFS による性能評価、立命館大学 SR センター研究成果報告会、

立命館大学、2013.6.

・木村太輔、Guo Xin Li、仁多一徳、岡村秀雄、浅岡 聡：天然海水中でのピリチオン防汚剤と銅イオンが塩水性甲殻類に及ぼす影響、日本マリンエンジニアリング学会、神戸大学、2013.9.

・Guo Xin Li、仁多一徳、木村太輔、岡村秀雄、浅岡 聡：水中における亜酸化銅からの銅の溶出挙動、日本マリンエンジニアリング学会、神戸大学、2013.9.

・浅岡 聡、Guo Xin Li：閉鎖性水域の水環境問題と解決策、第6回サイエンスフェア in 兵庫、神戸国際展示場、2014.2

・Satoshi Asaoka, Hideo Okamura, Tomohisa Dan, Hisayo Okamoto, Shinjiro Hayakawa : Identification of sulfur species adsorbed on particulate matters from ship exhaust gas using XAFS analyses, The 18th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation, Hiroshima University, Higashihiroshima, Japan, 2014.3.

・浅岡 聡：フライアッシュ（石炭灰）とセメントを配合した造粒物による閉鎖性水域の底質改善材（硫化水素除去材）、JST 発 新技術説明会、JST 東京本部別館、2014.3.

## 6. 国際会議や研究集会の主催・共催

### 2016 年度

・第31回固体飛跡検出器研究会（量子科学技術研究開発機構関西光科学研究所、2017.3.9.-10.）（小田、山内、金崎）

・ICP2016 (The 31st International Congress of Psychology), July 24-29, 2016, Yokohama, Japan, Stroop & Reverse-Stroop interference as cognitive control: The possible underlying mechanisms and applied perspective（シンポジウム企画、司会と指定討論）（嶋田）

・第53回好塩微生物研究会（神戸大学大学院海事科学研究科、2016年12月10日）（三村）

・洋上風況シンポジウム（神戸大学先端融合研究環研究プロジェクト No.19：神戸大学海事2017年3月8日）（大澤）

・第10回海事防災研究会（神戸大学大学院海事科学研究科、2017.3.9.）（林）

・第2回海洋環境研究集会（神戸大学大学院海事科学研究科、2016.12.21～22.）（林）

・第57回 大気環境学会年会分科会「大気質シミュレーションの環境政策への適用に向けて～光化学オキシダントモデルの現状と課題～」 分科会幹事として主催（山地）

### 2015 年度

・第52回好塩微生物研究会（神戸大学大学院海事科学研究科、2015年12月12日）（三村）

・The 3rd International Conference on Violent Flows, Osaka, I-site なんば, 2016.3, 主催, 議長（橋本）

・「認知コントロール（ストループ課題等）- その基礎研究から臨床研究まで」（[企画代表、話題提供、指定討論、司会] 日本心理学会第79回大会（2015）名古屋大学、日本心理学会第79回大会発表論文集 SS(48)）（嶋田）

・第9回海事防災研究会（神戸大学大学院海事科学研究科、2016.2.9.）（小林、林）

・第1回海洋環境研究集会（神戸大学大学院海事科学研究科、2015.12.7～8.）（林）

### 2014 年度

・26th International Conference on Nuclear Tracks in Solid, Kobe University, 2014.9.15.-19.（小田、

山内、古山、蔵岡、谷池)

- ・第8回大学原子力実験施設シンポジウム・第3回「大学原子力実験施設連絡会」福島除染研究会“震災・福島第一原発事故後の復旧・復興と、復興に向けた大学実験施設連絡会の取り組み”(神戸大学大学院海事科学研究科主催 2014年7月25日-7月26日 梅木Yホール)(谷池・古山)
- ・第6回若手による流体セミナー、神戸大学大学院海事科学研究科、2014.10.24-26。(上田)
- ・The 29th International Workshop on Water Waves and Floating Bodies, Osaka, 千里阪急ホテル, 2014.4, Local Organizing Committee (橋本)
- ・第8回海事防災研究会(神戸大学大学院海事科学研究科、2015.2.3。)(小林、林)

## 2013年度

- ・第28回固体飛跡検出器研究会(神戸大学海事科学研究科、2014.3.27.-28。)(小田、山内)
- ・「ストループ効果研究の現在」(日本心理学会第77回大会(2013)。北海道医療大学、札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター、[企画代表、指定討論] 日本心理学会第77回大会発表論文集 SS(26)小講演企画, 司会 L-018 「タイピング技能の熟練化とコントロール」講演者 芦高勇氣 日本心理学会第78回大会(2014)。同志社大学、日本心理学会第78回大会発表論文集 L(9)(嶋田)

## 7. 外部資金獲得状況(代表者)(2013年度から2016年度)

### 2016年度

- ・有機バイオサイドと銅による相乗的な毒性作用メカニズムの理解(科学研究費補助金 特別研究員奨励費)(岡村)
- ・漁網防汚剤の溶出速度試験の確立(共同型協力研究)(岡村)
- ・船舶を活用した海上移動型放射線モニタリングシステムの開発(文科省委託事業 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業)(小田)
- ・原子力・放射線災害初動対応への船舶の活用(海からのアプローチ)に関する基礎研究(科学研究費補助金 挑戦的萌芽)(小田)
- ・原子力災害時初動対応への船舶活用に関する基礎研究(関西原子力懇談会学術振興奨学金)(小田)
- ・メタンガス選択分離膜及び二酸化炭素選択分離膜の開発(共同型協力研究:東洋ゴム工業株)(蔵岡)
- ・シルセスキオキサンを用いたガスバリア膜の開発(共同型協力研究:東レ・ファインケミカル株)(蔵岡)
- ・AMSR2 海上風速及びメソ気象モデル WRF を用いた洋上風力資源調査手法の検討(地球環境変動観測ミッション(GCOM)第5回研究公募採択課題、JAXA 共同研究)(香西)
- ・マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発(千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用一般研究)(香西)
- ・ミスの連鎖に関する認知コントロールの基礎 JR 西日本安全研究所 239万円 産学連携(嶋田)

- ・山縣記念財団 2016 年度補助金助成：近海航路域内に棲息する外来フジツボ幼生の実態調査（三村）
- ・高分子系エッチング方飛跡検出器の感度特性とトラック損傷構造の解明（科学研究費 基盤 C）（山内）
- ・風力発電等技術研究開発／洋上風力発電等技術研究開発／洋上風況観測システム実証研究（洋上風況マップ）（受託研究）（大澤）
- ・淡路島洲本市西海岸沖洋上風況調査（受託研究）（大澤）
- ・洋上風況推定手法に関する実海域における精度実験の基盤研究 Phase2（受託研究）（大澤）
- ・ブイ-数値計算併用型洋上風況調査手法の岩手県洋野町沖への適用（受託研究）（大澤）
- ・徳島県鳴門市沖洋上風況調査（受託研究）（大澤）
- ・洋上風力発電サイト評価手法の開発（共同研究）（大澤）
- ・地球規模に拡大する液体輸送のスロッシング影響を加味した船舶の最適運航システム（科学研究費補助金・基盤研究 B）（笹）
- ・レーダー海面反射の二段階検証を適用した南半球海域の高波浪に関するスペクトルおよび船舶性能の高精度推定（造船学術研究推進機構研究助成）（笹）
- ・沖縄県伊江港における波浪モニタリングシステムを活用した新しいフェリー最適運航システムの開発（株式会社ソニック）（笹）
- ・荒天時における船舶機関の運転制御および波浪影響の連携評価による新運航システム（科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究）（笹）
- ・イオンビーム照射を利用した電解質の高分子フィルムへの閉じ込めに関する研究（科学研究費 基盤 C）（谷池）
- ・損傷船舶の先進的安全性評価に資する数値シミュレーション手法の構築（科学研究費 基盤研究 B）（橋本）
- ・粒子法と有限要素法を組み合わせた強非線形流体・構造連成解析法の構築（科学研究費 挑戦的萌芽研究）（橋本）
- ・目標指向型復原性基準に関する調査研究（受託研究費）（橋本）
- ・波浪エネルギー吸収システムの開発（受託研究費）（橋本）
- ・淀川汽水域における海洋性植物プランクトン赤潮発生機構の解明（九州大学応用力学研究所共同研究費）（林）
- ・大気中 PM2.5 濃度予測精度向上のための二次有機粒子シミュレーションの精緻化（科学研究費基盤 C・基金）（山地）
- ・単調欠測データに基づく検定統計量の高次元大標本漸近理論とその応用（科学研究費，若手研究 B）（首藤）
- ・酸化触媒を担持した石炭灰による閉鎖性水域の難分解性底泥の分解材の開発（科学研究費，若手研究 A）（浅岡）
- ・石炭灰を有効活用した各種環境条件に最適化した硫化物イオン酸化複合触媒組成の検証（科学技術振興機構研究成果展開事業マッチングプランナープログラム）（浅岡）
- ・石炭灰造粒物(GCA)による浄化槽の悪臭とリン吸着材の開発（フジクリーン工業株式会社共同研究）（浅岡）
- ・石炭灰固化物の硫化物イオン吸着特性に関する研究（中国電力株式会社エネルギー総合研究所共同研究）（浅岡）

## 2015 年度

- ・漁網防汚剤の溶出速度試験の確立（共同型協力研究）（岡村）
- ・スラグ石材の被覆石としての適用性評価（共同型協力研究）（岡村）
- ・漁網防汚剤の溶出速度試験の確立（共同型協力研究）（岡村）
- ・船舶を活用した海上移動型放射線モニタリングシステムの開発（文科省委託事業 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業）（小田）
- ・蛍光飛跡検出素子を用いた中性子・荷電粒子・ $\gamma$ 線対応型高機能個人線量計の開発（科学研究費補助金 基盤B）（小田）
- ・原子力・放射線災害初動対応への船舶の活用（海からのアプローチ）に関する基礎研究（科学研究費補助金 挑戦的萌芽）（小田）
- ・原子力災害時初動対応への船舶活用に関する基礎研究（関西原子力懇談会学術振興奨学金）（小田）
- ・メタンガス選択分離膜及び二酸化炭素選択分離膜の開発（共同型協力研究：東洋ゴム工業株）（蔵岡）
- ・シルセスキオキサンを用いたガスバリア膜の開発（共同型協力研究：東レ・ファインケミカル株）（蔵岡）
- ・PVA/シリカ/ナノセルロースで構成されるガスバリア性能発現の基礎検討（共同型協力研究：荒川化学工業株）（蔵岡）
- ・シアネート系有機無機ハイブリッド材料の研究（共同型協力研究：三菱ガス化学株）（蔵岡）
- ・AMSR2 海上風速及びメソ気象モデル WRF を用いた洋上風力資源調査手法の検討（地球環境変動観測ミッション（GCOM）第5回研究公募採択課題、JAXA 共同研究）（香西）
- ・マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発（千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用一般研究）（香西）
- ・認知心理学成果を組み込んだストループ検査の現代化（基盤研究C）（嶋田）
- ・金属凝集系と水素の反応熱に関する研究（(株)テクノバ共同型協力研究）（古山）
- ・ブイ観測・数値計算ハイブリッド型洋上風況調査システムの研究開発（科学研究費 基盤研究(C)）（大澤）
- ・洋上風況推定手法に関する実海域における精度実験の基盤研究（受託研究）（大澤）
- ・ブイ上での乱流強度観測精度の解析（受託研究）（大澤）
- ・風力発電等技術研究開発/洋上風力発電等技術研究開発/洋上風況観測システム実証研究（洋上風況マップ）（受託研究）（大澤）
- ・洋上風力発電サイト評価手法の開発（共同研究）（大澤）
- ・洋上風力発電のための低動揺ブイ式風況観測（共同研究）（大澤）
- ・荒天時における船舶機関の運転制御および波浪影響の連携評価による新運航システム（科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究）（笹）
- ・国際海上輸送における安全性・経済性・海洋環境を統合した新しい最適運航システム（科学研究費補助金・基盤研究B）（笹）
- ・イオンビーム照射を利用した電解質の高分子フィルムへの閉じ込めに関する研究（科学研究費 基盤C）（谷池）
- ・損傷船舶の先進的安全性評価に資する数値シミュレーション手法の構築（科学研究費 基盤研究B）（橋本）
- ・粒子法と有限要素法を組み合わせた強非線形流体・構造連成解析法の構築（科学研究費 挑

## 戦的萌芽研究) (橋本)

- ・農林水産業におけるロボット技術研究開発事業(農林水産省)(橋本)
- ・目標指向型復原性基準に関する調査研究(受託研究費)(橋本)
- ・波浪エネルギー吸収システムの開発(受託研究費)(橋本)
- ・PIVデータからの圧力場推定に関する研究(研究助成)(橋本)
- ・淀川汽水域における海洋性植物プランクトン赤潮発生機構の解明(九州大学応用力学研究共同研究費)(林)
- ・大気中PM2.5濃度予測精度向上のための二次有機粒子シミュレーションの精緻化(科学研究費基盤C・基金)(山地)
- ・X線吸収微細構造および硫化物イオン直接定量による底泥の硫黄の化学形態の解明(公益財団法人ひょうご科学技術協会学術研究助成)(浅岡)
- ・石炭灰造粒物の硫化物イオン吸着特性に関する研究(H27年度)(中国電力株式会社エネルギー総合研究所共同研究)(浅岡)
- ・瀬戸内海の基礎生産量の時空間変動をリモートセンシングと海洋観測から評価する(神戸大学学長裁量経費若手研究者異分野融合研究アイデアコンテスト)(浅岡)

## 2014年度

- ・漁網防汚剤の溶出速度試験の確立(共同型協力研究)(岡村)
- ・製鋼スラグの深堀埋め戻し材としての適用性評価(その3)(共同型協力研究)(岡村)
- ・次世代燃料を用いた船用機関からの排ガスが水環境に及ぼす影響評価(科学研究費補助金挑戦的萌芽研究)(岡村)
- ・蛍光飛跡検出素子を用いた中性子・荷電粒子・ $\gamma$ 線対応型高機能個人線量計の開発(科学研究費補助金 基盤B)(小田)
- ・メタンガス選択分離膜及び二酸化炭素選択分離膜の開発(共同型協力研究:東洋ゴム工業株)(蔵岡)
- ・シルセスキオキサンを用いたスーパーガスバリア膜の開発(共同型協力研究:東レ・ファインケミカル株)(蔵岡)
- ・PVA/シリカ/ナノセルロースで構成されるガスバリア性能発現の基礎検討(共同型協力研究:荒川化学工業株)(蔵岡)
- ・AMSR2海上風速及びメソ気象モデルWRFを用いた洋上風力資源調査手法の検討(地球環境変動観測ミッション(GCOM)第5回研究公募採択課題、JAXA共同研究)(香西)
- ・マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発(千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用一般研究)(香西)
- ・認知心理学成果を組み込んだストループ検査の現代化(基盤研究C)(嶋田)
- ・金属凝集系と水素の反応熱に関する研究((株)テクノバ共同型協力研究)(古山)
- ・発光ダイオード光源を利用した海洋付着生物の着生制御実験と船舶運航管理への新展開(課題番号:26420824)(科学研究費補助金(基盤研究(C))(H26~H29)(三村)
- ・ブイ観測・数値計算ハイブリッド型洋上風況調査システムの研究開発(科学研究費 基盤研究(C))(大澤)
- ・洋上風況推定手法に関する実海域における精度実験の基盤研究(受託研究)(大澤)
- ・秋田湾風況調査(数値シミュレーションI)(受託研究)(大澤)
- ・秋田湾風況調査(数値シミュレーションII)(受託研究)(大澤)

- ・洋上風力発電サイト評価手法の開発（共同研究）（大澤）
- ・国際海上輸送における安全性・経済性・海洋環境を統合した新しい最適運航システム（科学研究費補助金・基盤研究B）（笹）
- ・海象情報統合システムと統計フィルタによる低気圧波浪の新予報技術の開発（科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究）（笹）
- ・係留船舶の安全予測システムの開発（株式会社ソニック）（笹）
- ・イオンビームを用いた三次元構造を持つ機能性高分子シート作製に関する研究（科学研究費 基盤C）（谷池）
- ・損傷船舶の先進的安全性評価に資する数値シミュレーション手法の構築（科学研究費 基盤研究B）（橋本）
- ・粒子法と有限要素法を組み合わせた強非線形流体・構造連成解析法の構築（科学研究費 挑戦的萌芽研究）（橋本）
- ・目標指向型復原性基準に関する調査研究（受託研究費）（橋本）
- ・平成26年度未来のみなとづくり助成（一般財団法人みなと総合研究財団）（林）
- ・大気中PM2.5濃度予測精度向上のための二次有機粒子シミュレーションの精緻化（科学研究費基盤C・基金）（山地）
- ・瀬戸内海周辺地域を対象としたPM2.5汚染評価モデルシステムの構築（平成26年度学術研究助成 財団法人ひょうご科学技術協会一般学術研究）（寄付金）（山地）
- ・石炭灰造粒物の硫化物イオン吸着特性に関する研究（中国電力株式会社共同研究）（浅岡）
- ・アッシュクリートを用いた浄化試験（株式会社環境総合テクノス共同研究）（浅岡）
- ・灰セラミックによる排ガス処理材の開発研究（住友共同電力株式会社・株式会社住共クリーンセンター共同研究）（浅岡）

## 2013年度

- ・製鋼スラッグの深堀埋め戻し材としての適用性評価（その2）（共同型協力研究）（岡村）
- ・次世代燃料を用いた船用機関からの排ガスが水環境に及ぼす影響評価（科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究）（岡村）
- ・蛍光飛跡検出素子を用いた中性子・荷電粒子・ $\gamma$ 線対応型高機能個人線量計の開発（科学研究費補助金 基盤B）（小田）
- ・シルセスキオキサンを用いたスーパーガスバリア膜の開発（共同型協力研究：東レ・ファインケミカル株）（蔵岡）
- ・多糖類を用いた有機-無機ハイブリッドガスバリア膜の開発（研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP））（蔵岡）
- ・ポリヒドロキシウレタン系有機・無機ハイブリッド材料の研究（共同型協力研究：三菱ガス化学株）（蔵岡）
- ・層状複水酸化ナノシートを用いた機能性膜の研究（共同型協力研究：テイカ株）（蔵岡）
- ・マイクロ波放射計、散乱計及びメソ気象モデルを用いた洋上風力資源量推定手法の開発（千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用一般研究）（香西）
- ・メタンガス選択分離膜及び二酸化炭素選択分離膜の開発（共同型協力研究：東洋ゴム工業株）（蔵岡）
- ・金属凝集系と水素の反応熱に関する研究（(株)テクノバ共同型協力研究）（古山）
- ・認知心理学成果を組み込んだストループ検査の現代化（基盤研究C）（嶋田）



- ・緩和項を持つ偏微分方程式の消散構造の研究と安定性解析への応用（科学研究費，若手研究 B）（上田）
- ・ブイ観測・数値計算ハイブリッド型洋上風況調査システムの研究開発（科学研究費 基盤研究(C)）（大澤）
- ・日本沿岸での実使用に耐える高精度沿岸海上（受託研究）（大澤）
- ・国際海上輸送における安全性・経済性・海洋環境を統合した新しい最適運航システム（科学研究費補助金・基盤研究 B）（笹）
- ・海象情報統合システムと統計フィルタによる低気圧波浪の新予報技術の開発（科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究）（笹）
- ・イオンビームを用いた三次元構造を持つ機能性高分子シート作製に関する研究（科学研究費 基盤 C）（谷池）
- ・船舶からの一酸化二窒素排出実体把握と削減手法の評価（科学研究費 基盤 C（林）
- ・石炭灰造粒物の硫化物イオン吸着特性に関する研究（中国電力株式会社共同研究）（浅岡）
- ・リサイクル材と高濃度酸素水供給によるハイブリッド型の底泥分解法の開発（松江土建株式会社共同研究）（浅岡）
- ・フライアッシュとセメントを混合した硫化物イオン吸着材の開発（科学研究費，若手研究 B）（浅岡）

## 8. 外部資金獲得状況（分担者）（2013 年度から 2016 年度）

### 2016 年度

- ・風力発電等技術研究開発／洋上風力発電等技術研究開発／洋上風況観測システム実証研究（洋上風況マップ）（受託研究、代表：大澤）（香西）
- ・災害発生時の警告音声に対する認知特性への接近（科研萌芽研究）（嶋田）
- ・キャビテーション噴流による水中衝撃波の生成・制御に関する研究：舶用技術への新展開（基盤研究(B)）（課題番号：16H04600）（神戸大学大学院海事科学研究科 阿部晃久代表）（H28～H31）（分担：三村）
- ・金属水素間新規熱反応の現象解析と制御技術（NEDO-MHE）（受託研究代表（株）テクノバ）（神戸大学 古山）
- ・放射線影響研究と防護基準策定に関する科学史的研究（科学研究費 基盤 B）（東京海洋大学 柿原泰）（山内）
- ・微視的乱流と大域的揺らぎの同時計測による磁場閉じ込めプラズマにおける熱輸送の研究（科学研究費 基盤 C）（核融合研 井戸毅）（谷池）
- ・地球環境規制と復原性基準を両立させるための船舶性能評価法の構築（科学研究費 基盤研究 A）（大阪大学 梅田直哉）（橋本）
- ・地球規模に拡大する液体輸送のスロッシング影響を加味した船舶の最適運航システム（科学研究費 基盤研究 B）（神戸大学 笹健児）（橋本）
- ・波浪中を航行する船の運動モデルに関する逐次データ同化（科学研究費 基盤研究 B）（水産研究・教育機構 寺田大介）（橋本）
- ・津波マリンハザード研究講座（奨励寄附金 公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金）（神戸大学 内田 誠）（林）
- ・北極域研究推進プロジェクト（代表 深澤理郎）（受託研究）（山地）
- ・大気中の二次汚染物質に対する発生源寄与推計と 対策立案に資する規範的モデルの確立

## 2 (受託研究) (代表: 茶谷聡) (山地)

- ・アジアのオゾン汚染の実態把握と越境汚染の影響評価: 衛星観測と化学輸送モデルの比較 (科学研究費基盤B) (代表: 林田佐智子) (山地)
- ・北極国際法秩序の構想: 科学・環境・海洋・組織 (科学研究費基盤B) (代表: 柴田明穂) (山地)
- ・安芸灘における転送効率解析および他海域への展開方法の確立 (環境省環境総合研究推進費) (広島大学受託研究) (浅岡)
- ・相対論領域におけるクラスター媒質中での相乗的イオン加速機構の解明 (科学研究費 基盤研究 A) (量研機構関西光科学研究所 福田祐仁) (金崎)

## 2015 年度

- ・風力発電等技術研究開発/洋上風力発電等技術研究開発/洋上風況観測システム実証研究 (洋上風況マップ) (受託研究、代表: 大澤) (香西)
- ・ブイ観測・数値計算ハイブリッド型洋上風況調査システムの研究開発 (科学研究費 基盤研究(C)) (代表: 大澤) (香西)
- ・災害発生時の警告音声に対する認知特性への接近 (科研萌芽研究) (嶋田)
- ・金属水素間新規熱反応の現象解析と制御技術 (NEDO-MHE) (受託研究代表 (株) テクノバ) (神戸大学 古山)
- ・微視的乱流と大域的揺らぎの同時計測による磁場閉じ込めプラズマにおける熱輸送の研究 (科学研究費 基盤C) (核融合研 井戸毅)(谷池)
- ・地球環境規制と復原性基準を両立させるための船舶性能評価法の構築 (科学研究費 基盤研究 A) (大阪大学 梅田直哉) (橋本)
- ・津波・船舶複合連鎖系解析システム構築 (科学研究費 基盤研究 A) (神戸大学 小林英一) (橋本)
- ・波浪中を航行する船の運動モデルに関する逐次データ同化 (科学研究費 基盤研究 B) (水産総合研究センター 寺田大介) (橋本)
- ・津波マリンハザード研究講座(奨励寄附金 公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金) (神戸大学 小林英一) (林)
- ・北極域研究推進プロジェクト (代表 深澤理郎) (受託研究) (山地)
- ・広島湾における転送効率解析 (環境省環境総合研究推進費) (広島大学受託研究) (浅岡)

## 2014 年度

- ・ブイ観測・数値計算ハイブリッド型洋上風況調査システムの研究開発 (科学研究費 基盤研究(C)) (代表: 大澤) (香西)
- ・海象情報統合システムと統計フィルタによる低気圧波浪の新予報技術の開発 (科学研究費萌芽研究) (大澤)
- ・瀬戸内海の高難ゼロを目指す海の ITS を利用した航海システムの構築 (科学研究費補助金・基盤研究 B) (神戸大学 塩谷茂明) (笹)
- ・高エネルギー粒子誘起ガンマ線計測法の核燃焼場への応用 (科学研究費 基盤B) (核融合研 西浦正樹)(谷池)
- ・津波・船舶複合連鎖系解析システム構築 (科学研究費 基盤研究 A) (神戸大学 小林英一) (橋本)

- ・新国際基準で求められる操船影響を考慮した波浪中船舶復原性評価法の構築 (科学研究費 基盤研究 B) (大阪大学 梅田直哉) (橋本)
- ・波浪中を航行する船の運動モデルに関する逐次データ同化 (科学研究費 基盤研究 B) (水産総合研究センター 寺田大介) (橋本)
- ・津波マリンハザード研究講座 (奨励寄附金 公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金) (神戸大学 小林英一) (林)
- ・広島湾における転送効率解析 (環境省環境総合研究推進費) (広島大学受託研究) (浅岡)
- ・相対論領域におけるクラスター媒質中での相乗的イオン加速機構の解明 (科学研究費 基盤研究 A) (量研機構関西光科学研究所 福田祐仁) (金崎)

## 2013 年度

- ・瀬戸内海の家難ゼロを目指す海の ITS を利用した航海システムの構築 (科学研究費補助金・基盤研究 B) (神戸大学 塩谷茂明) (笹)
- ・高エネルギー粒子誘起ガンマ線計測法の核燃焼場への応用 (科学研究費 基盤B) (核融合研 西浦正樹) (谷池)
- ・津波マリンハザード研究講座 (奨励寄附金 公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金) (神戸大学 小林英一) (林)
- ・次世代燃料を用いた船用機関からの排ガスが水環境に及ぼす影響評価 (科学研究費 挑戦的萌芽研究) (神戸大学 岡村秀雄) (浅岡)

## 9. 招聘した外国人研究者 (2013 年度から 2016 年度)

### 2016 年度

- ・ Dr. Vesna Lavtizar, JSPS Postdoctoral Fellowship for Overseas Researchers (Standard) (岡村)
- ・ Professor Frederick Stern (The University of Iowa, USA) Keynote lecture at Violent Flows 2016, Recent Progress in CFD for Naval Architecture and Ocean Engineering, 2016.3 (橋本)
- ・ Jie Li, Institute of Atmospheric Physics, Chinese Academy of Sciences (山地)

### 2015 年度

- ・ Emeritus Professor Robert Latorre (The University of New Orleans, USA), Special seminar, Selection of Wind Turbine Installation Vessel Capacity and Speed, Underwater Robots in USA, 2015.7 (橋本)
- ・ Jie Li, Institute of Atmospheric Physics, Chinese Academy of Sciences (山地)

### 2014 年度

- ・ Prof. Remi Barillon (The University of Strasbourg, France) (山内)
- ・ Dr. MOHAMMED ABDEL SALAM MOHAMMED ELYWA (Zagazig University, Egypt) (山内)
- ・ Geert Vinken, Eindhoven University of Technology (山地)

### 2013 年度

- ・ Dr. Nabil Mohamed Mohamed Hassan (Zagazig University, Egypt) (山内)

## 10. 特記事項

### 2016 年度

- ・ Environmental Toxicology (Wiley), Regional Editor (岡村)
- ・ 神戸市環境影響評価審査会委員 (岡村)
- ・ 日本環境毒性学会 幹事 (岡村)
- ・ 日本マリンエンジニアリング学会理事 (岡村)
- ・ 日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会幹事 (岡村)
- ・ 第86回マリンエンジニアリング学術講演会(姫路) 実行委員会委員 (岡村)
- ・ ISME(International Symposium on Marine Engineering) Tokyo 2017 実行委員会委員 (岡村)
- ・ 原子力規制庁 放射線審議会 委員 (小田)
- ・ 環境省 放射線の健康影響に係る研究調査事業 評価委員 (小田)
- ・ 環境省 大気環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会 評価委員 (小田)
- ・ 岡山県 環境放射線等測定技術委員会 副委員長 (小田)
- ・ 応用物理学会 論文賞選考委員 (小田)
- ・ テクノオーシャンネットワーク 監事 (小田)
- ・ 日本学術振興会 平成 27 年度特別研究員等審査会専門委員表彰 (小田)
- ・ CSJ Journal Selects Vol2 Hot article 47 (2013-2015) (佐藤)
- ・ 公益社団法人 神戸海難防止研究会 船積危険品研究委員会委員 (佐藤)
- ・ 公益社団法人 神戸海難防止研究会 常任調査研究員 (佐藤)
- ・ 前期全学共通教育ベストティーチャー賞 (山内)
- ・ 海事科学部教員表彰 (上田)
- ・ 国際海事機関 (IMO), 第 4 回 SDC 小委員会, 2017/02, 日本代表団 (橋本)
- ・ 環境省 越境対汚染・酸性雨対策検討会 大気モニタリングデータ総合解析ワーキンググループ 委員 (山地)
- ・ 大気環境学会 大気環境学会近畿支部 運営幹事 (山地)
- ・ 大気環境学会 都市大気モデリング分科会 代表幹事 (山地)
- ・ 第 58 回 大気環境学会年会実行委員 (山地)
- ・ Model Inter-Comparison Study - Asia Phase III Topic 1 Model Intercomparison. co-leader (山地)
- ・ 前期全学共通教育ベストティーチャー賞 (首藤)
- ・ The 12th International Workshop on Ionizing Radiation Monitoring, Excellent poster award, 2016/12 (金崎)

### 2015 年度

- ・ Environmental Toxicology (Wiley), Regional Editor (岡村)
- ・ 神戸市環境影響評価審査会委員 (岡村)
- ・ 日本環境毒性学会 幹事 (岡村)
- ・ 日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会幹事 (岡村)
- ・ 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査員 (小田)
- ・ 環境省 放射線の健康影響に係る研究調査事業 評価委員 (小田)
- ・ 環境省 大気環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会 評価委員 (小田)
- ・ 岡山県 環境放射線等測定技術委員会 副委員長 (小田)
- ・ 日本技術士会 技術士試験委員 (小田)

- ・テクノオーシャンネットワーク 監事 (小田)
- ・日本保健物理学会 第48回研究発表会最優秀ポスター発表賞 (小田)
- ・Physics Procedia (Elsevier) Guest editor (小田、山内)
- ・Radiation Measurement Vol. 83 No.1-4 (Elsevier) Guest editor (小田、山内)
- ・Bull. Chem. Soc. Jap, (12/2015) Selected paper (佐藤)
- ・公益社団法人 神戸海難防止研究会 船積危険品研究委員会委員 (佐藤)
- ・公益社団法人 神戸海難防止研究会 常任調査研究員 (佐藤)
- ・日本学術振興会 科学研究費委員会第1段審査委員 (笹)
- ・国際海事機関 (IMO), 第3回 SDC 小委員会, 2016/01, 日本代表団 (橋本)
- ・環境省 越境対汚染・酸性雨対策検討会 大気モニタリングデータ総合解析ワーキンググループ 委員 (山地)
- ・大気環境学会 大気環境学会近畿支部 運営幹事 (山地)
- ・大気環境学会 都市大気モデリング分科会 代表幹事 (山地)
- ・The 13th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality. LOCAL EXECUTIVE COMMITTEE (山地)
- ・Model Inter-Comparison Study - Asia Phase III Topic 1 Model Intercomparison. co-leader (山地)
- ・後期全学共通教育ベストティーチャー賞 (首藤)
- ・関西原子力懇談会第一回原子力関係科学技術の基礎的研究の動向調査委員会、最優秀研究発表賞、2015/10 (金崎)

## 2014年度

- ・Environmental Toxicology (Wiley), Regional Editor (岡村)
- ・神戸市環境影響評価審査会委員 (岡村)
- ・日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会委員長 (岡村)
- ・日本学術振興会 科学研究費委員会第1段審査委員 (岡村)
- ・日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査員 (小田)
- ・日本技術者教育認定機構 専門職大学院評価チーム 評価委員 (小田)
- ・環境省 放射線の健康影響に係る研究調査事業 評価委員 (小田)
- ・岡山県 環境放射線等測定技術委員会 委員 (小田)
- ・日本原子力学会 フェロー (小田)
- ・日本技術士会 技術士試験委員 (小田)
- ・テクノオーシャンネットワーク 監事 (小田)
- ・日本保健物理学会 平成25年度学生研究優秀賞 (小田)
- ・日本学術振興会 科学研究費委員会第1段審査委員 (笹)
- ・科学研究費委員会審査第3部会 工学小委員会 審査委員 (佐藤)
- ・前期海事科学部ベストティーチャー賞 (上田)
- ・国際海事機関 (IMO), 第2回 SDC 小委員会, 2015/02, 日本代表団 (橋本)
- ・環境省 越境対汚染・酸性雨対策検討会 大気モニタリングデータ総合解析ワーキンググループ 委員 (山地)
- ・大気環境学会 大気環境学会誌 編集委員 (山地)
- ・大気環境学会 大気環境学会近畿支部 運営幹事 (山地)
- ・Model Inter-Comparison Study - Asia Phase III Topic 1 Model Intercomparison. co-leader (山地)

## 2013 年度

- Environmental Toxicology (Wiley), Regional Editor (岡村)
  - 神戸市環境影響評価審査会委員 (岡村)
  - 日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会委員長 (岡村)
  - 第3回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」実行委員長 (岡村)
  - 第83回マリンエンジニアリング学術講演会(静岡) 実行委員会委員 (岡村)
- 日本学術振興会 科学研究費委員会第1段審査委員 (岡村)
- 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査員 (小田)
  - 岡山県 環境放射線等測定技術委員会 委員 (小田)
  - 日本技術士会 技術士試験委員 (小田)
  - テクノオーシャンネットワーク 監事 (小田)
  - 前期全学共通教育ベストティーチャー賞 (上田)
  - 環境省 越境対汚染・酸性雨対策検討会 大気モニタリングデータ総合解析ワーキンググループ 委員 (山地)
  - 大気環境学会 大気環境学会誌 編集委員 (山地)
  - Model Inter-Comparison Study - Asia Phase III Topic 1 Model Intercomparison. co-leader (山地)